第2節　瓦

還元炎燃成の灰色瓦（いわゆる明式瓦・明朝系瓦）が破片で出土しており86点確認されている。出土状況はⅠ層とⅡ層上部で占有的に出土、第Ⅳ期後の遺物と推定される。おそらく監守の引き上げ以後かつて「火の神祠」の屋根にのっていたもの、あるいはそれに近い祠等の施設のものと考えられる。軒平・軒丸は確認されておらず全て平瓦・丸瓦である。**①平瓦**（第84図-1～2）は無文様で、整形は凸面はナデ調整で整形され、凹面は布目と桶を繋ぐ紐の痕が残る。桶の板幅は約6cm前後である。狭部は同図-1で約16cmを計る。桶の上部では直径約26cmであったと想定される。穴を穿つ資料が1点得られており、瓦を釘で打ち付けたと判断される。

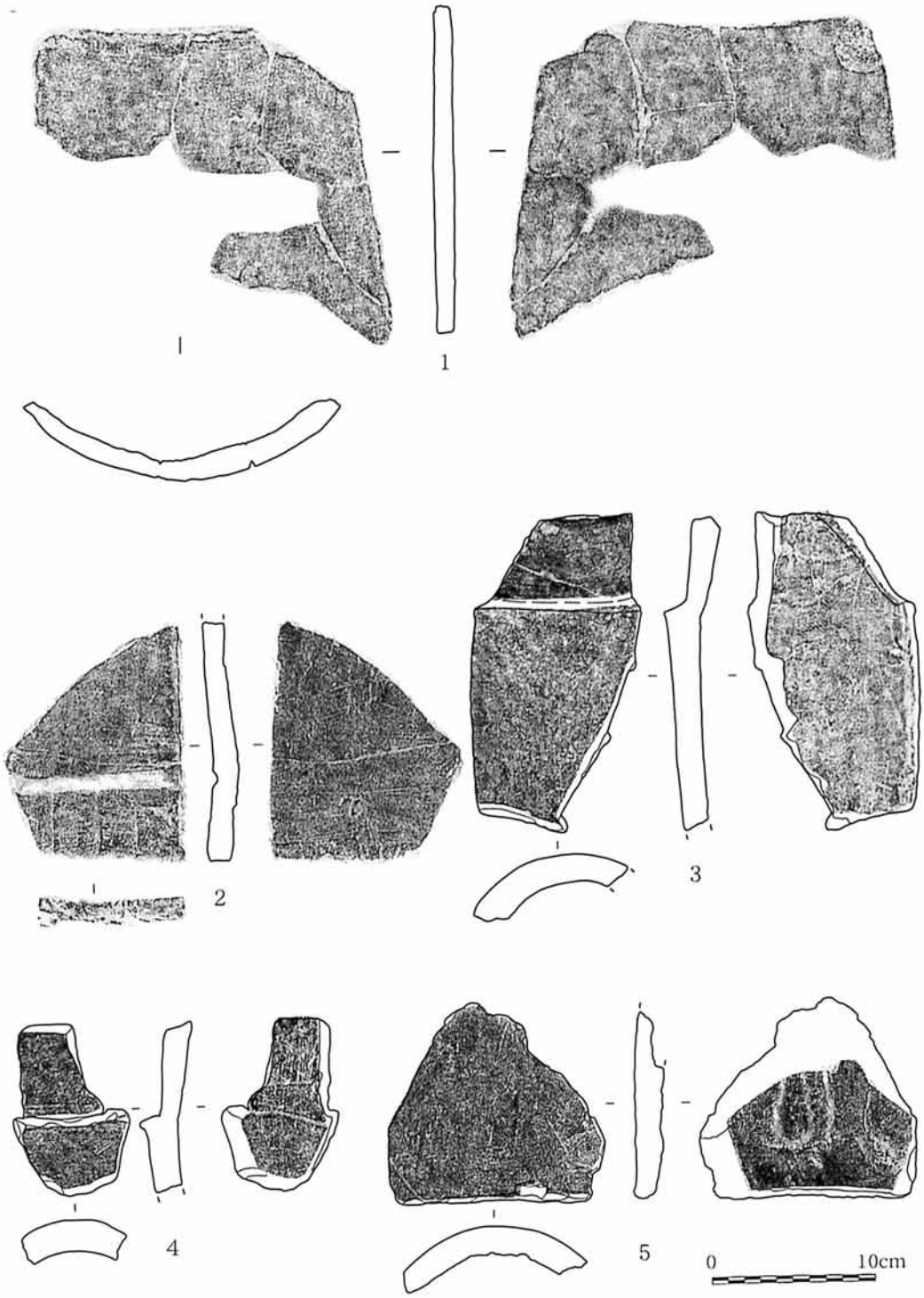
②丸瓦（第84図-3～5）は、玉縁が比較的明瞭に造られ、側縁部は割った状態そのままである。同図-3・4は玉縁を残す資料、同図-5は端部の資料である。

	丸瓦					平瓦					不明	総計
	玉縁	段部	筒部	端部	小計	狭部	広部	筒部	有穴	小計		
第Ⅰ層	1	1	3		5	3	2	3		8	15	28
第Ⅱ層上部	2	1	1	1	5	4	1	8	1	14	10	29
第Ⅱ層下部											2	2
第Ⅴ層								1		1		1
第Ⅶ層											1	1
東壁内	1		1		2	1				1		3
西壁内		1			1		1	2		3	3	7
南壁内		3			3							3
北壁内						1				1		1
土坑							1	1		2	3	5
その他						3				3	3	6
計	4	6	5	1	16	12	5	15	1	33	37	86

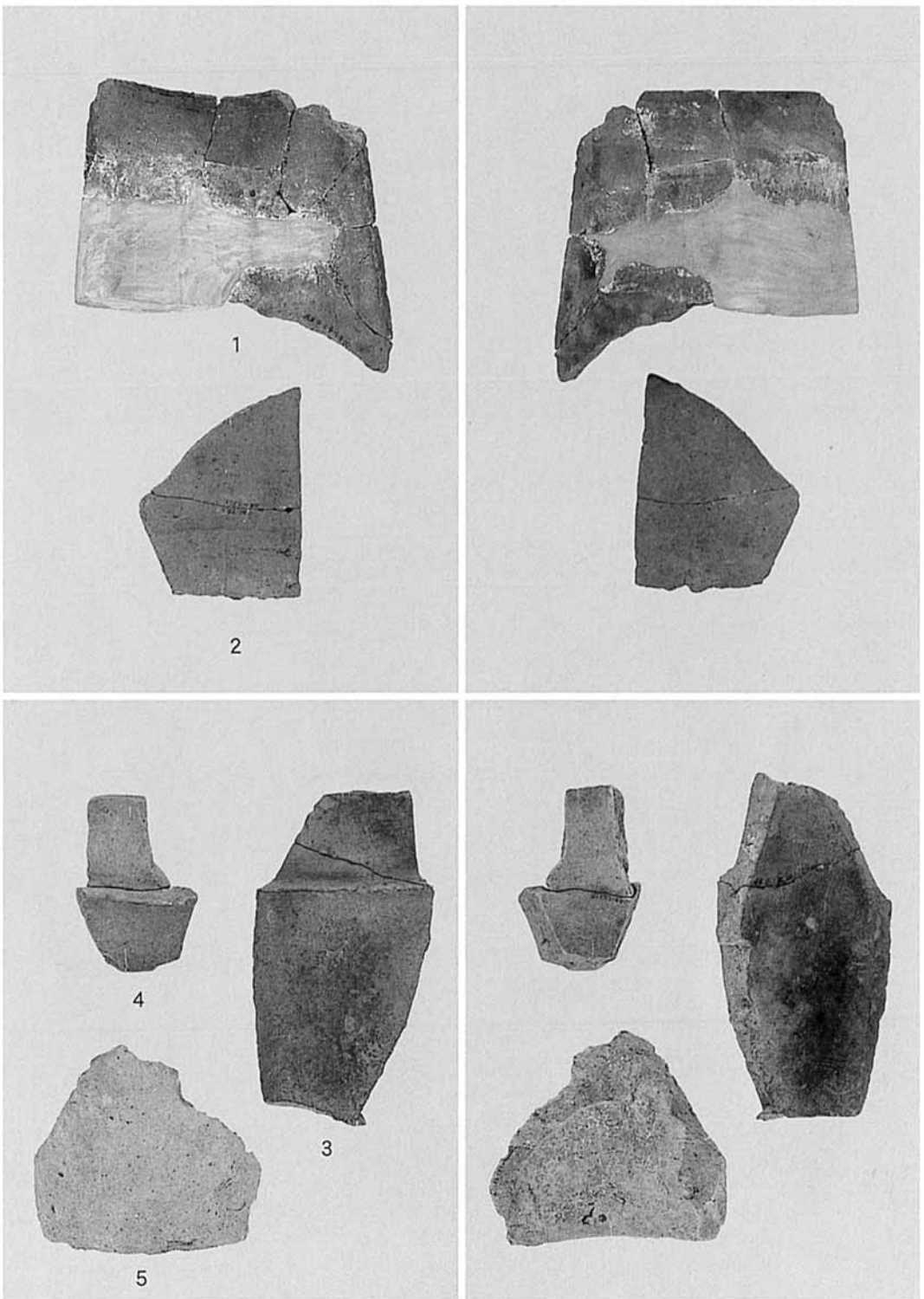
第53表　出土瓦一覧表

図番号 PL	分類	部位	寸法(cm)			玉縁	出土
			全長	幅	厚さ	長さ	地点（層位）
第84　図-1 PL.99	平瓦	狭部	－	19.6	1.1	－	E-1（Ⅰ）、C-3（Ⅰ）、D-1東壁内
第84　図-2 PL.99	〃	広部	－	残11.3	2	－	D-2（Ⅰ）、C-2（Ⅰ）
第84　図-3 PL.99	丸瓦	玉縁	－	残10.2	2.2	4.5	B-1（Ⅱ上）
第84　図-4 PL.99	〃	〃	－	残　7.1	2.3	5	B-1（Ⅱ上）、B-2（Ⅱ上）
第84　図-5 PL.99	〃	端部	－	残13.2	1.6	－	?-3（Ⅱ上）

第54表　瓦観察表



第 84 図 (PL.99)　瓦　1・2. 平瓦　3 ～ 5. 丸瓦



PL.99(第 84 図)　瓦　1・2. 平瓦　3 ～ 5. 丸瓦

第３節　玉

形状から大別して勾玉・管玉・丸玉の３類に、丸玉は大きさや材質等を考慮してさらに３種に分類できる。また、形態・色調などから細分可能かと考えられるが、以下のように分類した。玉類は伝世品としてノロによって引き継がれ、今帰仁城跡は祭祀場として今泊区や今帰仁上りなどの祭祀がとりおこなわれている（PL.33-2 参照）。PL.100 は阿応理屋恵ノロの所有する勾玉と草履である[註52]。あるいは出土した玉類もこのような祭祀に伴うものである可能性も高い。今回発掘で出土した今帰仁城跡出土品はいずれも包含層からの出土で祭祀との関連性などは不明だが、稲福遺跡上御願地区では小ピットより 200 個近くの丸玉の出土が報告されており興味深い[註53]。

Ⅰ類【勾玉】（第 85 図-1 ～ 3）　勾玉は３個検出された。材質はガラス製と石製、大きさについても大小確認できる。

Ⅱ類【管玉】（第 85 図-4 ～ 9）　形状が管状をなすもので丸玉とほぼ同じ製作法で作られる。

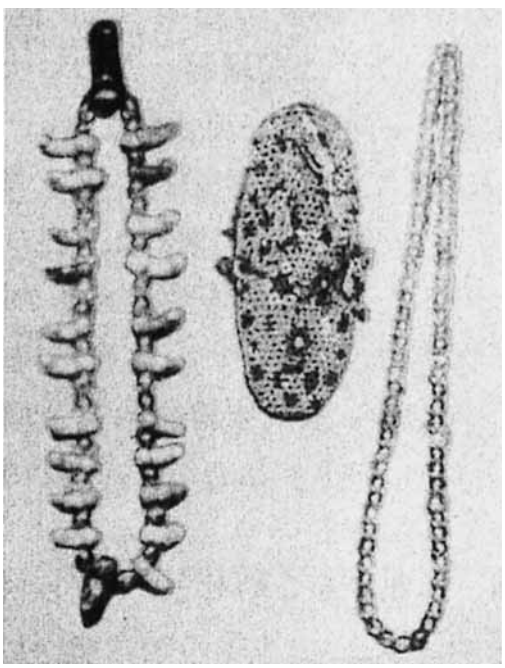
Ⅲ類【丸玉】（第 85 図-10 ～ 37）　小玉、臼玉、ビーズとされるもので形状は球状のものを意図しつつも偏球的なものもある、大きさについては同図-4 に図示する約 35mm を最大に 3mm 以下のものまで大小あり漸次的で明瞭な区分基準は設けにくい。暫定的に以下の基準に基づき３種に細分した。

ａ種（第 85 図-5）　35 ～ 50mm 前後と比較的大きく、透明度の高い水晶玉で、阿応理屋恵ノロの他村内では今帰仁ノロ、中城ノロがが伝世品として所有するものに近似する。

ｂ１種（第 85 図-11・12）　20 ～ 5mm を計る丸玉で材質が水晶と考えられる資料。

ｂ２種（第 85 図-12 ～ 16）　20 ～ 5mm の丸玉で材質がガラス製のもの

ｃ種（第 85 図-17 ～ 37）　5mm 以下の小玉で、溶解したガラスを１～３回程度棒状工具に巻き上げる資料。



PL.100　阿応理屋恵ノロの勾玉
（参考資料、県指定文化財）

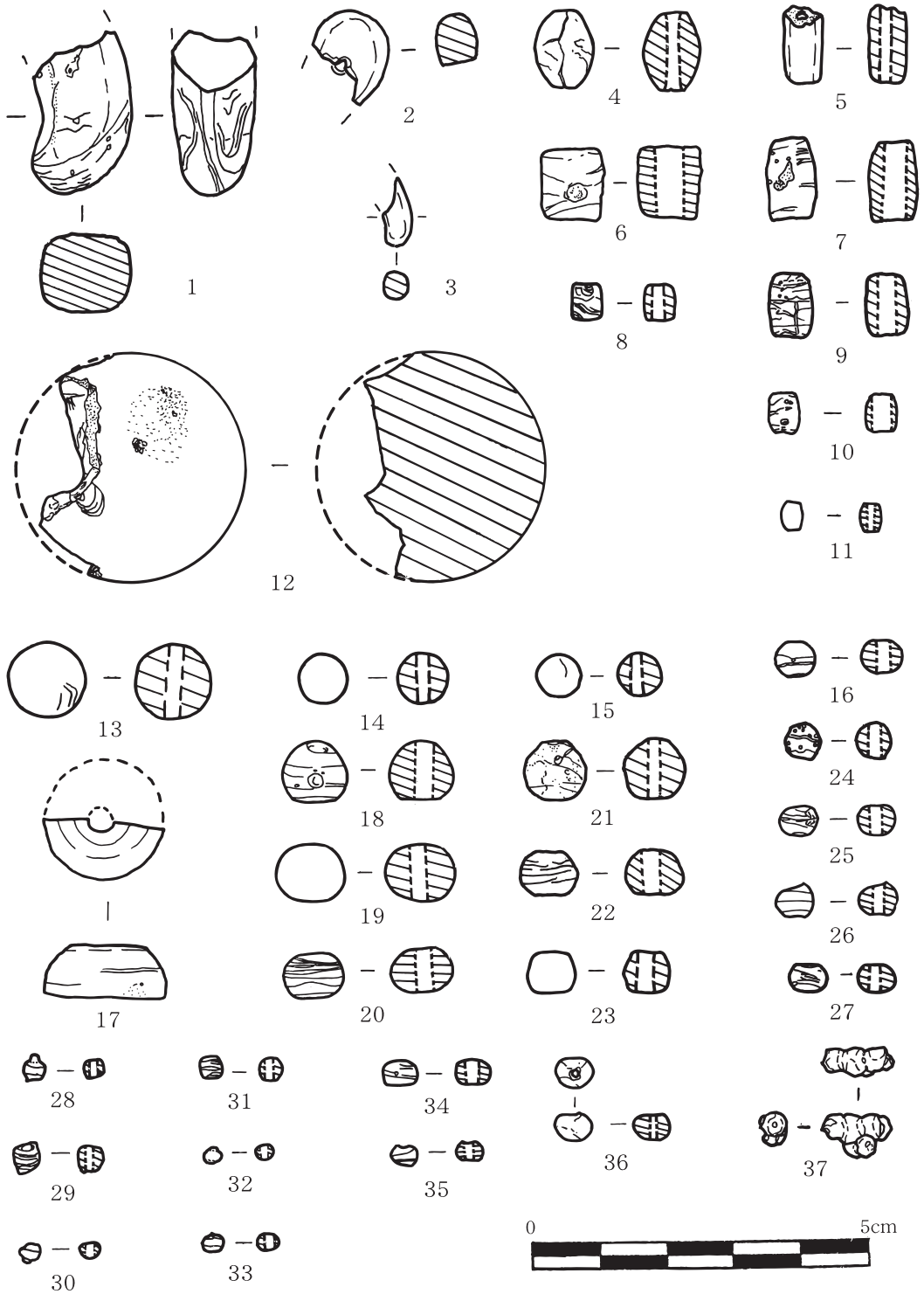
註文献

52. 平敷令治　1983 年「阿応理屋恵」『沖縄大百科事典』沖縄タイムス社
53. 沖縄県教育委員会編 1983 年　『稲福遺跡発掘調査報告書』沖縄県文化財調査報告書第 50 集

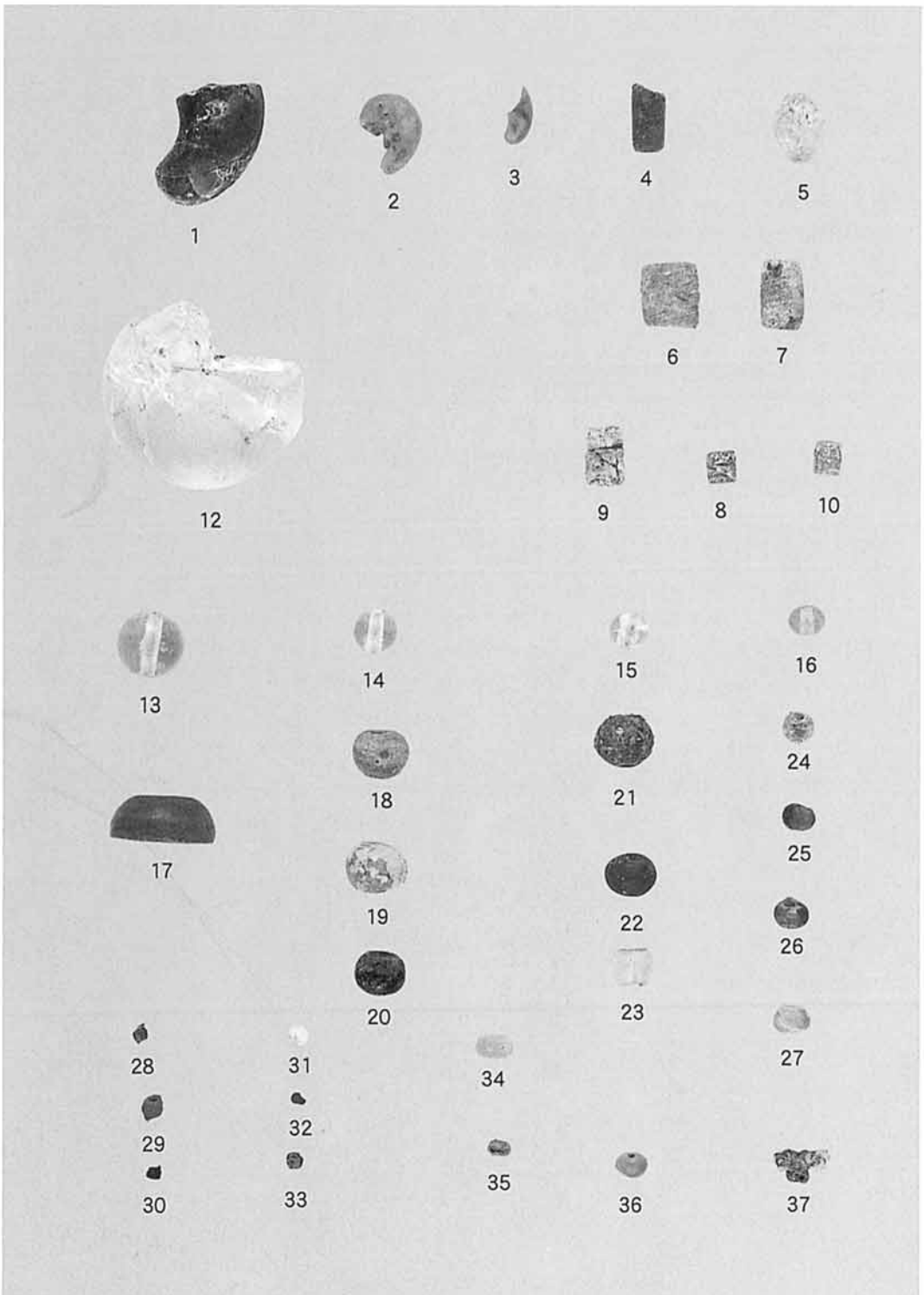
図	PL.	番号	分類	材質	色調	計測値（単位＝mm・g）				出土	
						長さ	孔径	幅	重量	地点	層
第85図	101	1	勾玉	ガラス	鈍い緑みの青	19.82	－	13	8.65	E-2	Ⅶ
第85図	101	2	勾玉	石	緑の白	11.61	1.58	6.72	1.32	C-1	〃
第85図	101	3	勾玉	ガラス	緑	10.24	－	4.99	0.32	D-2	Ⅱ上
第85図	101	4	管玉	ガラス	透明	11.72	1.42	8.51	1.12	第1号土坑	
第85図	101	5	管玉	ガラス	明るい灰みの青	11.8	1.91	5.68	0.54	北側石垣	Ⅶ
第85図	101	6	管玉	ガラス	水色	10.95	4.52	9.37	1.4	D-2	Ⅱ上
第85図	101	7	管玉	ガラス	〃	11.51	3.75	7.31	0.91	E-2	Ⅶ
第85図	101	8	管玉	ガラス	水色	10.19	2.64	5.99	0.57	E-2	〃
第85図	101	9	管玉	ガラス	〃	5.59	2.99	4.8	0.12	E-2	〃
第85図	101	10	管玉	ガラス	〃	5.52	2.7	5.27	0.19	E-3	〃
第85図	101	11	管玉	ガラス	薄い青緑	4.42	1.11	3.19	0.06	E-1	〃
第85図	101	12	丸玉	水晶	透明	21.47	－	34.7	24.56	CD-3	Ⅱ上
第85図	101	13	丸玉	水晶	〃	11.3	1.94	11.4	2.11	今本C-1	〃
第85図	101	14	丸玉	水晶	〃	7.36	1.61	7.7	0.58	今本B-3	〃
第85図	101	15	丸玉	水晶	〃	6.42	1.82	6.92	0.38	今本E-2	〃
第85図	101	16	丸玉	水晶	〃	4.92	1.44	6.34	0.27	B-1	〃
第85図	101	17	丸玉	ガラス	鈍い緑みの青	18.23	3.67	18.18	0.3	B-1	Ⅶ
第85図	101	18	丸玉	ガラス	水色	8.24	2.73	9.51	1.05	F-1	試掘
第85図	101	19	丸玉	ガラス	明るい黄みの橙	8.56	2.53	10.64	1.88	E-1	Ⅶ
第85図	101	20	丸玉	ガラス	赤みのある黒	9.1	1.85	10.1	1.46	B-1	Ⅱ上
第85図	101	21	丸玉	ガラス	暗い緑	6.41	2.17	8.82	0.92	今本	撹乱
第85図	101	22	丸玉	ガラス	黒	6.64	2.23	8.69	0.86	E-2	Ⅶ
第85図	101	23	丸玉	ガラス	浅い緑みの青	4.84	1.51	5.88	0.25	E-1	Ⅶ
第85図	101	24	丸玉	ガラス	緑みの白	4.93	1.9	5.38	0.19	E-3	〃
第85図	101	25	丸玉	ガラス	さえた緑みの青	4.75	1.54	5.13	0.16	B-1	Ⅱ上
第85図	101	26	丸玉	ガラス	濃い赤紫	4.18	1.97	5.98	0.29	E-1	Ⅶ
第85図	101	27	丸玉	ガラス	浅い黄緑	4.53	2.01	6.3	0.28	今本	〃
第85図	101	28	丸玉	ガラス	濃い黄みのある橙	2.4	1.21	2.86	0.03	B-3	Ⅱ上
第85図	101	29	丸玉	ガラス	灰みのある明るい青	3.7	1.4	3.9	0.07	B-3	〃
第85図	101	30	丸玉	ガラス	濃い青紫	2.04	1.29	2.69	0.02	B-3	〃
第85図	101	31	丸玉	ガラス	白	2.71	1.47	3.62	0.03	E-3	Ⅶ
第85図	101	32	丸玉	ガラス	暗い赤褐色	1.64	1.1	2.75	0.02	B-3	Ⅱ上
第85図	101	33	丸玉	ガラス	〃	2.33	1.18	2.88	0.05	B-3	〃
第85図	101	34	丸玉	ガラス	薄い緑みの青	4.1	2.42	6.34	0.24	B-3	Ⅱ
第85図	101	35	丸玉	ガラス	濃い青緑	2.89	1.22	3.96	0.08	B-1	Ⅱ上
第85図	101	36	丸玉	石	さえた橙	3.83	0.79	5.69	0.14	今本B-1	〃
第85図	101	37	丸玉	ガラス	暗赤褐色・さえた黄	6個癒着			0.23	B-3	〃

第55表　玉観察表

※色調の色名については色相と明度・彩度を示す修飾語を付して区分した。



第 85 図 (PL.101)　玉　1 ～ 3. 勾玉　4 ～ 11. 管玉　12 ～ 37. 丸玉



PL.101(第 85 図)　玉　　1 ～ 3. 勾玉　4 ～ 10. 管玉　12 ～ 37. 丸玉

第４節　煙管

雁首は材質形状から瓦質土器の二次製品と、銅製品に２大別され、前者の未製品と思われる方形の瓦質土器加工品が確認されている。

Ⅰ類　瓦質土器加工二次製品雁首

第86図-1は瓦質土器あるいは瓦を利用し雁首を作り出した資料で、古我知原古墓[註54]などで釣鐘形陶製として報告例があり、今帰仁城跡周辺遺跡[註55]では類似品で石製の加工品が出土している。同図-2は雁首を作り出す途上の製品と推定される。

Ⅱ類　銅製雁首

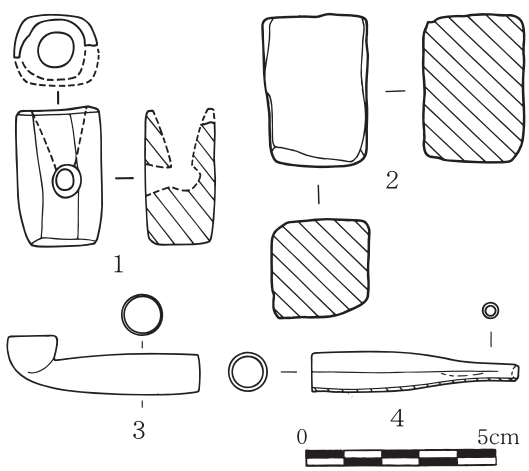
同図-3・４は銅製の煙管で前者は雁首・後者が吸い口で両者セットで出土している。

註文献

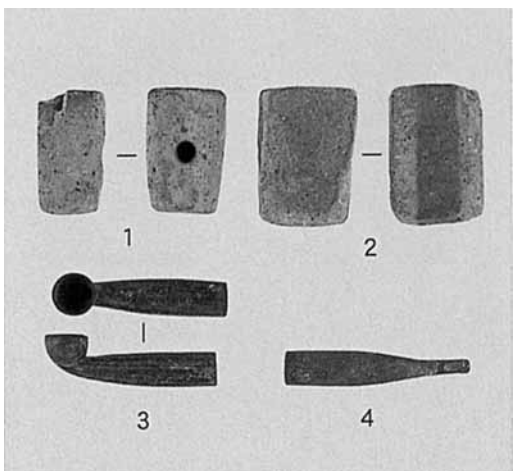
54. 沖縄県教育委員会編　1987年『古我地原内古墓』沖縄県文化財調査報告書第85集
55. 今帰仁村教育委員会編　1986年『今帰仁城跡周辺遺跡範囲確認調査報告書』今帰仁村文化財調査報告書第12集

図番号	ＰＬ	枝番号	分類	部位	計　測　値（mm・g）				出　土		観察
					長さ(幅)	高さ	羅宇径	重量	地点	層位	
第86図	PL.102	1	Ⅰ類	雁　首	19.29	39.12	9.96	16.9	A-3	Ⅱ上	火皿口縁煤ける
第86図	PL.102	2	〃	雁　首	28.71	98.96	－	46.0	盛　土		未製品
第86図	PL.102	3	Ⅱ類	雁　首	58.13	19.69	8.51	9.8	B-3	東壁内	
第86図	PL.102	4	〃	吸い口	59.89	18.78	8.39	7.8	B-3	Ⅰ	

第56表　煙管観察表



第86図（PL.102）　煙管



PL.102（第86図）　煙管

第５節　遊具

遊具はサイコロと円盤状製品に大別され後者は素材や加工方法形状等によって更に２つに大別することができる。

①賽子（第 87 図-1 ～ 4）　骨製又は石製で方形に加工した後に表裏合わせて７になるよう点刻する。骨製品で報告した資料（第 114 図-3）に賽子の未製品と思われる加工痕を有するジュゴン骨が出土しており本地点で製作していたことを確認するとともに、行程や技術を知る上で貴重な資料を提供している。類似品が勝連城跡[註56]でも出土している。

②円盤状製品　円盤状製品は２大別され形状によってそれぞれさらに二種に細別する。当該製品の研究は上原による研究[註57]がありこれに詳しい。

Ⅰ類　骨又は石を研磨加工するもので、彫刻を施すもの（ａ種）と無文のもの（ｂ種）に大別することができる。

Ⅱ類　陶磁器を打割加工するもで、陶磁器等の胴体部を平面観円形に整形するもの（ａ種）と腰部上半を打割し底部を取り出すことで製品とするもの（ｂ種）に大別される。

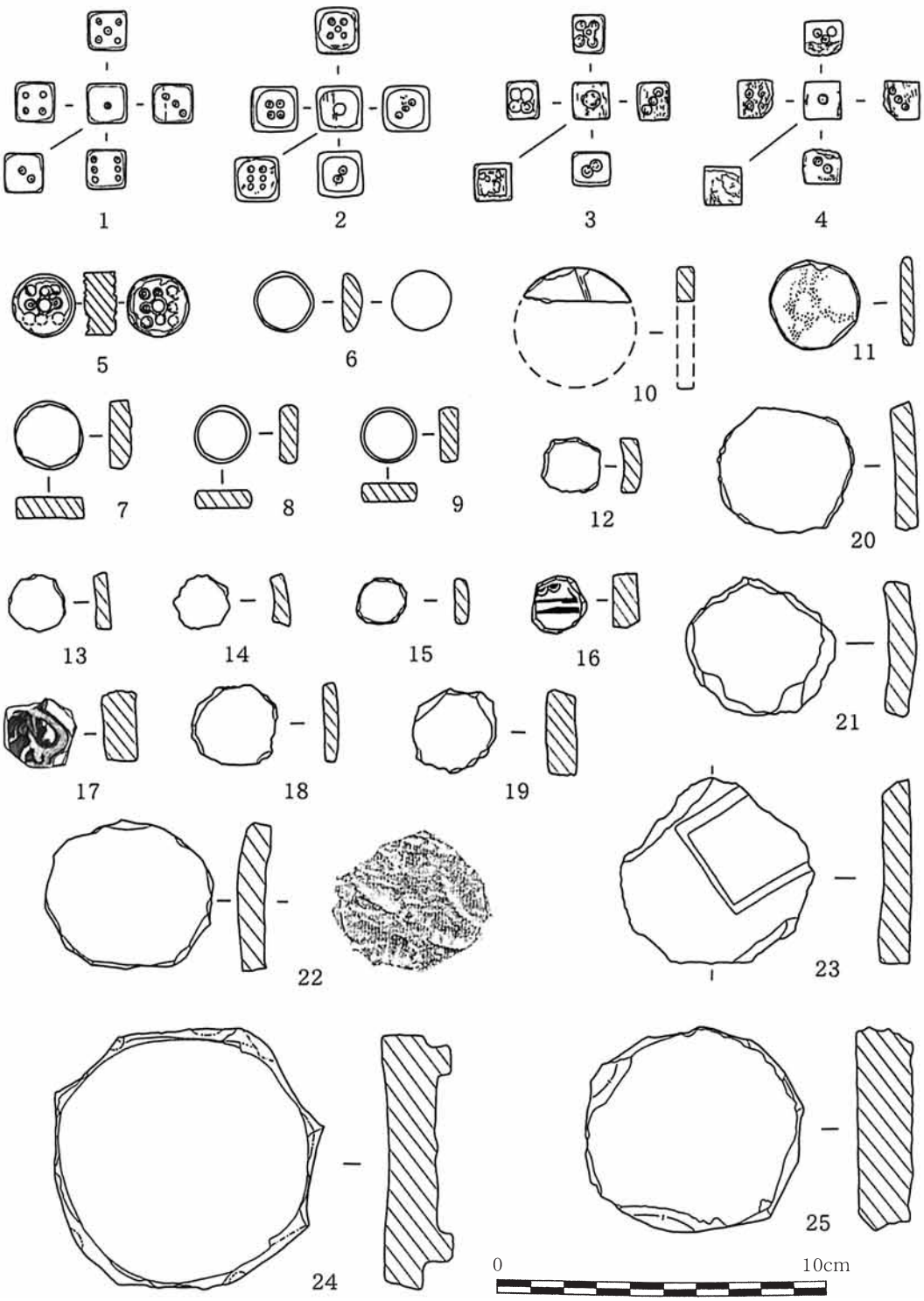
註文献

56. 勝連町教育委員会編　1990 年『勝連城跡』勝連町の文化財第 11 集

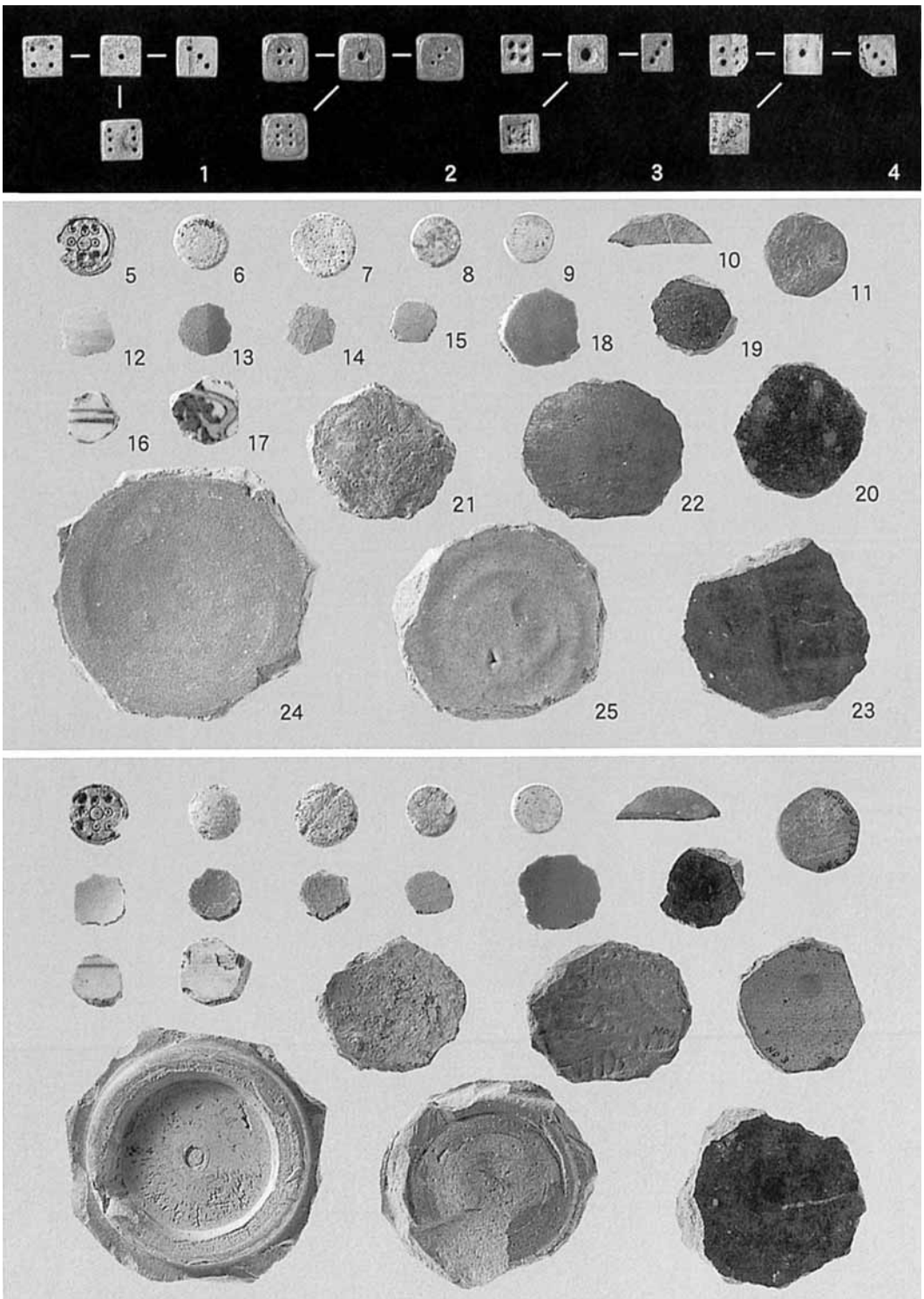
57. 上原静　1986 年「県内出土の円盤状製品について」『読谷村歴史民俗資料館紀要』第 10 号　読谷村教育委員会・読谷村歴史民俗資料館

図番号	分類	材　質	計測値（cm、ｇ）				出土地点		観　察（備考）
			長さ	幅	高さ	重量	地　点	層　位	
第 87 図-1	賽子	骨	1.1	1.1	1.1	2.8	B-1	Ⅱ層	pit 落ち込み
第 87 図-2	〃	骨	1.3	－	－	3.1	不明	不明	
第 87 図-3	〃	骨	1.1	1.1	0.9	1.7	不明	不明	
第 87 図-4	〃	骨	1.1	1.1	－	2.3	F-1	Ⅰ層	造成土
第 87 図-5	Ⅰａ	骨	1.9	1.7	1	2.9	C-3	Ⅱ層上部	円形に加工、全面研磨され表裏に９つの小円が刻まれる
第 87 図-6	Ⅰｂ	不明	1.8	1.8	0.7	2.7	A-2	Ⅰ層	ガラス？あるいは螺貝か？
第 87 図-7	Ⅰｂ	骨	2	2.1	0.7	2.3	D-1	Ⅱ層	円形に加工されている
第 87 図-8	Ⅰｂ	骨	1.6	1.6	0.6	1.9	C-1	Ⅱ層	円形に加工されている
第 87 図-9	Ⅰｂ	骨	1.6	1.7	0.6	1.9	C-1	Ⅱ層	円形に加工されている
第 87 図-10	Ⅰｂ	石	1.1	3.2	0.6	3.1	B-2	Ⅱ層	表面に溝が彫られる、字款？
第 87 図-11	Ⅰｂ	石	2.7	2.7	0.4	3.9	E-2	Ⅶ層	つくりが雑、正円にならない
第 87 図-12	Ⅱａ	青磁胴部	1.4	1.6	0.4	1.2	B-3	Ⅱ層	やや楕円形で周縁部を打割
第 87 図-13	Ⅱａ	青磁胴部	1.7	1.7	0.5	2.1	A-2	Ⅱ層	腰部を使用するためやや湾曲
第 87 図-14	Ⅱａ	白磁胴部	1.7	1.7	0.5	2.3		表土	やや方形。周縁部を打割
第 87 図-15	Ⅱａ	青磁胴部	1.6	1.7	0.5	1.8	C-3	Ⅱ層	周縁部を打割
第 87 図-16	Ⅱａ	青花胴部	1.6	1.6	0.8	3.3	D-3	表土	表・裏面文様有り
第 87 図-17	Ⅱａ	青花胴部	2.2	2.2	1	8	A-2	南壁沿表土	文様は青色、呉須の発色は良
第 87 図-18	Ⅱａ	青磁胴部	2.6	2.6	0.4	3.9	A-3	Ⅲ層	周縁部を打割
第 87 図-19	Ⅱａ	褐釉胴部	2.6	2.6	0.4	3.9	C-1	Ⅳ層	周縁部を打割
第 87 図-20	Ⅱａ	褐釉胴部	3.7	4.2	0.6	17.1	B-3	南石内	周縁部を打割、内面無釉
第 87 図-21	Ⅱａ	土器胴部	4.2	4.6	0.8	19.1	C-1	12 号土坑	周縁部を打割
第 87 図-22	Ⅱａ	須恵器胴	4.4	5	0.8	26.5	A-2	Ⅱ層	周縁部を打割
第 87 図-23	Ⅱａ	褐釉胴部	5.6	5.8	0.8	37.4	B-1	Ⅴ層	周縁部を打割、外ロクロ痕
第 87 図-24	Ⅱｂ	青磁底部	8.6	8.7	1.4	155	10 号土坑下部		腰部を打割、高台は残す、皿
第 87 図-25	Ⅱｂ	青磁底部	6.1	6.5	1.7	93.8	A-2	南壁沿表土	腰部と高台部を打割

第 57 表　遊具観察表



第 87 図 (PL.103)　遊具
1 ～ 4. 賽子　5 ～ 25. 円盤状製品



PL.103（第 87 図）　遊具
1 ～ 4. 賽子　5 ～ 25. 円盤状製品

第6節　銭貨

Ⅱ

銭貨は総数約1300点程出土しており。有文銭・無文銭に大別し主なものについて報告する。

①有文銭（第88図～第96図-1・2）　銭名から種別ごとに分類した。最も出土点数の多いものは洪武通寶（第93図・第94図-1～19）で次いで永樂通寶（第94図-20～24）であった。洪武・永楽年間に山北王が明国へ入貢しており、史実からも当時の交易を窺い知る事ができ、史実と符合する出土状況が確認された。最古の例は五銖銭（第88図-1・2）で、新しいものでは1609年薩摩侵入以降にもたらされた江戸時代の寛永通寶、乾隆通寶、仙台通寶（第95図）等が見られる。特徴的な資料には外径が3cm余を計る崇寧通寶（第91図5～10）、端平通寶（第92図-7）の大銭が確認される。また、類例は少ないが加工銭が見られ、加工は方形の孔を円形に加工するもの（第89図-11・ほか）、外径の4ヶ所に抉りを入れるもの（第88図-6）、孔の四辺に抉りを入れるもの（第90図-7）などがある。他方、銭名の判読できないほど文字を消失する資料（第96図-1）、溶解・癒着したように変形する資料（第96図-2）などが見られる。

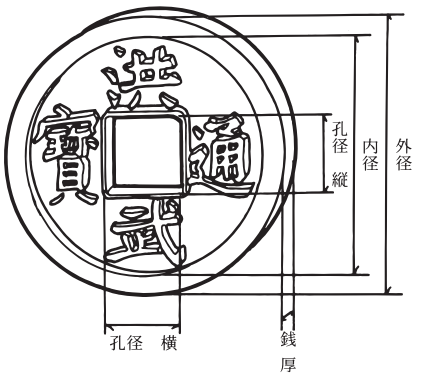
②無文銭（第96図-3～第98図）　無銭はⅠ類（第96図-3～11）2cm以上の外径を持ち銭厚は比較的厚くなり孔の大きさが小さく肉巾のあるものと、Ⅱ類（第96図12～第98図）2cm以下の外径で銭厚は比較的薄くなり穿孔の大きさは大きく肉巾のないものに大別され、さらに各類とも孔郭の形状からａ種（方形）、ｂ種（円形）に分類した。

	五銖	太貨六銖	開元通寶	乾元重寶	唐国通寶	宋通元寶	太平通寶	淳化元寶	至道元寶	咸平元寶	景徳元寶	祥符通寶	天禧通寶	天聖元寶	景祐元寶	皇宋通寶	至和元寶	嘉祐元寶	嘉祐通寶	治平元寶	治平通寶	熙寧元寶	熙寧重宝	元豊通寶	元祐通寶	紹聖元寶	元符通寶	聖宋通寶
第Ⅰ層			1									1	1	1		1			1			1	1	1				
第Ⅱ層上部	1		7						3	3	3	9	2	3	3	4	2	1	9			3	4	19	1	5		3
第Ⅱ層下部	1		2	1					1	1	1	1				1		1		1	1		2	5		6		1
第Ⅲ層																												1
第Ⅵ層										1																	1	
第Ⅴ層																					1		1		3			
第Ⅵ層									1														1	1			1
第Ⅶ層																					1		1					
第Ⅷ層																												
第Ⅸ層																												
東壁内																1												
西壁内																						1	1					
南壁内																												
北壁内																												
土廣																						1	1	1				
二期造成地内																												
攪乱																							1					
その他不明		1	1																				1			1		
計	2	1	11	1					5	5	4	11	3	4	3	7	2	2	10	1	1	6	9	32	3	14	2	6

第58表　出土有文銭集計表

凡　例

1. 本書に掲載した拓図は原寸とした。紙面の都合上、有文銭は銭文の判読できる面のみとした。無文銭は表裏とも拓図した。
2. 銭貨の名称については、銭文のとおり記載した。
3. 銭貨の計測については、有文銭は外縁外径と外縁内径を、無文銭の外縁は縦・横を計測した。孔径については縦横を計測、銭厚は銭の厚みを計測した。計測にはデジマジックキャリパを、量目の計測には電子天秤を利用した。



崇寧通寶	大觀通寶	政和通寶	宣和通寶	建炎通寶	乾道元寶	淳熙元寶	嘉泰通寶	端平通寶	嘉熙通寶	淳祐元寶	景定元寶	皇宋元寶	至大通寶	洪武通寶	永樂通寶	寬永通寶	乾隆通寶	仙台通寶	○○元寶	○○通寶	○通○	○元○	○○○寶	完形不明	破片不明		計
	1		1											9	9	9		1	2	1					13	第　I　層	55
10	4	1	1	1	1	2		2	1	1			1	94	95	12		1	11	3	38	13	3	4	67	第 II 層上部	451
1	4	4				2					1	1		34	34				3	3	21	8	64		162	第 II 層下部	368
		4				1								5	1								1		126	第　III　層	139
1						2								7	6						1				1	第　VI　層	20
1						1	1						1								1				1	第　V　層	11
1															1											第　VI　層	6
	1	1												1	1										1	第　VII　層	7
																										第　VIII　層	
																										第　IX　層	
																								1		東　壁　内	2
	1	1												2	2	1									7	西　壁　内	16
															1											南　壁　内	1
																	1							1		北　壁　内	2
										1				2	2							1				土　　坑	9
																										二期造成地内	
																										攪　　乱	1
1	3	3		1										10	2	8		3			2	2	5	1	44	その他不明	89
15	14	14	2	2	1	8	1	2	1	2	1	1	2	164	154	30	1	5	16	7	63	24	73	7	422	計	1177

図番号	PL.	枝番号	銭　名	初鋳造年（西暦）	計側値（cm・g）						備考	地点	層位
					外径	内径	孔径		銭厚	量目			
							縦	横					
88	104	1	五　銖	B.C118	—	—	—	—	8.77	0.70		A-1	Ⅱ上
88	104	2	五　銖	B.C118	—	—	—	—	0.96	1.00		B-1	Ⅱ下
88	104	3	太貨六銖	579	24.82	20.50	8.16	8.32	1.48	2.50		本丸	表採
88	104	4	開元通寶	621	24.44	18.04	5.91	6.06	1.25	3.10		A-2	Ⅱ上
88	104	5	開元通寶	621	25.56	18.05	6.14	6.21	1.65	4.10		C-3	Ⅱ上
88	104	6	開元通寶	621	23.68	19.88	6.09	6.68	1.14	3.00	加工銭	C-3	Ⅱ上
88	104	7	○元重寶	758	24.67	18.64	6.14	6.16	1.42	3.50	乾元重寶	B-2	Ⅱ下
88	104	8	唐国通寶	959	23.89	18.02	5.95	5.93	1.10	2.40		B-1	Ⅱ上
88	104	9	宋○○○	960	—	—	—	—	2.00	0.90	宋通元寶	B-3	Ⅱ上
88	104	10	○平○寶	976～98	—	—	—	—	1.20	1.10	太平通寶	B-1	Ⅱ上
88	104	11	○化○○	990	2枚重なる				3.68	8.90	淳化元寶	B-1	Ⅱ下
88	104	12	至道元寶	995	25.02	18.70	5.87	5.68	1.39	3.90		F-3	Ⅱ上
88	104	13	至道元寶	995	24.75	17.60	5.92	5.75	1.51	3.40		A-1	Ⅵ
88	104	14	咸平元寶	998	25.00	18.94	5.57	5.67	1.26	3.10		B-3	Ⅱ上
88	104	15	咸平元寶	998	24.73	18.75	5.80	5.88	1.29	3.80		C-1	Ⅵ上
88	104	16	咸平元寶	998	24.44	18.04	5.91	6.06	1.25	3.10		A-2	Ⅱ上
88	104	17	景徳元寶	1004	24.95	19.54	5.44	5.50	1.90	5.00		A-3	Ⅱ上
88	104	18	景徳元寶	1004	24.86	17.97	5.50	5.55	1.53	4.60		B-1	Ⅱ下
88	104	19	祥符通寶	1009	25.43	16.73	5.53	5.63	1.21	4.30		(B)-1	Ⅱ下
88	104	20	祥符元寶	1008	24.80	19.20	5.81	5.83	1.44	4.00		A-2	Ⅱ上
88	104	21	天禧通寶	1017	23.48	19.20	6.05	6.02	0.92	2.20		C-3	表土
88	104	22	天禧通寶	1017	25.54	19.83	6.61	6.43	1.18	2.80		A-2	Ⅱ上
88	104	23	天聖元寶	1023	24.96	20.27	6.84	6.89	1.54	3.60		B-1	Ⅵ
88	104	24	天聖元寶	1023	24.45	20.74	6.65	6.75	1.23	3.80		B-1	Ⅱ下
89	105	1	天聖元寶	1023	25.04	20.00	6.82	6.70	1.46	3.60		A-1	Ⅶ上
89	105	2	天聖元寶	1023	24.64	19.75	5.60	5.48	1.50	4.20		B-1	不明
89	105	3	景○○寶	1034	—	—	5.22	—	1.60	1.90	景祐元寶	B-1	Ⅱ上
89	105	4	皇宋通寶	1038	24.98	20.66	6.66	6.81	1.51	3.60		B-3	東壁
89	105	5	皇宋通寶	1038	24.46	19.34	7.13	7.24	1.04	2.60		A-3	Ⅱ上
89	105	6	皇宋通寶	1038	25.56	18.05	6.14	6.21	1.65	4.10		C-3	Ⅱ上
89	105	7	皇宋通寶	1038	25.34	19.66	7.02	7.01	1.93	3.80		(B)-1	Ⅱ下
89	105	8	皇宋通寶	1038	—	—	—	—	1.23	1.70		B-1	Ⅱ下
89	105	9	至和元寶	1054	23.90	18.31	5.98	5.91	1.08	2.40		B-1	Ⅱ上
89	105	10	嘉祐元寶	1056	23.76	18.26	6.26	6.66	1.66	3.70		B-1	Ⅱ下
89	105	11	嘉祐元寶	1056	23.34	17.82	7.64	7.82	1.58	3.10		B-1	Ⅱ上
89	105	12	嘉祐通寶	1056	24.76	20.85	6.10	6.46	4.55	11.10	3枚重なる	C-2	Ⅱ上
89	105	13	嘉祐通寶	1056	23.59	19.75	5.84	5.96	1.58	3.60		A-3	Ⅱ上
89	105	14	嘉祐通寶	1056	25.00	19.75	7.05	7.18	1.04	2.70		B-3	Ⅱ上
89	105	15	治平元寶	1064	—	—	—	—	1.66	2.00		B-1	Ⅱ下
89	105	16	治平通寶	1064	24.74	19.09	7.35	7.32	1.41	3.30		B-1	Ⅱ下
89	105	17	熙寧元寶	1068	24.94	19.48	6.51	6.60	1.44	3.90		大庭	Ⅱ
89	105	18	熙寧元寶	1068	23.69	17.20	6.87	6.70	2.10	3.00		E-1	Ⅶ
89	105	19	熙寧元寶	1068	24.44	18.54	6.84	6.63	1.50	3.90		大庭	表土
89	105	20	熙寧元寶	1068	24.65	19.50	6.56	6.85	1.43	3.30		A-1	SA13
89	105	21	熙寧元寶	1068	24.23	20.00	7.10	7.21	1.30	3.50		A-2	Ⅱ上
89	105	22	熙寧元寶	1068	24.50	19.00	7.05	7.17	1.32	3.20		B-2	Ⅰ
89	105	23	熙寧元寶	1068	24.51	18.85	6.84	7.03	1.13	3.20		今本	西壁
89	105	24	熙寧元寶	1068	28.51	22.51	6.79	6.57	1.85	2.50		D-3	Ⅱ上
90	106	1	熙寧元寶	1068	29.37	21.66	6.55	6.41	1.75	1.20		B-1	Ⅱ下
90	106	2	元豊通寶	1078	29.15	22.03	6.38	6.43	1.89	7.80		F-3	方形右囲
90	106	3	元豊通寶	1078	25.20	18.54	6.09	6.20	1.19	3.65		A-2	Ⅱ上
90	106	4	元豊通寶	1078	25.42	18.38	6.24	6.20	1.32	4.30		B-3	Ⅰ上
90	106	5	元豊通寶	1078	24.30	19.80	6.59	6.54	1.50	3.20		B-3	Ⅶ
90	106	6	元豊通寶	1078	21.76	16.24	6.15	6.20	1.04	1.80		B-1	Ⅱ上

第 59 表　有文銭観察表(1)

図番号	PL.	枝番号	銭　名	初鋳造年（西暦）	計側値 (cm・g)						備考	地点	層位
					外径	内径	孔径		銭厚	量目			
							縦	横					
90	106	7	元豊〇寶	1078	25.49	18.75	7.56	7.63	1.73	3.90	元豊通寶	C-1	Ⅴ上
90	106	8	元豊通寶	1078	30.46	22.38	7.52	7.36	1.74	7.60		B-1	Ⅱ上
90	106	9	元豊通寶	1078	29.72	22.33	6.89	6.78	1.54	6.10		B-1	Ⅱ下
90	106	10	元豊通寶	1078	24.92	19.64	6.51	6.29	1.55	3.60		A-3	Ⅱ上
90	106	11	元豊通寶	1078	24.57	18.98	6.40	6.48	1.65	3.90		E-2	Ⅵ
90	106	12	元豊通寶	1078	24.40	18.69	6.85	6.61	1.27	3.40		B-1	Ⅱ上
90	106	13	元豊通寶	1078	23.83	18.80	6.62	6.51	1.45	3.30		F-3	Ⅱ上
90	106	14	元祐通寶	1086	24.49	17.55	6.57	7.14	1.26	2.80		E-2	Ⅵ上
90	106	15	紹聖元寶	1094	30.14	21.86	6.63	6.56	1.64	7.20		C-1	Ⅴ上
90	106	16	紹聖元寶	1094	25.20	19.76	6.71	7.02	1.50	3.60		北側石垣	Ⅴ
90	106	17	紹聖元寶	1094	31.02	23.42	6.08	6.11	1.66	7.50		C-1	Ⅴ上
90	106	18	紹聖元寶	1094	24.70	18.21	5.98	6.54	1.36	3.70		A-3	Ⅱ上
90	106	19	紹聖元寶	1094	24.70	20.09	6.60	6.74	1.40	3.50		B-2	Ⅱ下
90	106	20	元符通寶	1098	24.61	18.70	5.40	5.26	1.64	4.20		C-1	16
90	106	21	元符通寶	1098	23.73	18.28	6.66	6.23	1.16	2.90		大庭	Ⅱ
90	106	22	元符通寶	1098	23.59	17.44	5.74	5.82	1.46	3.90		大庭	Ⅱ
91	107	1	聖宋元寶	1101	29.72	22.10	6.70	6.46	1.65	7.40		C-1	Ⅲ上
91	107	2	聖宋元寶	1101	24.95	19.10	6.10	6.15	1.37	3.10		A-2	Ⅱ上
91	107	3	聖宋元寶	1101	24.01	17.49	6.44	6.03	1.37	3.60		B-1	Ⅵ
91	107	4	聖宋元寶	1101	24.38	19.73	6.36	6.17	1.85	3.80		B-3	Ⅱ上
91	107	5	崇寧通寶	1102	34.50	30.53	7.44	7.48	2.72	12.00		B-1	Ⅱ上
91	107	6	崇寧重寶	1103	33.89	29.59	7.65	7.52	2.13	9.00		E-3	Ⅱ上
91	107	7	崇寧重寶	1103	35.04	29.56	7.60	7.61	2.01	10.50		C-1	Ⅵ上
91	107	8	崇寧重寶	1103	34.99	29.50	7.83	7.49	2.06	11.50		B-1	Ⅱ上
91	107	9	崇寧重寶	1103	34.23	28.88	7.40	7.57	1.88	8.15		C-1	Ⅴ上
91	107	10	崇寧重寶	1103	33.63	28.48	7.16	7.30	2.36	10.20		B-3	Ⅱ上
91	107	11	大〇通〇	1107	—	—	—	—	1.62	1.40	大観通寶	B-3	Ⅱ上
91	107	12	政和通寶	1111	29.14	21.28	6.12	6.18	1.65	6.60		西壁	—
91	107	13	政和通寶	1111	25.02	21.06	6.32	6.18	1.56	3.70		北側石垣	Ⅶ
91	107	14	政和通寶	1111	24.85	21.22	6.54	6.42	1.24	3.00		F-1	表土
91	107	15	政和通寶	1111	24.71	20.02	6.74	6.67	1.54	3.30		B-3	Ⅱ上
91	107	16	政和通寶	1111	24.58	19.44	5.42	5.62	1.65	3.90		C-3	Ⅱ下
91	107	17	宣和通寶	1119	24.52	22.27	6.01	6.05	2.11	5.90		B-2	Ⅰ
91	107	18	建炎通寶	1127	29.17	23.33	7.12	—	1.22	4.10		今本不明	—
91	107	19	乾道元寶	1165	—	—	—	—	1.49	2.30		C-2	Ⅱ上
92	108	1	淳熙元寶	1174	30.02	23.66	7.96	8.02	1.55	5.80		C-1	Ⅵ上
92	108	2	淳熙元寶	1174	29.69	22.17	7.55	7.63	1.73	7.20		C-1	Ⅵ
92	108	3	淳熙元寶	1174	29.41	20.50	7.03	6.93	1.37	5.70		B-1	Ⅱ上
92	108	4	淳熙元寶	1174	24.52	17.34	5.69	5.88	1.32	3.70		D-2	Ⅲ～Ⅵ
92	108	5	淳熙元寶	1174	28.57	21.06	7.58	7.70	1.73	7.00		C-1	Ⅴ
92	108	6	嘉泰通寶	1201	29.75	22.53	8.66	8.25	1.64	5.00		B-1	Ⅴ上
92	108	7	端平通寶	1234	36.54	30.40	8.70	9.00	2.80	13.70		B-1	Ⅱ上
92	108	8	〇熙〇寶	1237	—	—	—	—	1.58	3.40	嘉熙通寶	B-3	Ⅱ上
92	108	9	淳祐元寶	1241	29.77	24.97	7.79	8.09	1.79	6.50		F-1	土坑下
92	108	10	淳祐元寶	1241	24.62	19.73	11.46	10.35	—	2.70		B-3	Ⅱ上
92	108	11	景定元寶	1260	—	—	—	—	1.58	1.70		B-1	Ⅱ下
92	108	12	皇宋元寶	1253	28.24	23.23	7.28	6.97	1.33	4.60		B-1	Ⅱ上
92	108	13	至大通寶	1310	22.68	18.95	4.86	5.07	1.63	3.40		C-3	Ⅴ下
93	109	1	洪武通寶	1368	33.25	27.00	7.56	6.78	2.12	1.70		B-1	Ⅱ上
93	109	2	洪武通寶	1368	29.62	23.24	5.84	5.77	2.22	7.50		北側石垣	Ⅶ
93	109	3	洪武通寶	1368	29.95	23.28	5.56	6.04	1.83	7.20		B-1	Ⅱ下
93	109	4	洪武通寶	1368	28.62	23.07	6.54	6.24	2.97	6.20		B-3	Ⅱ上
93	109	5	洪武通寶	1368	23.10	17.83	5.36	5.34	1.86	3.40		A-3	Ⅱ上
93	109	6	洪武通寶	1368	20.42	16.95	4.54	4.42	1.60	3.20		C-1	Ⅵ上

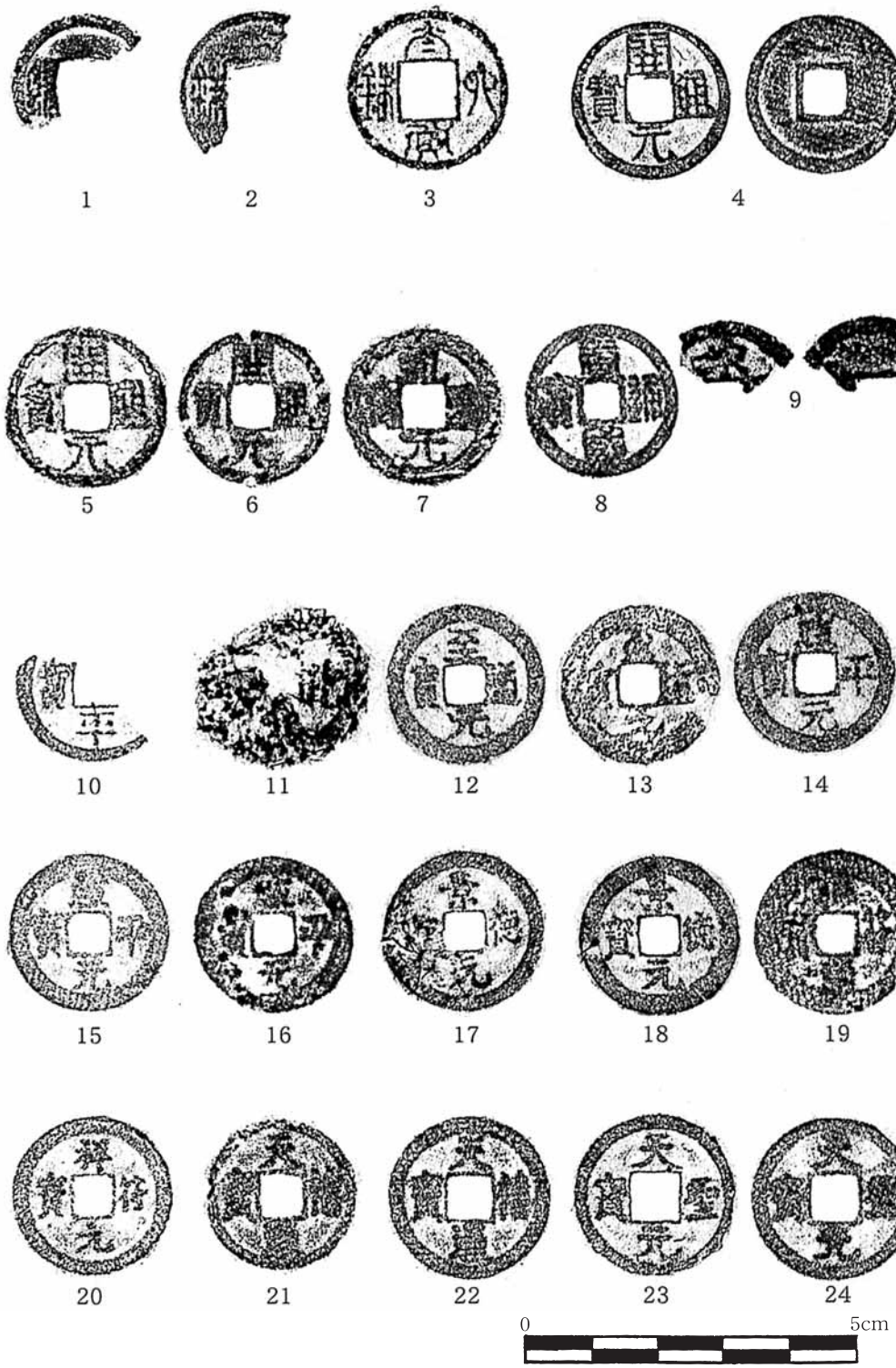
第 60 表　有文銭観察表(2)

図番号	PL.	枝番号	銭　名	初鋳造年（西暦）	計側値（cm・g）						備考	地点	層位
					外径	内径	孔径		銭厚	量目			
							縦	横					
93	109	7	洪武通寶	1368	22.95	18.17	5.35	5.56	1.64	3.30		C-1	Ⅵ上
93	109	8	洪武通寶	1368	21.06	16.48	4.30	4.50	1.95	2.00		西壁	—
93	109	9	洪武通寶	1368	21.32	16.66	4.45	4.56	1.77	2.20		B-1	Ⅱ上
93	109	10	洪武通寶	1368	24.00	19.73	5.38	5.50	1.78	3.40		B-1	Ⅱ上
93	109	11	洪武通寶	1368	23.74	20.33	5.59	5.79	1.68	2.90		B-1	Ⅱ下
93	109	12	洪武通寶	1368	24.10	20.48	5.60	5.62	1.53	3.30		B-3	Ⅱ上
93	109	13	洪武通寶	1368	23.18	18.64	5.17	5.04	1.95	4.20		A-3	Ⅱ上
94	110	1	洪武通寶	1368					2.03	2.95		大隅	表採
94	110	2	洪武通寶	1368	23.32	18.46	5.12	4.58	1.62	3.60		B-2	Ⅰ
94	110	3	洪武通寶	1368	23.40	17.30	5.52	5.30	2.03	3.50		D-1	表土
94	110	4	洪武通寶	1368	23.09	19.46	5.58	5.48	1.53	3.50		C-2	Ⅱ上
94	110	5	洪武通寶	1368	23.38	19.87	5.21	5.43	2.21	3.80		B-1	Ⅱ上
94	110	6	洪武通寶	1368	21.20	16.62	4.82	4.90	1.57	0.70		B-1	Ⅱ下
94	110	7	洪武通寶	1368	21.43	16.75	4.74	4.66	1.57	1.90		B-1	Ⅱ上
94	110	8	洪武通寶	1368	21.27	16.42	4.55	4.47	1.60	2.00		B-1	Ⅱ上
94	110	9	洪武通寶	1368	23.26	19.39	5.44	5.08	1.51	0.90		B-1	Ⅱ上
94	110	10	洪武通寶	1368	22.96	18.36	5.25	5.42	2.22	4.70		大庭	—
94	110	11	洪武通寶	1368	23.24	18.25	5.53	5.26	1.71	1.60		大庭	Ⅱ
94	110	12	洪武通寶	1368	23.55	19.32	5.33	5.25	1.64	2.70		本丸基壇	—
94	110	13	洪武通寶	1368	23.31	19.80	5.65	5.69	1.82	2.30		A-3	Ⅱ上
94	110	14	洪武通寶	1368	23.12	18.79	5.48	5.70	1.90	4.10		A-2	Ⅱ上
94	110	15	○武通○	1368	—	—	5.42	—	1.66	2.50	洪武通寶	B-1	Ⅵ
94	110	16	○武通○	1368	—	—	—	5.46	1.50	1.70	洪武通寶	C-1	Ⅲ上
94	110	17	○武○寶	1368	—	—	—	—	1.67	1.50	洪武通寶	C-3	Ⅱ上
94	110	18	洪武通寶	1368	23.04	18.29	5.52	5.82	1.78	3.40		C-1	Ⅵ上
94	110	19	洪武通寶	1368	20.96	16.56	4.59	4.54	1.58	1.50		D-3	表土
94	110	20	永樂通寶	1408	25.21	20.75	5.49	4.93	1.38	3.40		(B)-1	Ⅱ下
94	110	21	永樂通寶	1408	24.86	20.31	5.66	5.22	1.44	2.30		C-1	Ⅶ上
94	110	22	永樂通寶	1408	25.38	20.30	5.32	5.38	1.64	1.30		A-2	Ⅱ上
94	110	23	永樂通寶	1408	25.59	20.74	5.22	4.83	1.56	3.30		B-5	Ⅱ上
94	110	24	永樂通寶	1408	25.66	20.51	5.79	5.63	1.82	1.90		今本	西壁内
95	111	1	寛永通寶	1636	24.76	18.77	5.39	5.36	1.20	3.60	古寛永	D-2	Ⅱ上
95	111	2	寛永通寶	1636	24.28	19.42	6.34	6.15	1.22	3.20	古寛永	B-3	Ⅰ上
95	111	3	寛永通寶	1636	25.05	19.39	5.91	5.70	1.14	3.50	古寛永	B-1	Ⅱ上
95	111	4	寛永通寶	1668	22.37	16.50	6.42	6.32	1.02	2.00	文銭	B-3	Ⅱ上
95	111	5	寛永通寶	1697	23.42	17.38	5.84	5.85	1.14	2.80	新寛永	B-2	Ⅱ上
95	111	6	寛永通寶	1697	25.01	18.68	5.76	5.98	1.24	3.60	新寛永	B-3	Ⅰ上
95	111	7	寛永通寶	1697	24.42	19.37	6.48	6.57	0.85	2.20	新寛永	B-3	Ⅱ上
95	111	8	寛永通寶	1697	23.30	18.76	5.95	5.98	1.11	2.90	新寛永	B-2	Ⅱ上
95	111	9	寛永通寶	1697	23.29	17.86	6.22	6.33	1.11	2.60	新寛永	A-1	Ⅱ上
95	111	10	寛永通寶	1697	24.08	18.36	5.78	5.76	1.17	3.10	新寛永	B-3	Ⅱ上
95	111	11	寛永通寶	1636	23.62	17.40	5.77	5.60	1.08	2.90	古寛永	A-2	Ⅰ上
95	111	12	寛永通寶	1636	22.60	17.48	6.28	6.28	1.10	2.40		C-3	表土
95	111	13	寛永通寶	1697	23.24	18.86	6.52	6.12	1.20	3.10	新寛永	B-3	Ⅱ上
95	111	14	寛永通寶	1697	22.40	18.57	6.29	6.26	1.10	2.20	新寛永	B-1	表土
95	111	15	寛永通寶	1697	21.84	16.81	6.50	6.58	1.04	2.20	新寛永	A-2	Ⅰ上
95	111	16	寛永通寶	1739	—	—	—	—	1.45	1.02	鉄銭		
95	111	17	寛永通寶	1739	24.02	24.03	6.03	6.40	1.79	3.42	鉄銭	C-1	Ⅱ上
95	111	18	寛永通寶	1739	24.91	24.65	6.71	6.29	1.78	3.23	鉄銭		
95	111	19	寛永通寶	1739	23.82	23.54	6.73	6.64	1.68	2.77	鉄銭	C-1	不明
95	111	20	乾隆通寶	1736	23.87	16.90	5.38	5.35	1.60	3.50		北側石垣	
95	111	21	仙台通寶	1784	21.45	21.30	6.42	6.50	1.50	2.16	鉄銭	B-3	Ⅰ
95	111	22	仙台通寶	1784	21.73	21.88	6.54	6.15	1.78	2.51	鉄銭	A-2	Ⅱ上
95	111	23	仙台通寶	1784	22.01	22.06	6.37	5.95	2.88	2.98	鉄銭	B-1	不明

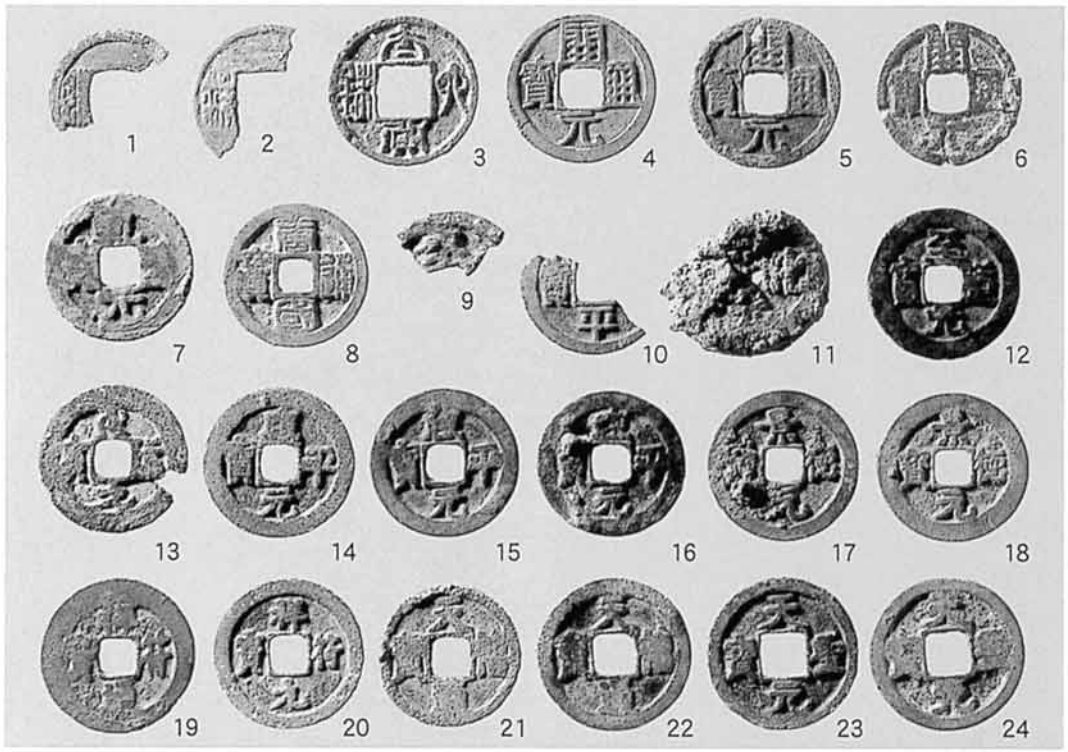
第 61 表　有文銭観察表(3)

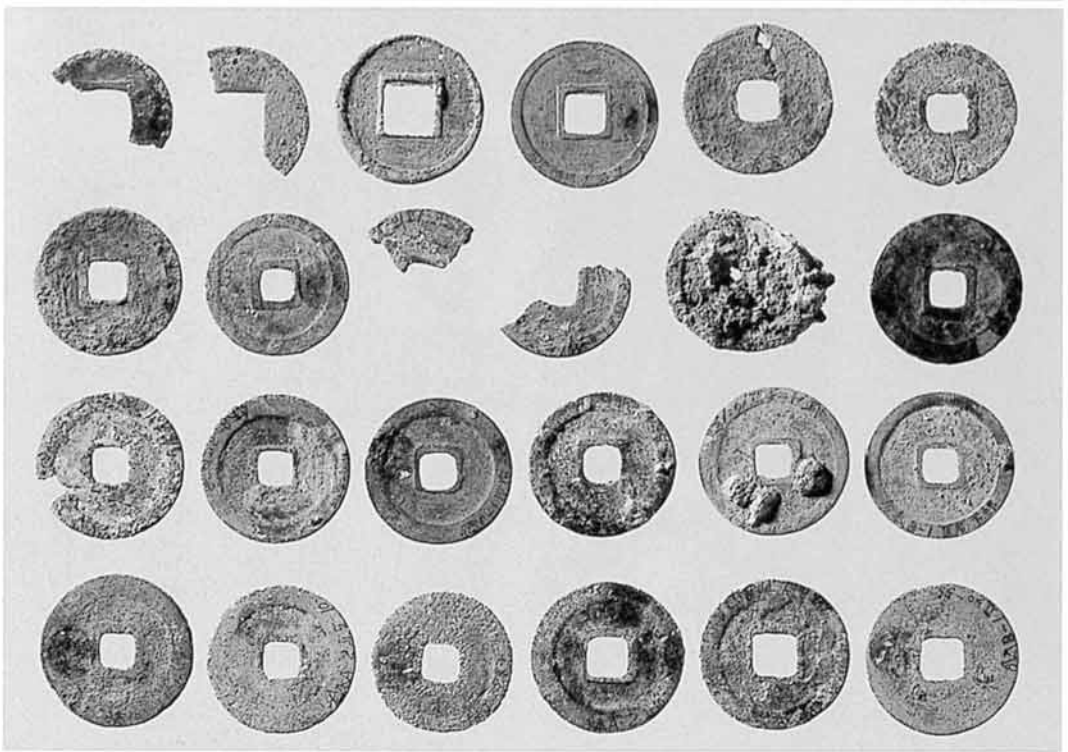
図番号	PL.	枝番号	分類	計側値 (cm・g)								備考
				外径		孔径		銭厚	量目	出土		
				縦	横	縦	横			地点	層位	
96	112	1	有文	23.54	—	6.44	—	1.15	1.26	C-1	Ⅵ	判読不能
96	112	2	有文	21.36	21.81	6.76	6.97	1.82	7.39	東斜面		溶解
96	112	3	Ⅰa	23.37	23.35	3.97	4.41	1.09	2.53	B-1	Ⅱ下	
96	112	4	Ⅰa	22.19	22.57	6.01	6.15	1.36	2.23	B-1	Ⅰ	
96	112	5	Ⅰb	20.79	22.15	7.63	7.13	1.15	1.74	C-3	Ⅱ上	
96	112	6	Ⅰb	21.80	21.80	6.12	5.73	1.44	1.68	B-2	Ⅱ上	
96	112	7	Ⅰb	21.13	21.60	7.78	7.47	1.07	1.27	C-1	Ⅵ	
96	112	8	Ⅰa	21.84	21.23	5.79	5.93	0.95	1.55	D-3	攪乱	
96	112	9	Ⅰa	20.97	20.88	8.00	8.34	1.01	1.54	B-1	Ⅱ上	
96	112	10	Ⅰa	20.67	20.53	6.58	5.22	0.53	1.03	B-1	Ⅱ上	
96	112	11	Ⅰa	20.28	20.48	7.72	7.78	1.04	1.26	D-3	Ⅱ上	
96	112	12	Ⅱa	20.35	20.12	7.70	7.13	0.70	0.78	C-1	Ⅱ上	
97	113	1	Ⅰb	18.58	19.61	6.71	6.41	1.20	0.89	B-1	Ⅱ上	
97	113	2	Ⅱa	18.94	19.07	6.99	6.98	0.98	0.93	C-1	Ⅱ上	
97	113	3	Ⅱa	18.43	19.07	8.65	8.61	0.79	0.75	C-1	Ⅱ上	
97	113	4	Ⅰb	18.96	18.06	5.04	5.06	1.90	1.60	F-3	Ⅱ上	
97	113	5	Ⅰa	20.54	18.59	6.09	7.17	1.40	1.22	B-1	Ⅱ下	
97	113	6	Ⅱa	18.49	18.55	7.49	7.76	0.76	0.62	B-3	Ⅱ上	
97	113	7	Ⅱa	18.47	18.35	8.11	7.90	0.85	0.86	E-2	Ⅰ	
97	113	8	Ⅱa	18.80	18.78	8.94	9.66	1.37	1.00	D-1	Ⅱ上	
97	113	9	Ⅱa	17.90	18.20	8.79	8.96	1.02	0.76	B-1	Ⅱ上	
97	113	10	Ⅱa	18.50	18.00	8.91	9.08	0.81	0.60	B-1	Ⅱ上	
97	113	11	Ⅱa	17.38	17.93	8.94	8.08	0.72	0.57	E-1	Ⅱ上	
97	113	12	Ⅱa	17.90	17.91	8.54	8.54	0.98	0.74	C-1	Ⅰ	
97	113	13	Ⅱa	18.79	17.74	9.10	8.44	0.88	0.61	B-1	Ⅱ上	
97	113	14	Ⅱa	17.35	17.56	8.61	9.03	0.87	0.70	B-3	Ⅱ上	
97	113	15	Ⅱa	17.53	17.43	7.97	8.12	1.25	0.55	E-2	Ⅰ	
97	113	16	Ⅱa	17.13	17.13	8.72	8.27	0.79	0.62	B-1	Ⅱ上	
97	113	17	Ⅱa	17.29	17.07	8.25	7.85	0.75	0.64	B-3	Ⅱ上	
98	114	1	Ⅱb	16.59	16.51	7.73	7.75	1.71	1.09	C-1	Ⅰ	
98	114	2	Ⅱa	15.81	16.10	8.53	8.64	1.27	0.39	D-1	Ⅱ上	
98	114	3	Ⅱa	15.86	16.02	8.10	8.32	0.87	0.53	B-1	Ⅰ	
98	114	4	Ⅱa	15.08	15.92	7.40	8.05	0.80	0.50	B-3	Ⅱ上	
98	114	5	Ⅱa	15.81	15.91	7.90	8.53	0.79	0.69	B-2	Ⅱ上	
98	114	6	Ⅱa	15.64	15.58	8.24	8.17	1.16	0.49	B-3	Ⅱ上	
98	114	7	Ⅱa	16.18	15.22	8.90	8.80	1.31	0.41	E-2	Ⅰ	
98	114	8	Ⅱa	14.80	15.06	8.38	8.02	0.51	0.31	B-2	Ⅱ上	
98	114	9	Ⅱa	14.03	14.03	7.91	8.12	0.73	0.38	D-1	Ⅱ上	
98	114	10	Ⅱa	13.91	13.89	7.42	7.85	0.60	0.29	D-1	Ⅱ上	
98	114	11	Ⅱa	13.52	13.73	7.44	6.91	0.88	0.39	B-1	Ⅱ上	
98	114	12	Ⅱa	13.38	13.38	7.62	7.71	0.82	0.38	B-1	Ⅱ上	
98	114	13	Ⅱb	13.80	13.24	7.51	7.08	0.55	0.24	B-1	Ⅱ上	
98	114	14	Ⅱb	13.71	13.20	6.97	7.55	0.76	0.33	D-1	不明	
98	114	15	Ⅱa	12.68	12.92	7.72	8.16	0.74	0.27	B-2	Ⅱ上	
98	114	16	Ⅱa	12.90	12.84	6.53	6.98	0.86	0.29	C-1	Ⅱ上	
98	114	17	Ⅱa	12.63	12.70	8.21	8.00	0.56	0.24	B-1	Ⅱ上	
98	114	18	Ⅱa	12.92	12.70	6.36	6.36	0.72	0.33	D-1	Ⅱ上	
98	114	19	Ⅱa	12.31	12.45	7.10	6.92	0.65	0.23	SK4	上部	
98	114	20	Ⅱb	11.87	12.19	7.23	7.46	0.66	0.22	B-2	Ⅱ上	
98	114	21	Ⅱa	10.98	11.02	7.11	6.59	0.46	0.16	B-2	Ⅱ上	
98	114	22	Ⅱa	10.92	10.98	7.13	7.12	0.52	0.13	C-2	Ⅱ上	
98	114	23	Ⅱa	11.15	10.78	5.20	7.02	0.60	0.16	B-3	Ⅱ上	
98	114	24	Ⅱb	9.65	12.64	6.47	6.25	0.62	0.11	不明		

第 62 表　無文銭観察表

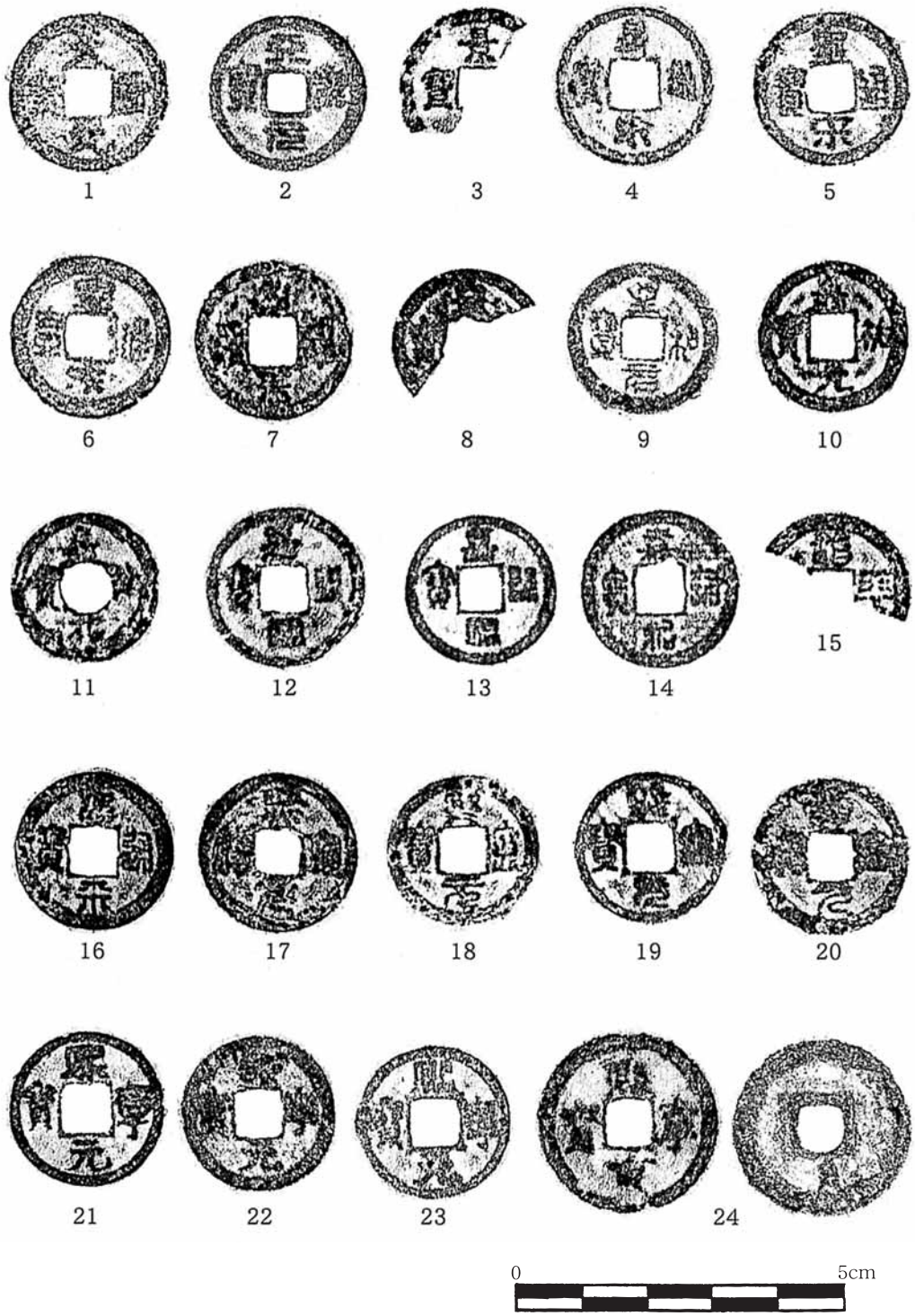


第 88 図 (PL.104)　銭貨

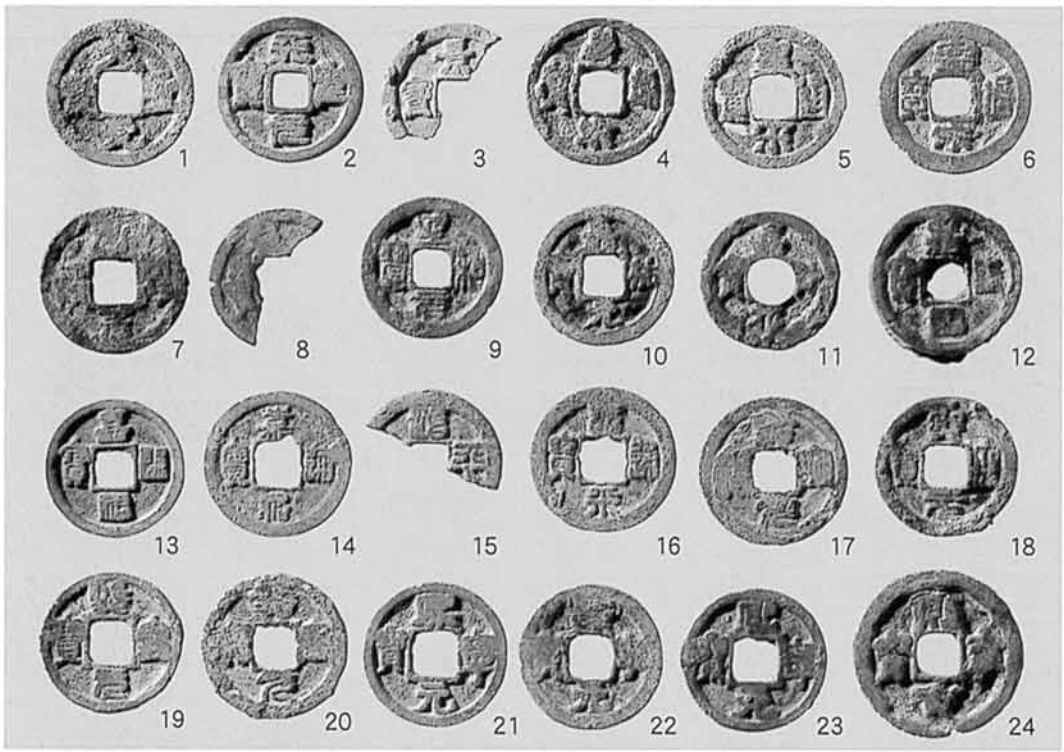


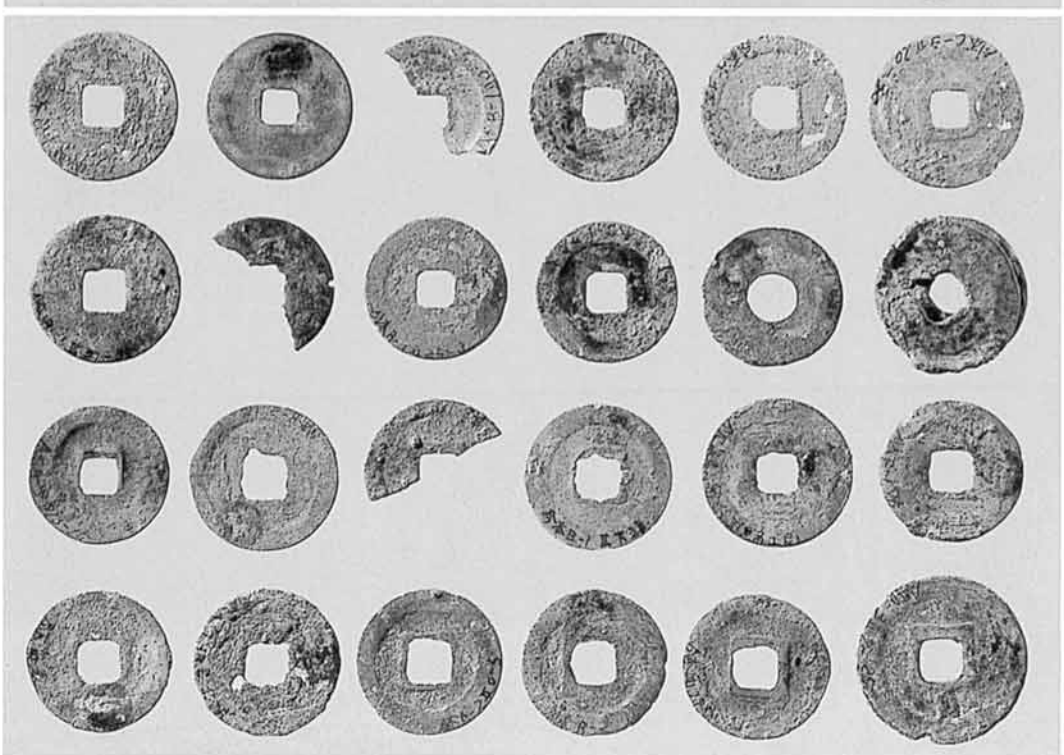


PL.104(第 88 図)　銭貨

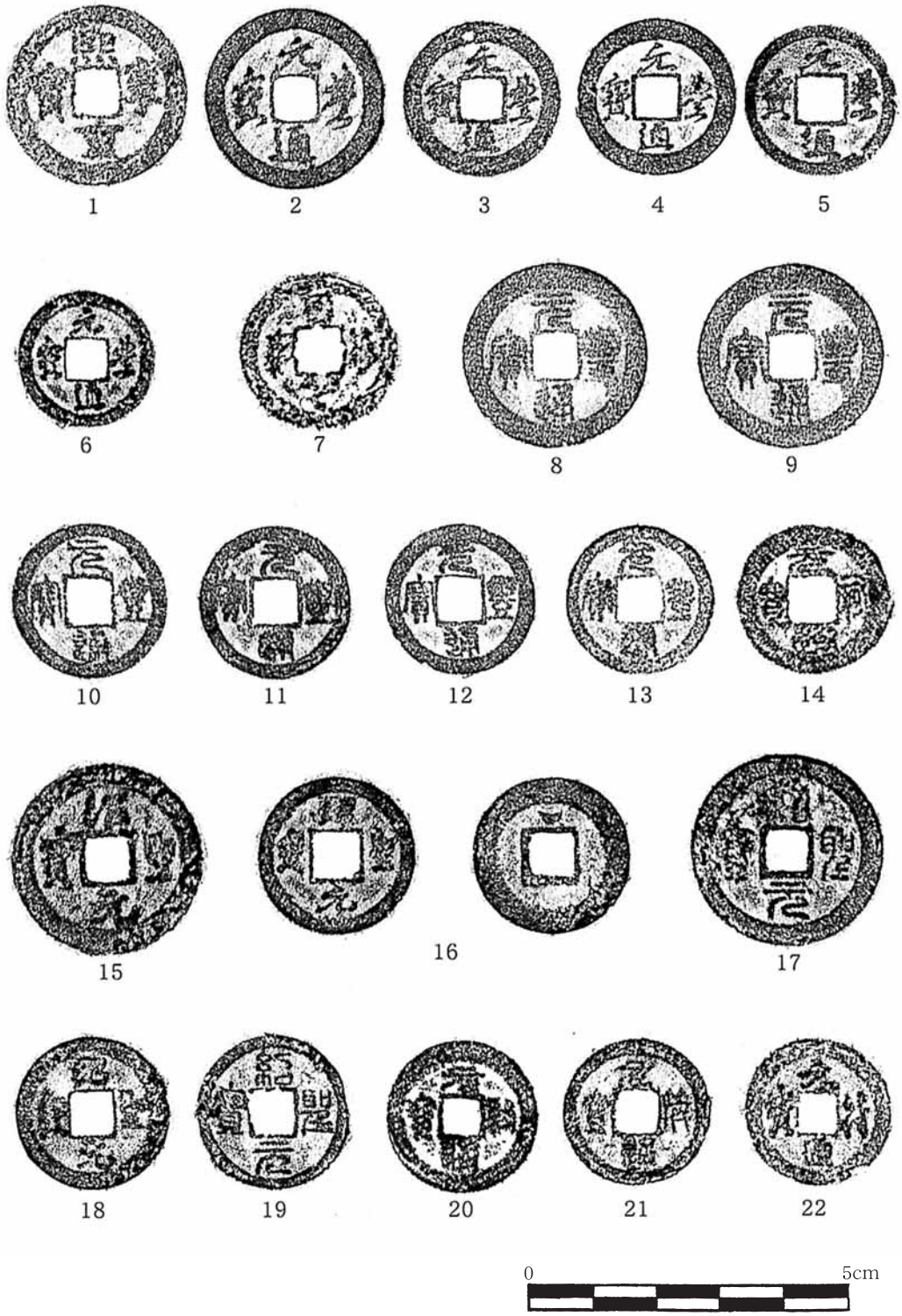


第 89 図 (PL.105)　銭貨

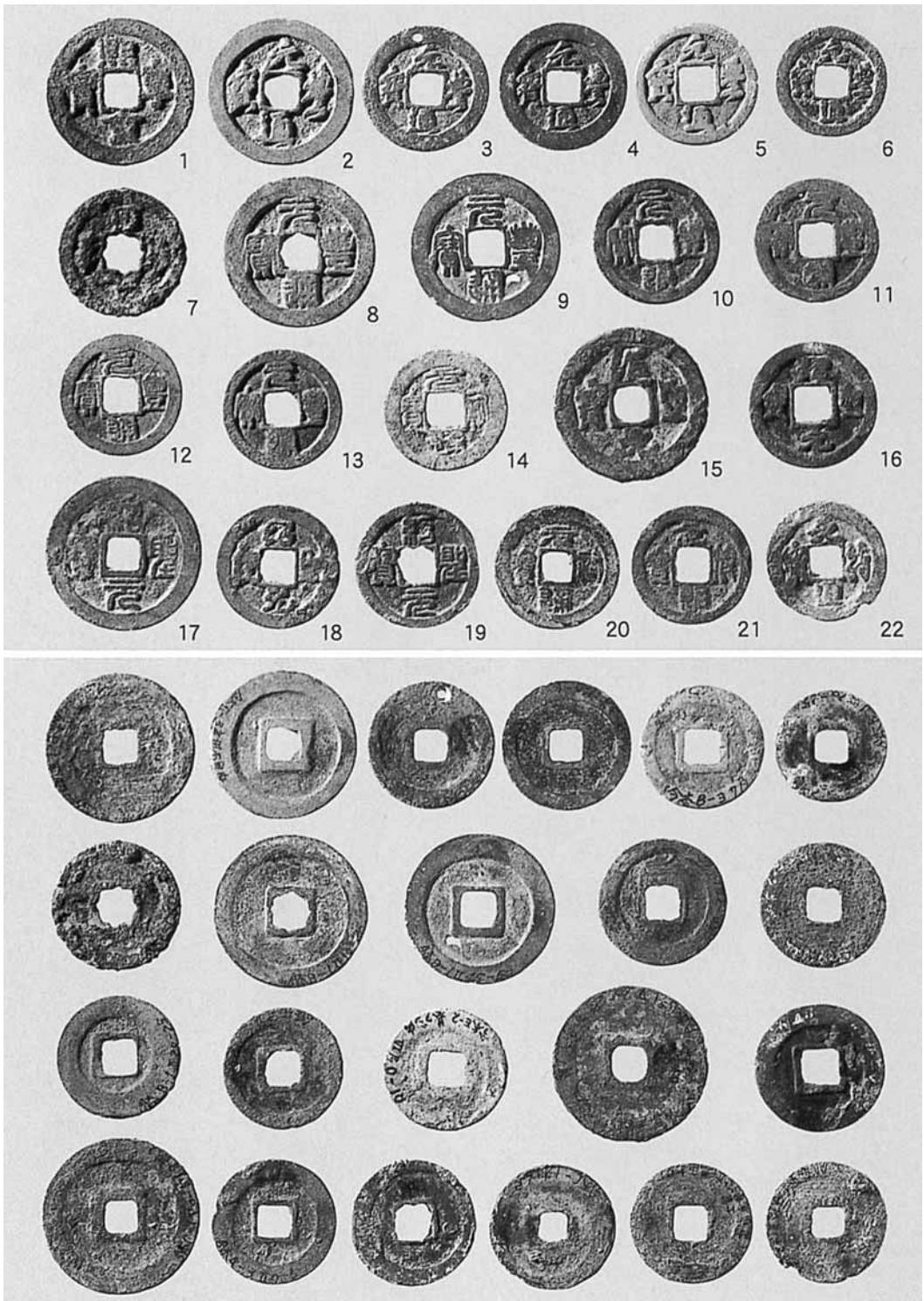




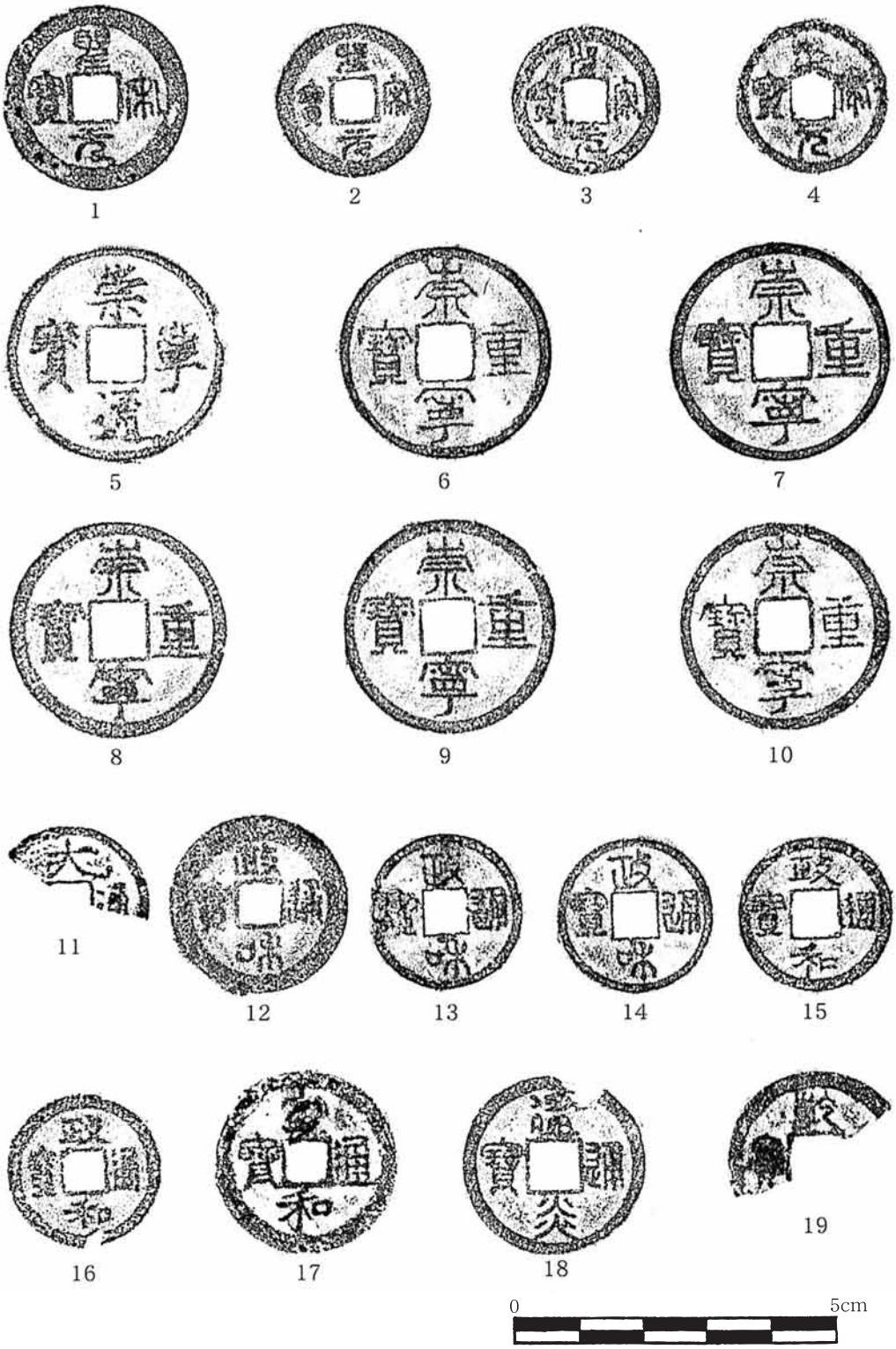
PL.105（第 89 図）　銭貨



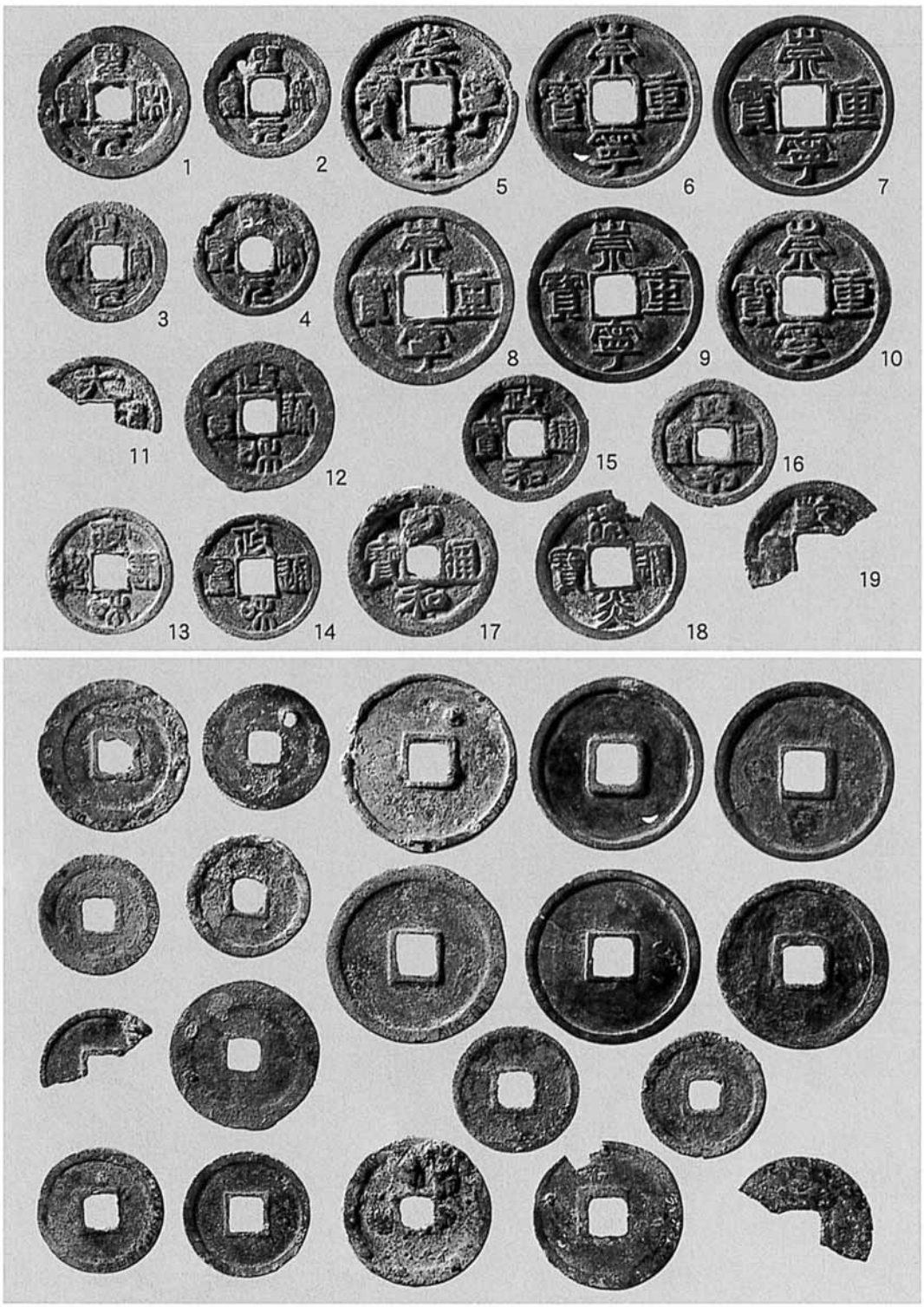
第 90 図 (PL.106)　銭貨



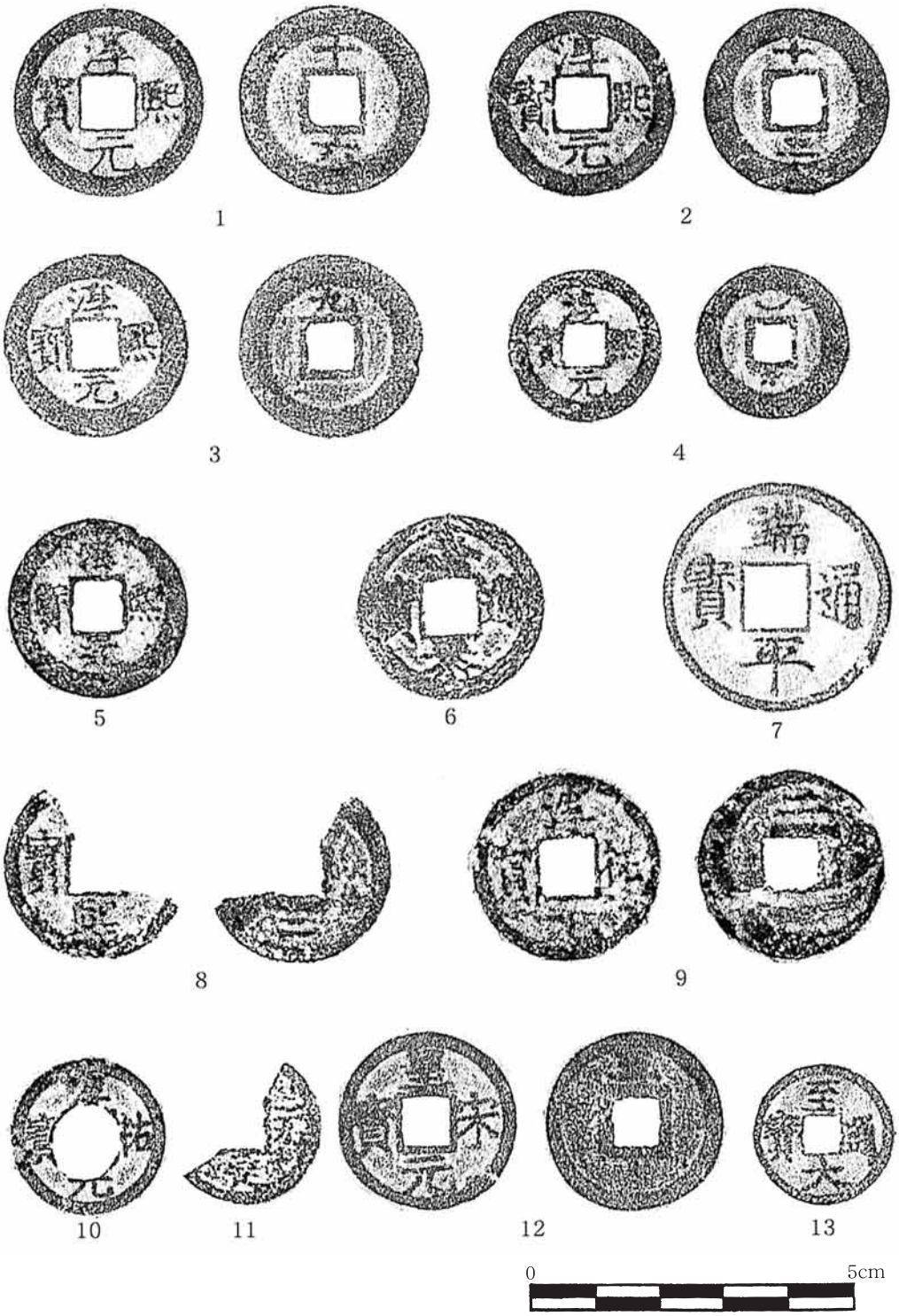
PL.106（第 90 図）　銭貨



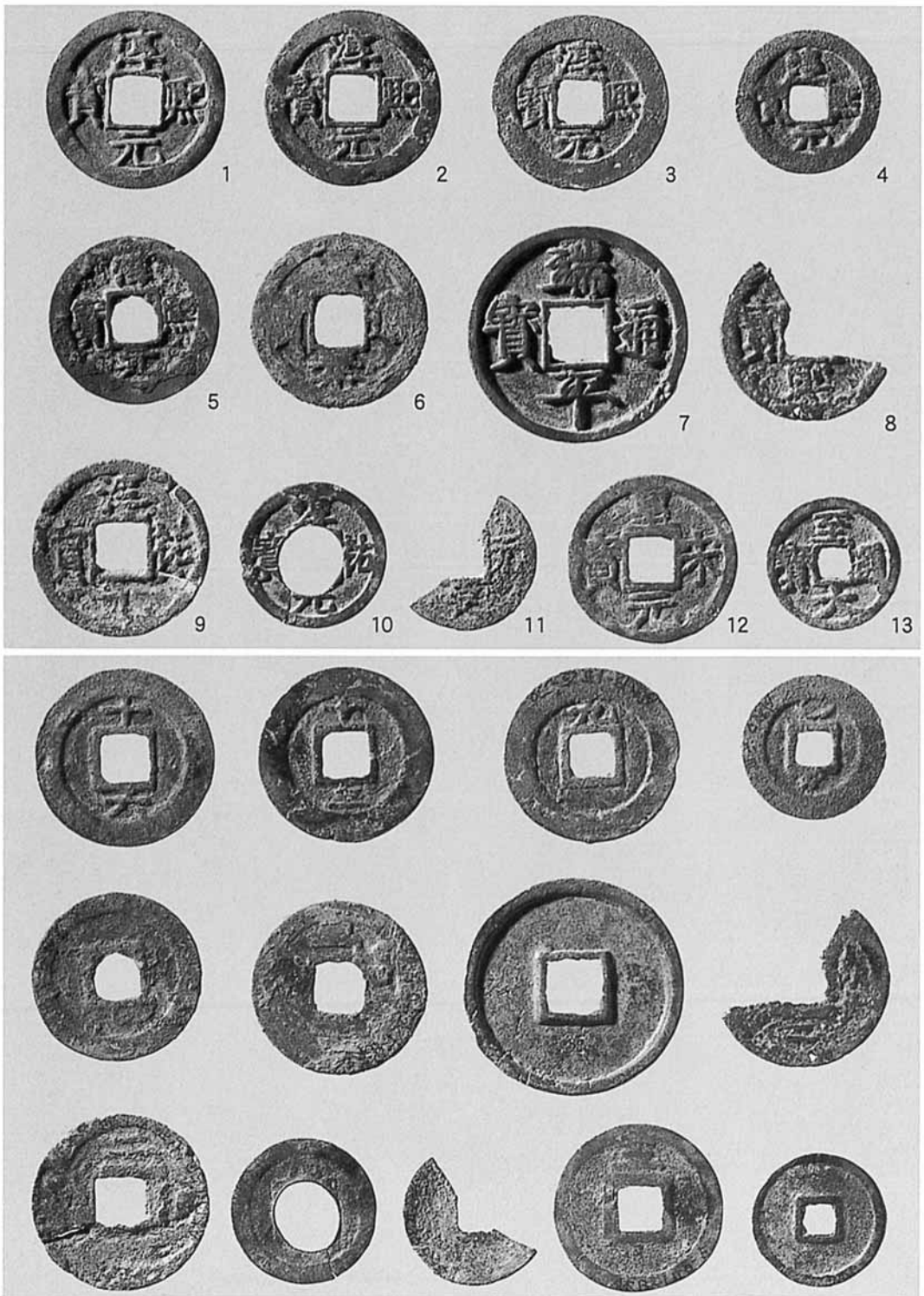
第 91 図 (PL.107)　銭貨



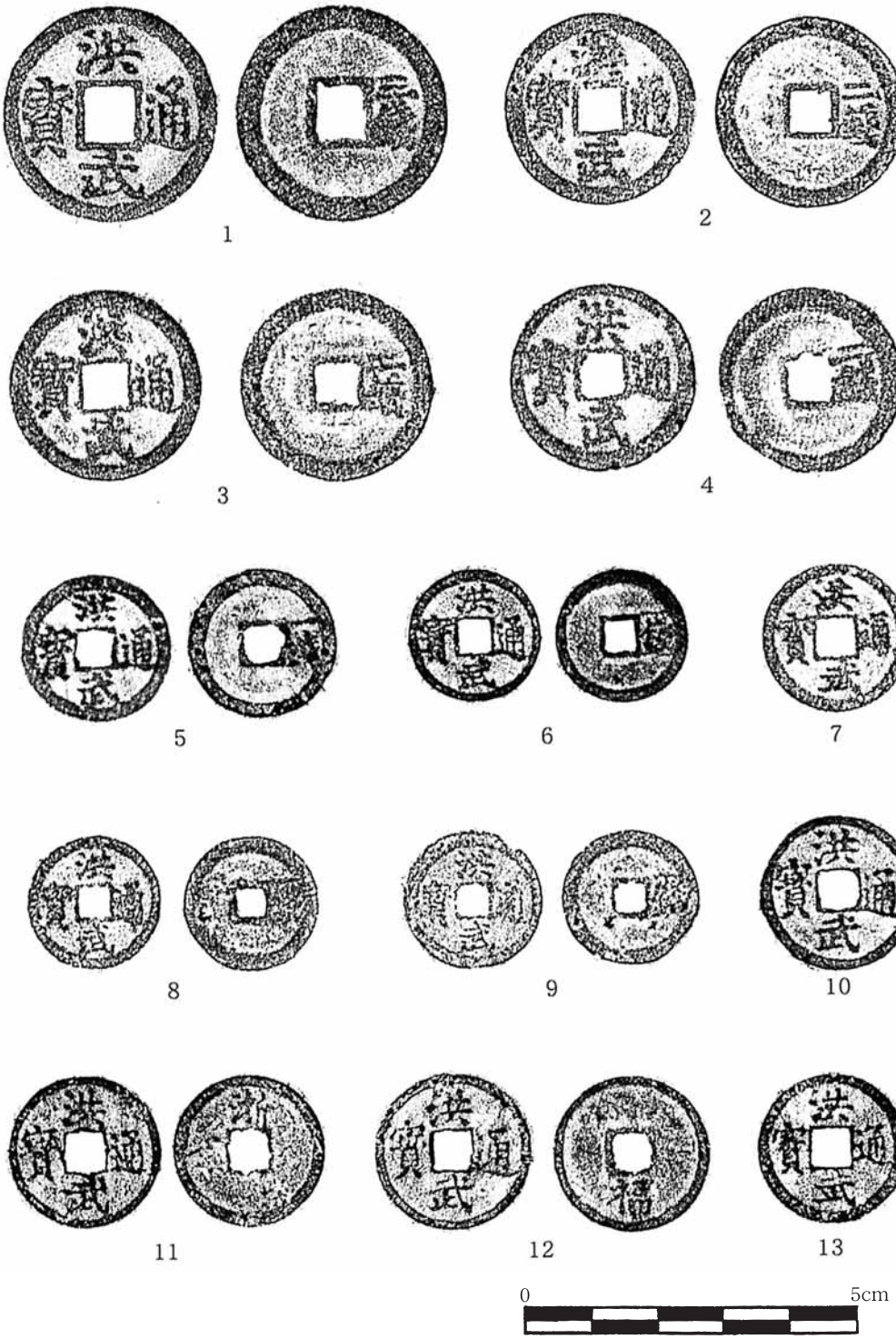
PL.107(第 91 図)　銭貨



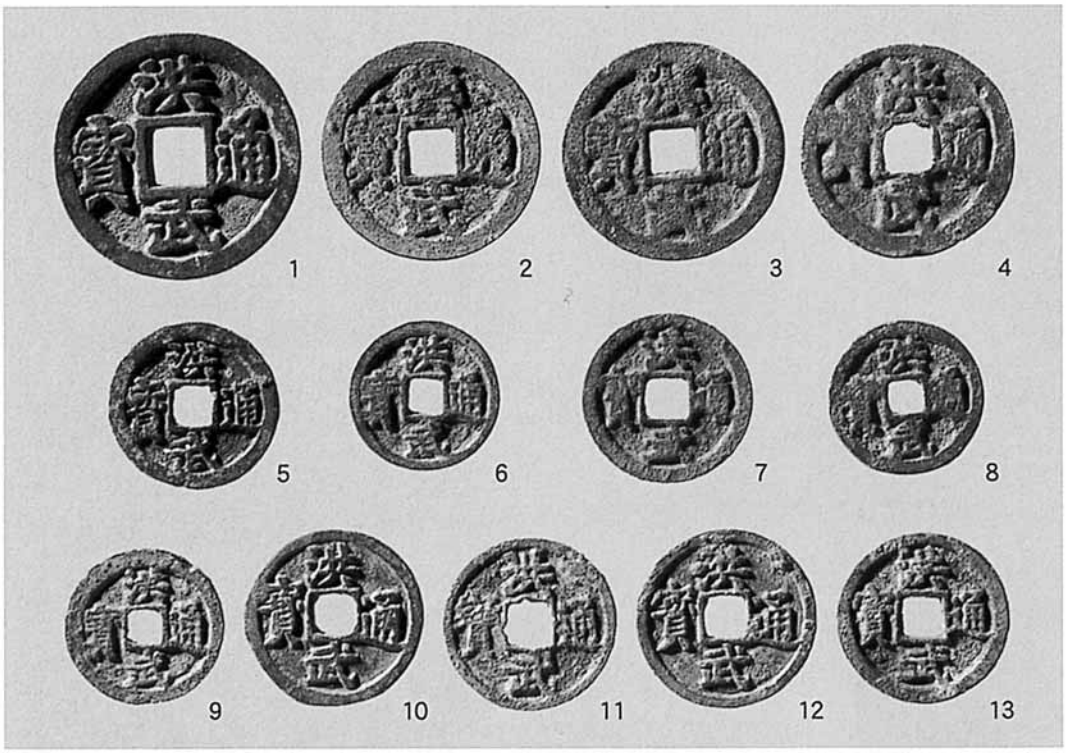
第 92 図 (PL.108)　銭貨

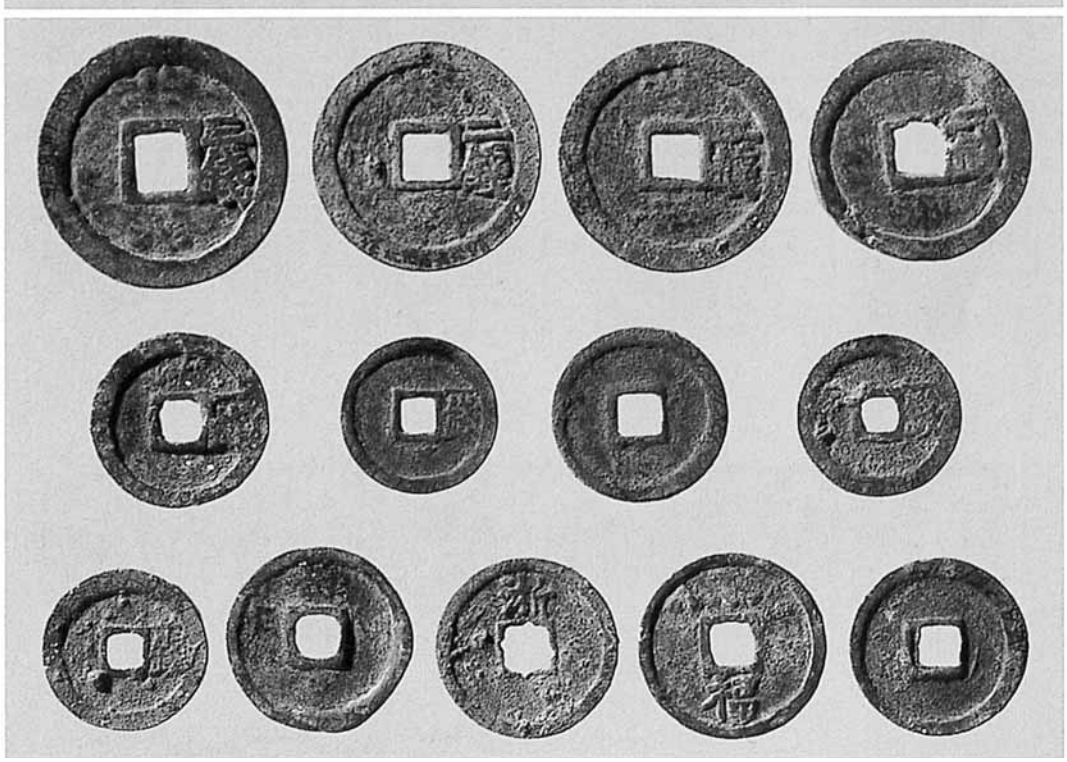


PL.108（第 92 図）　銭貨

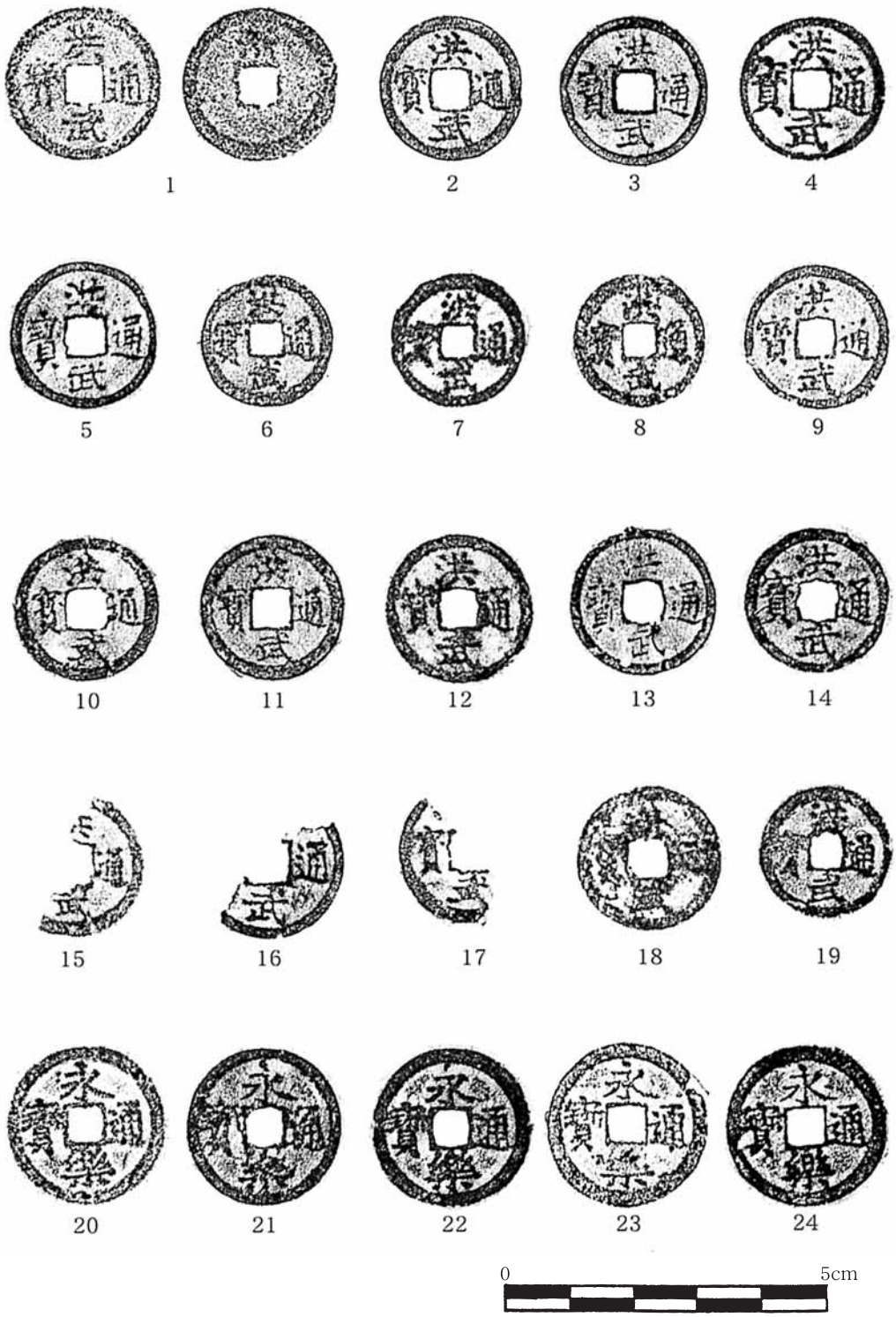


第 93 図 (PL.109)　銭貨

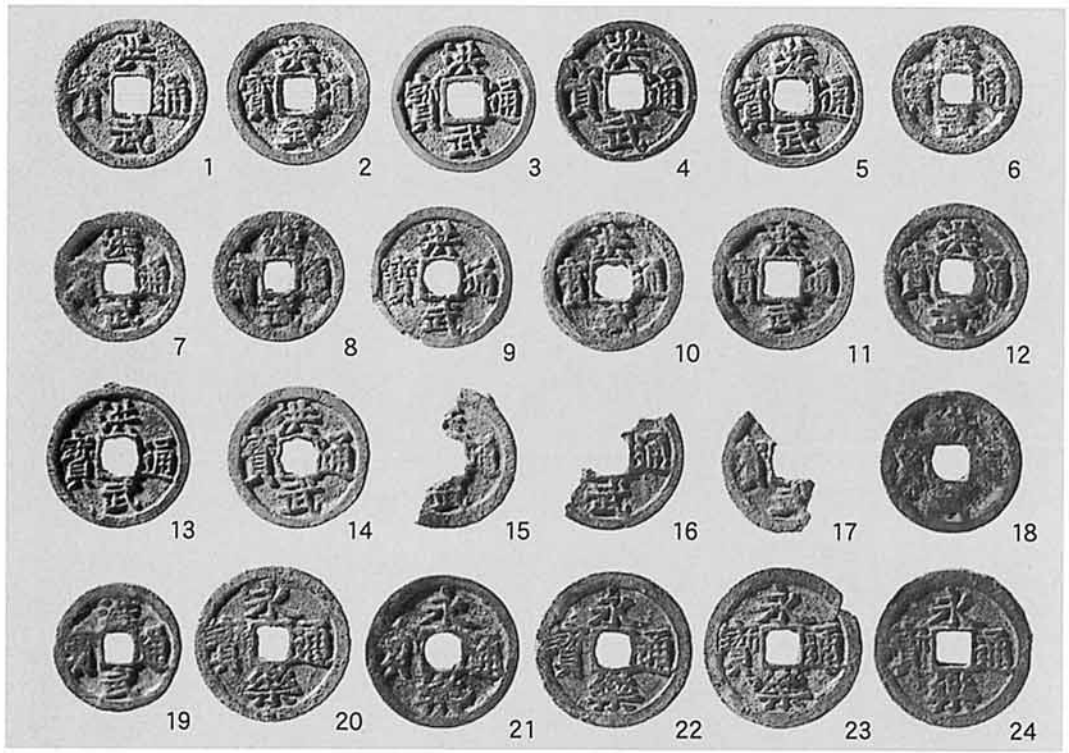


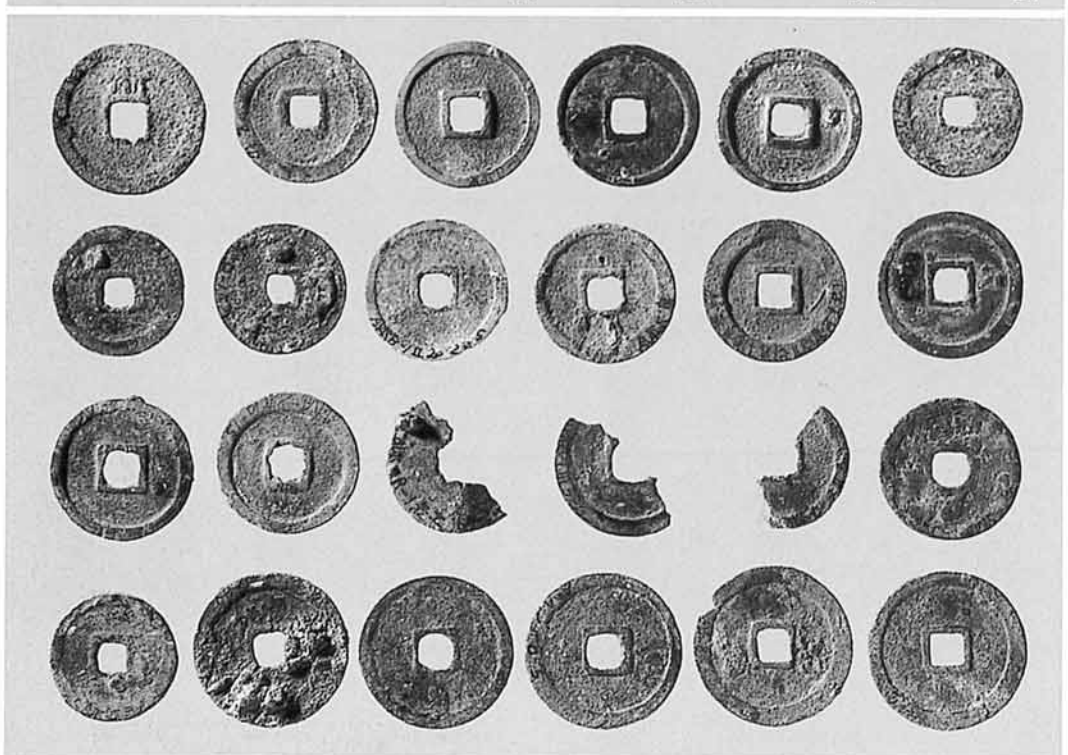


PL.109(第 93 図)　銭貨

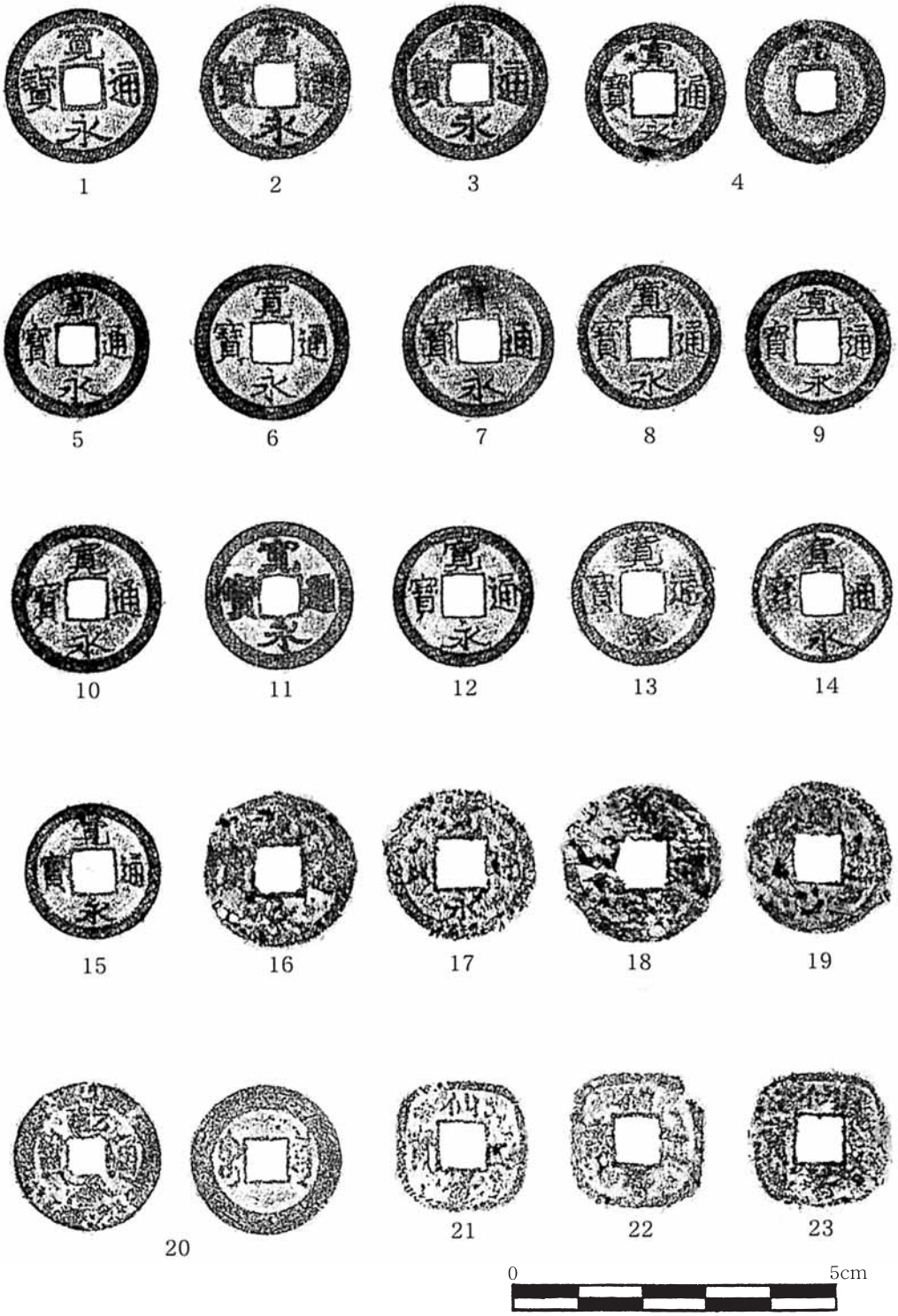


第 94 図 (PL.110)　銭貨

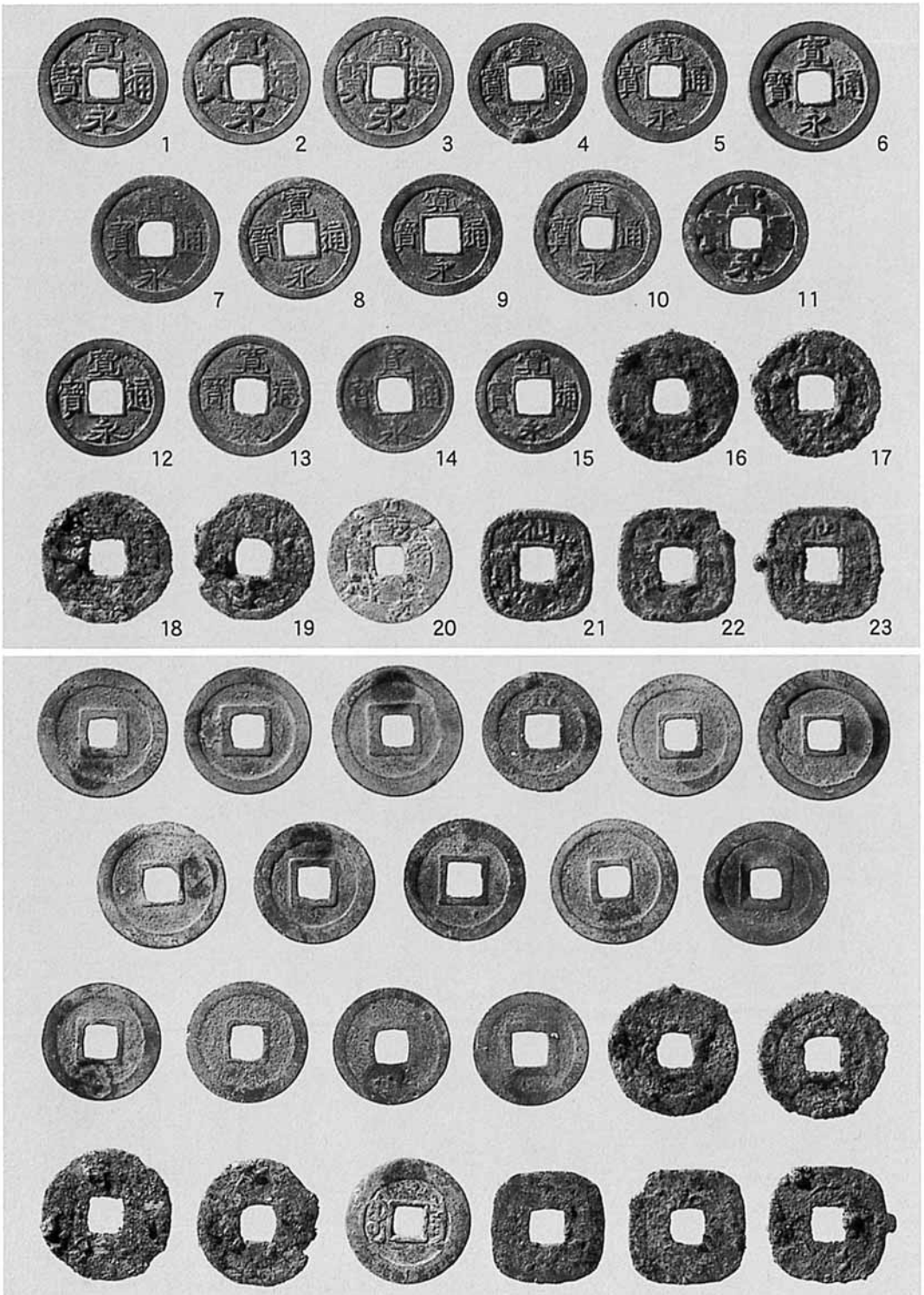




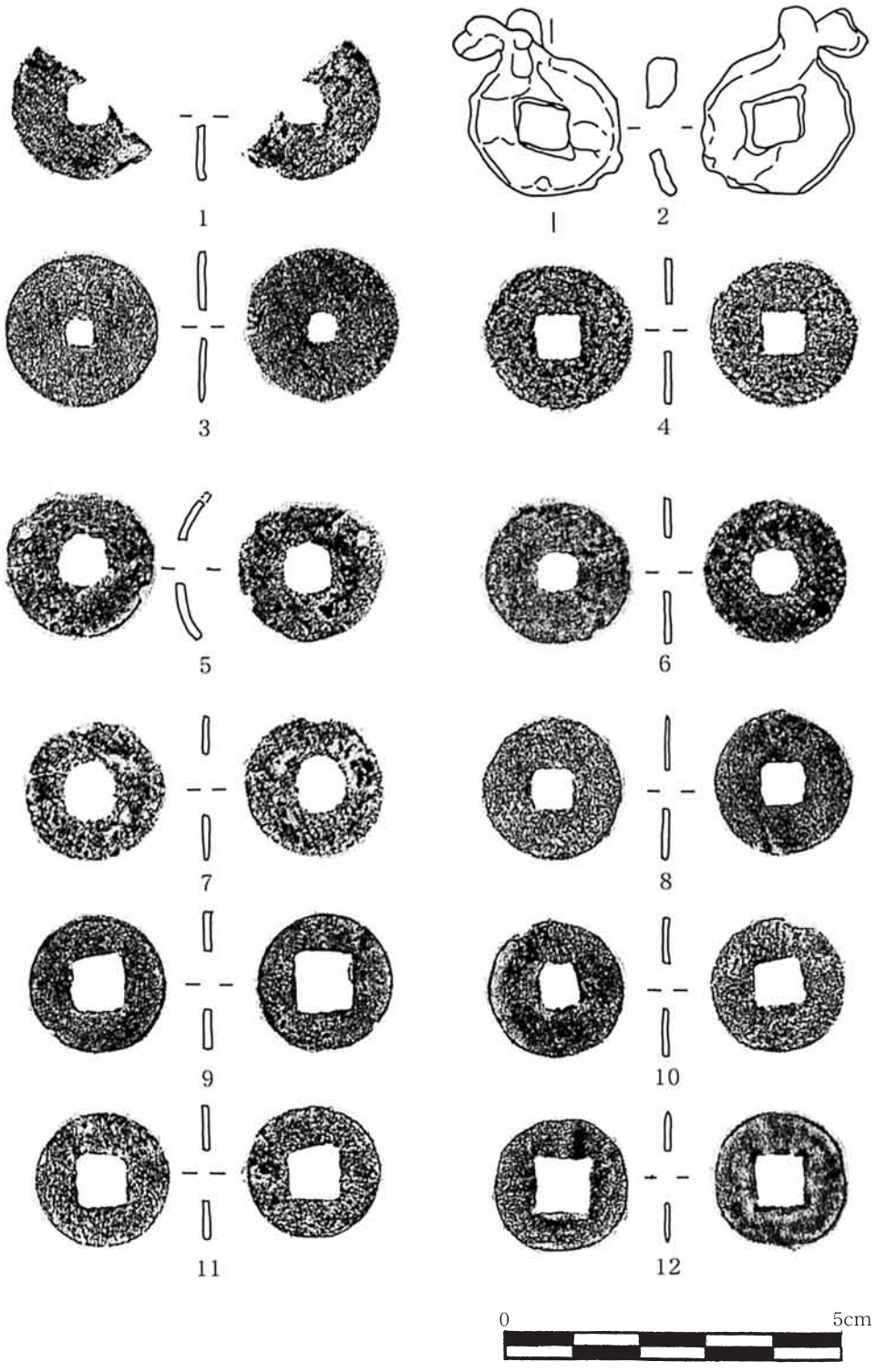
PL.110(第 94 図)　銭貨



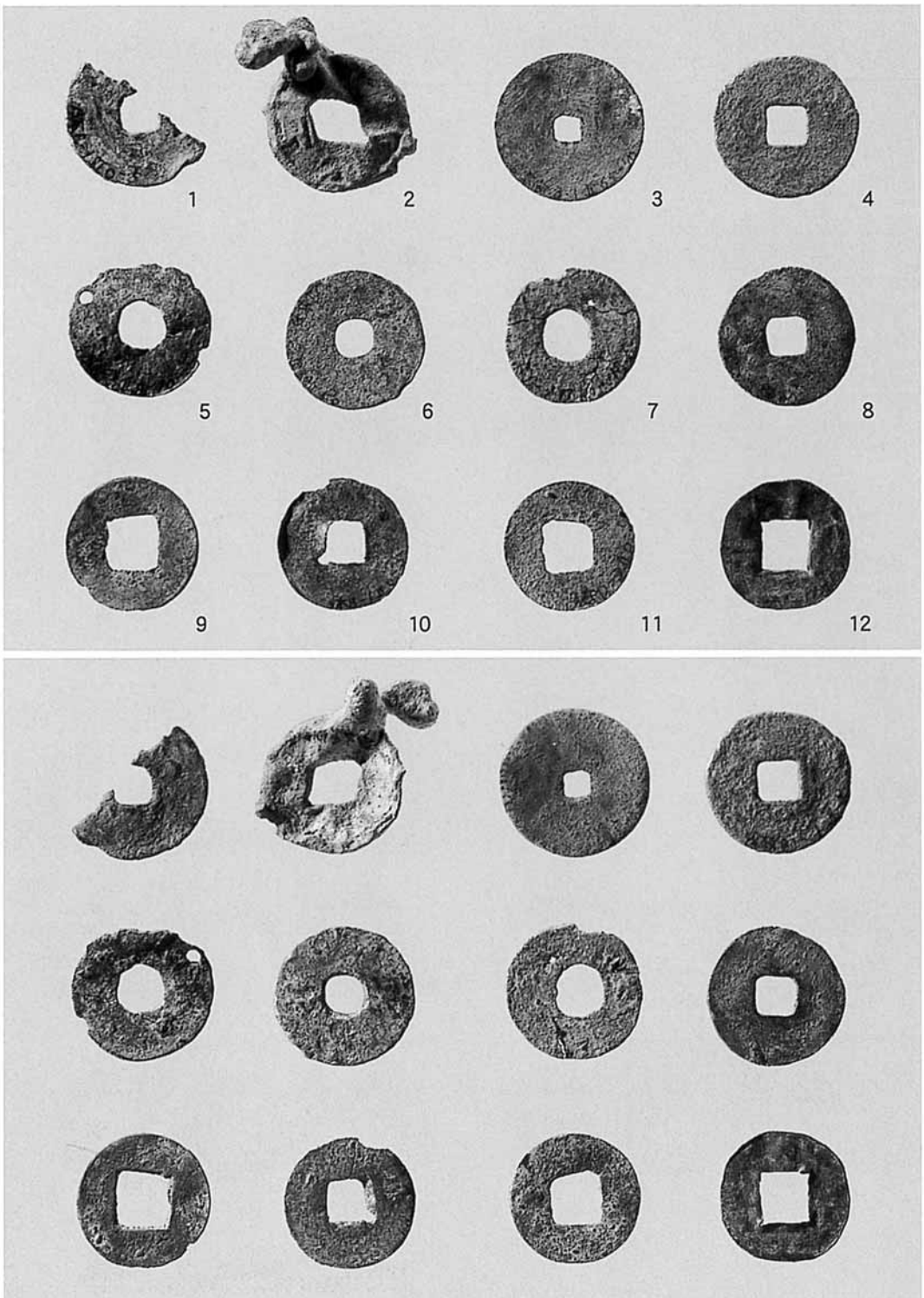
第 95 図 (PL.111)　銭貨



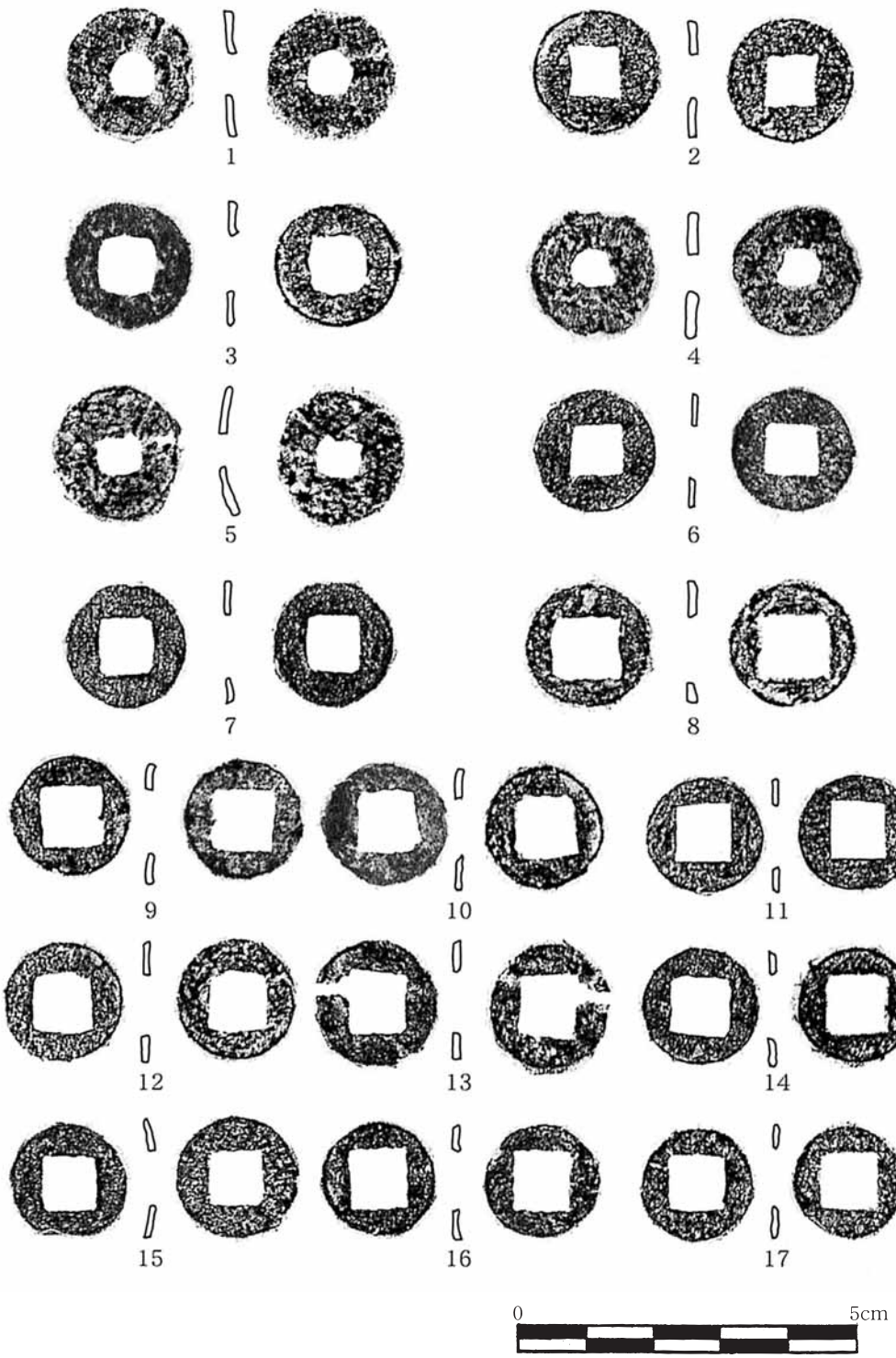
PL.111(第 95 図)　銭貨



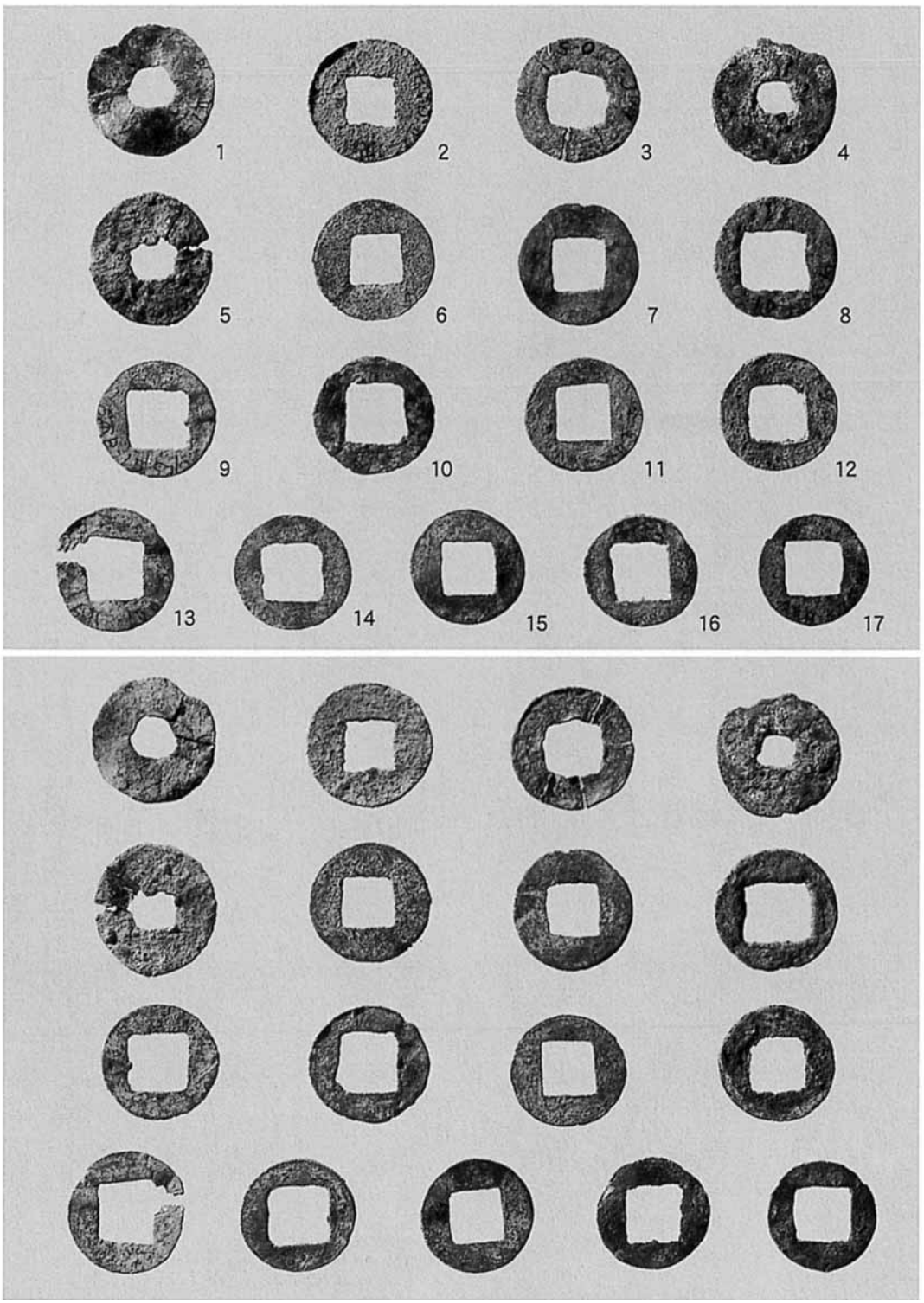
第 96 図 (PL.112)　銭貨



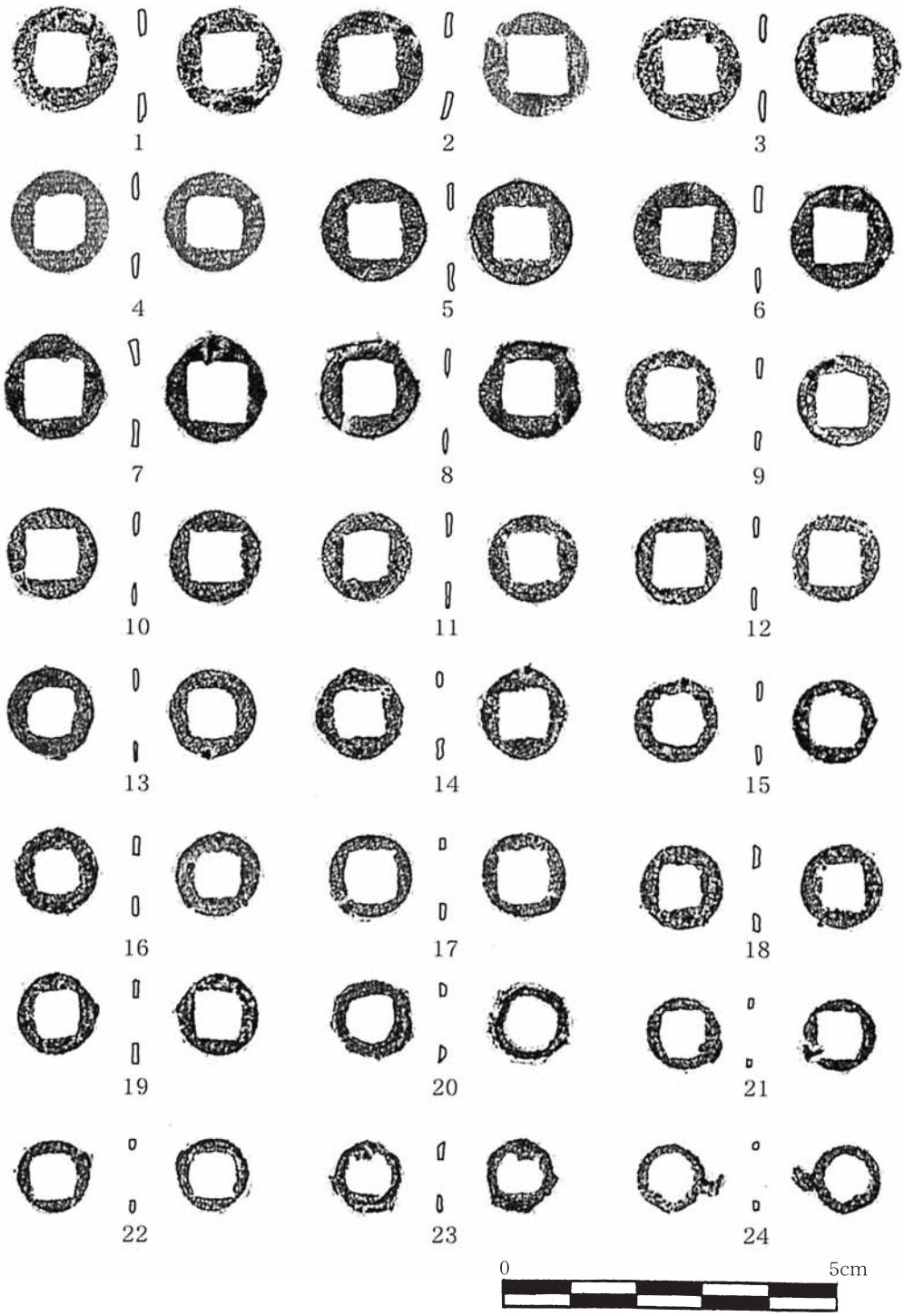
PL.112(第 96 図)　銭貨



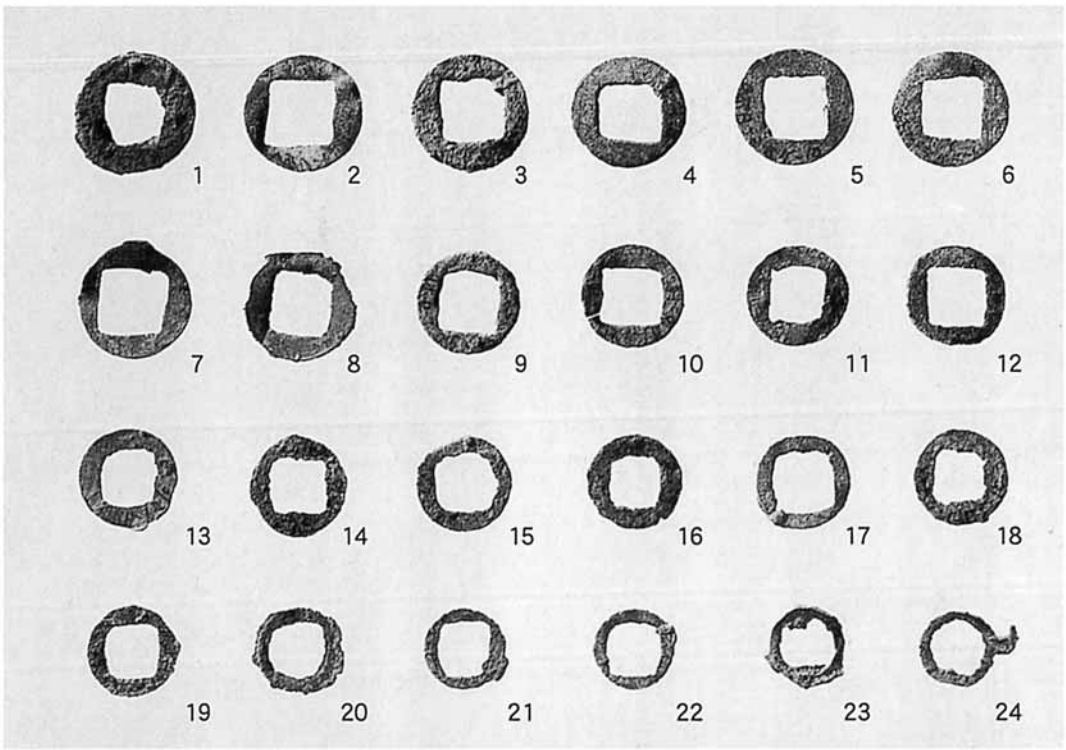
第 97 図 (PL.113)　銭貨

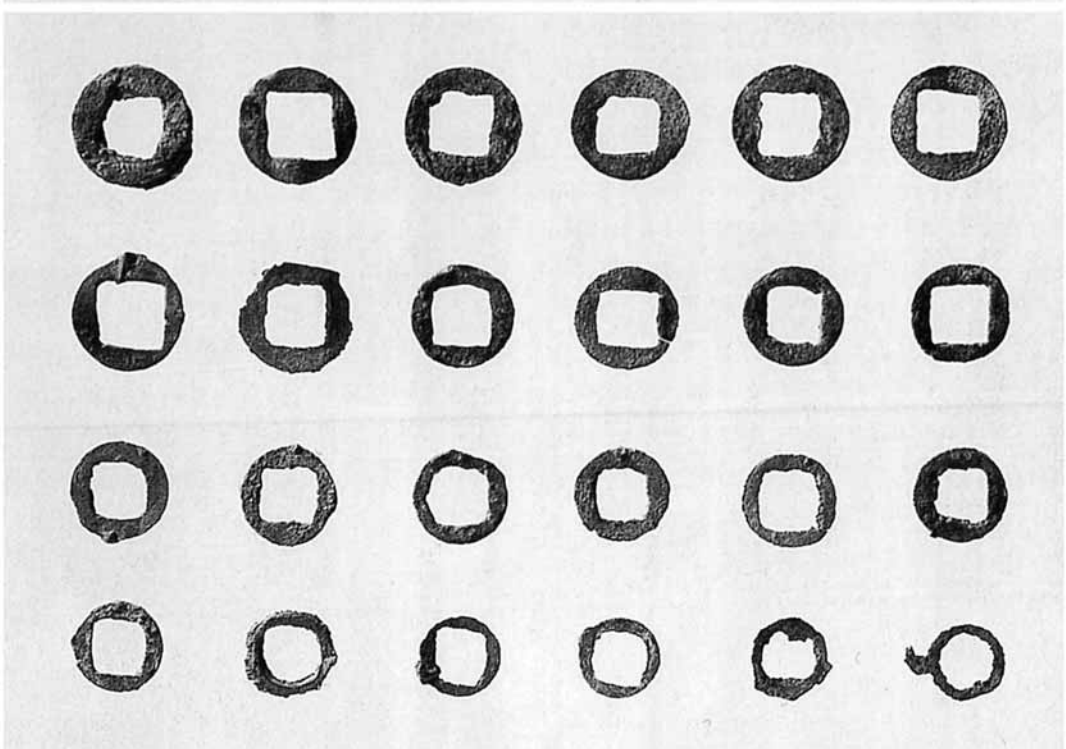


PL.113(第 97 図)　銭貨



第 98 図 (PL.114)　銭貨





PL.114(第 98 図)　銭貨

第７節　金属製品

今回出土した金属製品は材質から大別して銅製品と鉄製品に、用途から大別して武器・武具・防具及びその金具類と日常品及びその金具類に分けられる。以下用途材質から数種に分類して紹介する。

①銅製品　金具類を主体に鏡や簪などが得られている。出土品の大半を占める金具類は、その中に刀剣の鐔や切羽、鞘尻、目釘や鉄製品の中に小札等が出土することから考えて、多くの金物は武器、武具類の装飾金物と推定される。いずれも小さい物が多く、前節にあげた銭貨にも癒着して変形したもの、中には裁断したもの、一度溶解し泡を吹くものなどその出土状況が原形を保たないものが見られるため、鉄製品同様鋳物・細工をグスク内で行っていた可能性もある。現状からは遺構や坩堝など遺物の資料を欠くため可能性を示唆する程度だが、検討を要する。

鋲類（第 99 図-1 ～ 8）　頭部の形状から切子頭（同図-1）、環状金具をつけるもの（同図-3）、角頭（同図-4）、丸頭（同図-5 ～ 8）などに分類される。

座（同図-9 ～ 15）　大きさや形状に数種のバリエーションが認められるが総じて菊をモチーフにしたものが一般である。同図-13 は丁寧な魚子鏨が施される。

八双金具（同図-16 ～ 19）　板状の銅に菊花などをモチーフに刻まれ細工が施される。同図-16・17 は鍍金が確認できる。

目貫・目釘・切羽（同図-20 ～ 33）　刀金物と推定されるもので刀を刀身と繋ぐためまた、装飾する機能を併せ持ったと推定される目貫（同図-20 ～ 24）で、同図-21 は金箔色絵技法によって鍍金を施す。同図-22 は植物をモチーフにしたもので上部に実？を有する。本資料にも魚子鏨を施す。同図-25 ～ 29 は目釘である。同図-30 ～ 33 は切羽である。同図-20 などは目貫を推定する。同図-34 も不明の装飾品である。

鞘尻・覆輪（第 100 図-1 ～ 5）　鎧・調度品などの縁に用いられたと考えられる。大きさの大小、形状から数種に分類できる。同図-1 は柄頭や鞘尻などを推定する金具で。同図-４・５などは鎧の覆輪として推定されるもので、志慶真門郭の調査でも確認されている。

鞐（同図-6 ～ 7）　いずれも中央に２穴あり紐を結節させるもので鎧などに付く金具。

鍵（同図-8）　本標品は県内でも初例である。類品が一乗谷朝倉氏遺跡等で見られる[註58]。

簪（同図-9 ～ 15）　村内には中城ノロ、勢理客ノロが現在も伝世品として所有している事例があり、玉類と同様に主郭（俗称本丸）での出土はこれらのノロや祭祀との関係を考えると興味深い。形状、長さにバリエーションがある。同図-16 は簪としたが検討を必要する。

鏡（第 101 図-1 ～ 6）　いずれも小破片で、概して薄く鏡体が歪み出土する特徴がある。同図-2･3 は裁断されたのが良くわかるもので鏨状の工具を用いたと推定されその幅が分かる。同図-5 では三角形に意図的に加工したようで、同図-6 のように穿孔する例があり、加工や形から再利用の可能性も考えられる。同図-1 ～ 3 は和鏡で同一個体と推定される。同図-1 のモチーフは竹と推測され、同図-2 は浅い文様が見られるが不明である。同図-4 も和

鏡で亀甲文が描かれる。同図-5は湖洲鏡の素文鏡と推定される。鏡の三角形、穿孔の加工例は石垣島フルスト原遺跡でも確認される[註59]。

毛抜き（同図-11） 毛抜きの類例は宇茂佐古島遺跡でも確認される[註60]。

その他 同図-9は鈴状製品で舌を取り付ける部分が無いため飾り金具を推測する。同図-7は薄い銅板の円盤状製品で浅い沈文がめぐる。装飾金物が推定されるが用途は不明である。同図-8は農耕具類のような製品であるが類品がないため検討を要する。同図-10は摘み状の製品である。同図-12～17はいずれも輪・管になる製品で、同図-14などは鋲類の頭部につくものに近似する。

②鉄製品 消耗品を主体とする。釘・鎹の建築部材、日常品の刀子、武器でも鉄鏃が多く得られている。数は少ないが鋲や子札などの金物と判断されるものが出土する。

釘（第102図） 釘はいずれも基部を逆L字形に折り返して頭とすいわゆる皆折釘である。寸法にはばらつきがある。同図-1の15㎝を最大に小さいものは3～4㎝程度のものまで検出されている。また検出された釘には赤色塗布したもの（7・9・59・60）などが確認されている。

刀子（第103図） 志慶真門郭で検出されたものと同様、Ⅰ類：刀先で外反りになるもの（同図-1～4）とⅡ類：刀身中央で外反りになる（同図-5～8）のものに2大別した[註61]。

鉄鏃（第104図-1～9） 鉄鏃は鏃身がバチ形のもの（同図-1～8）と菱形のもの（同図-9）に大別可能である。尚、後者は骨製品（第113図-1～3）の形態と類似している。

小札（104図-10～13） 幅20㎜前後の板状製品に幾つかの孔が平行に並ぶ。孔を連結して防具としたと推測される。

鋲類（104図-14～18） 鋲類は頭部などの形態から円錐形のもの（同図-14）、環頭形で割ピン状のもの（同図-16～18）が検出されている。後者はさらに円形・楕円形の2大別することが可能である。

釣針（104図-20～23） 釣針は「し」の字形で大きさは3～5㎝前後を計る。同図-23は返しの部分も明確に確認することができる。

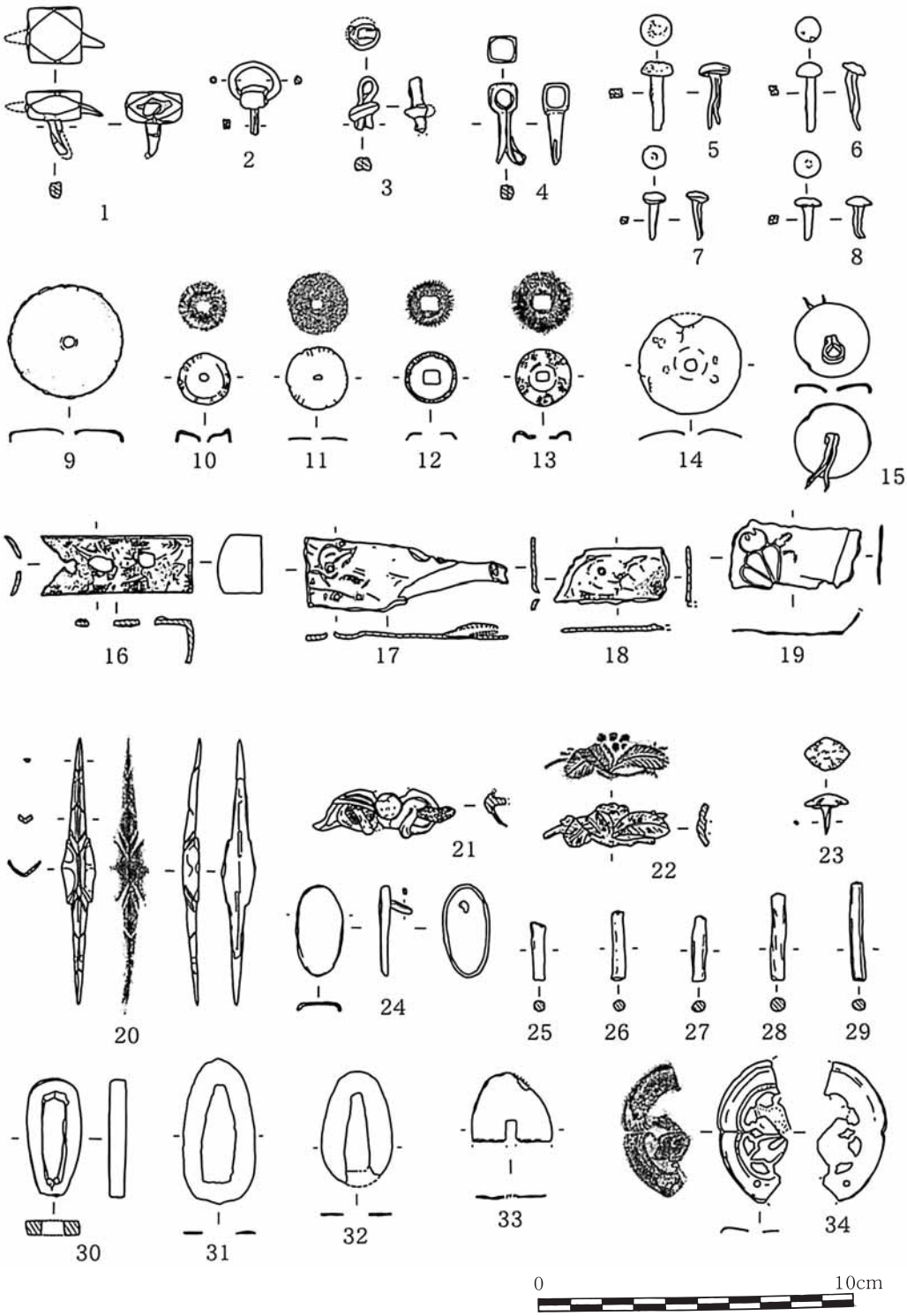
弾丸（104図-24） 鉄製の弾丸で重量6.9gを計る。この他にも図示してはいないが石製、土製、銅製のものも確認されている。

環状鉄製品（104図-25） 断面形円形で環をつくる鉄製品が検出されている。用途は明らかでないが日常品の金物類などを推定する。

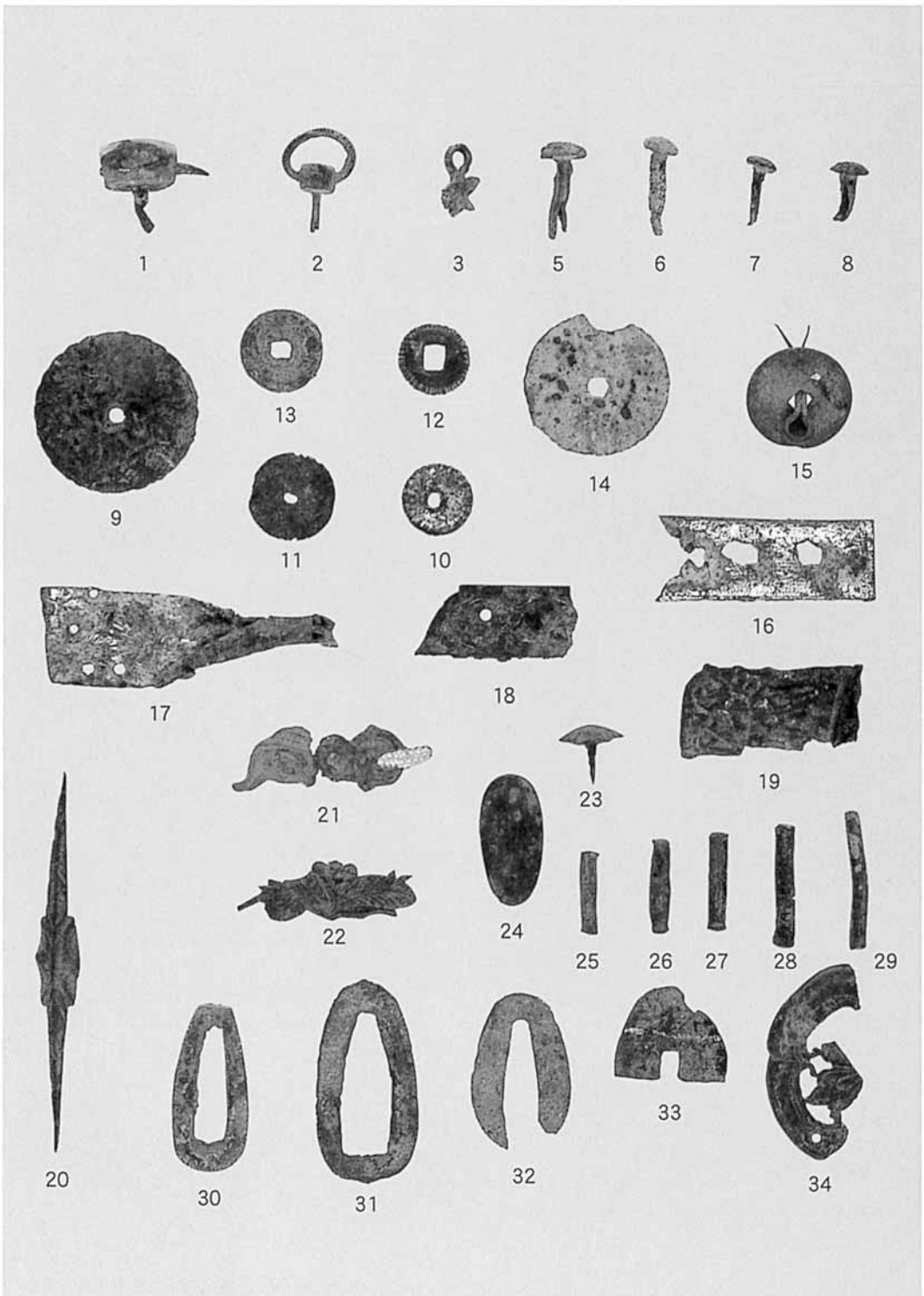
不明鉄製品（104図-19） 急須・鍋などの肩部あるいは防具類の破片と推定される製品である。中央部に浮文で回線、円形の浮文が表出している。

註文献

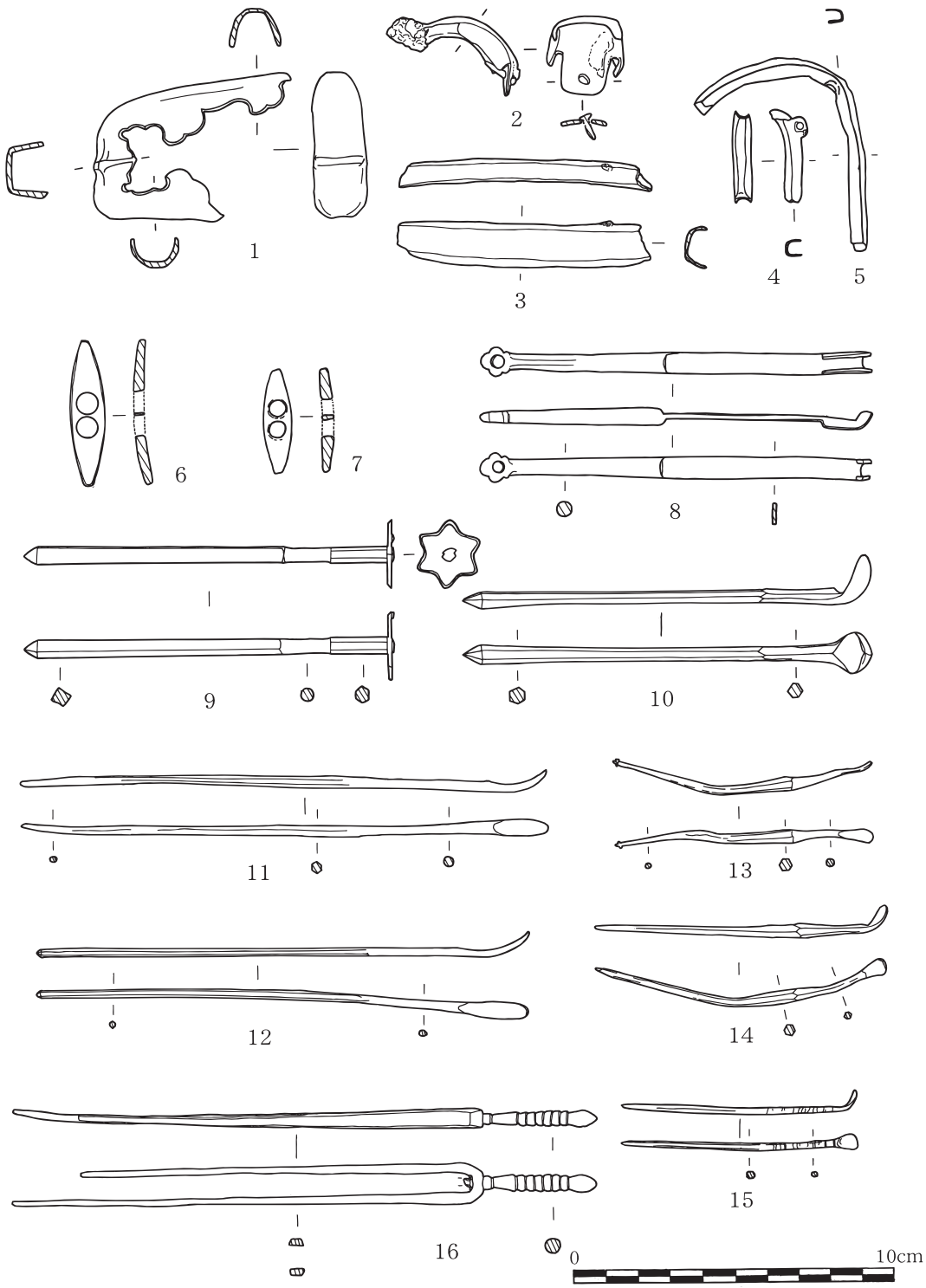
58. 朝倉氏遺跡調査研究所 1978年『特別史跡 一乗谷朝倉氏遺跡』X
59. 石垣市教育委員会編 1984年『フルスト原遺跡』石垣市文化財調査報告書第7号
60. 名護市教育委員会編 1992年『宇茂佐古島遺跡』名護市文化財調査報告10
61. 今帰仁村教育委員会編 1983年『今帰仁城跡発掘調査報告Ⅰ』今帰仁村文化財調査報告書第9集



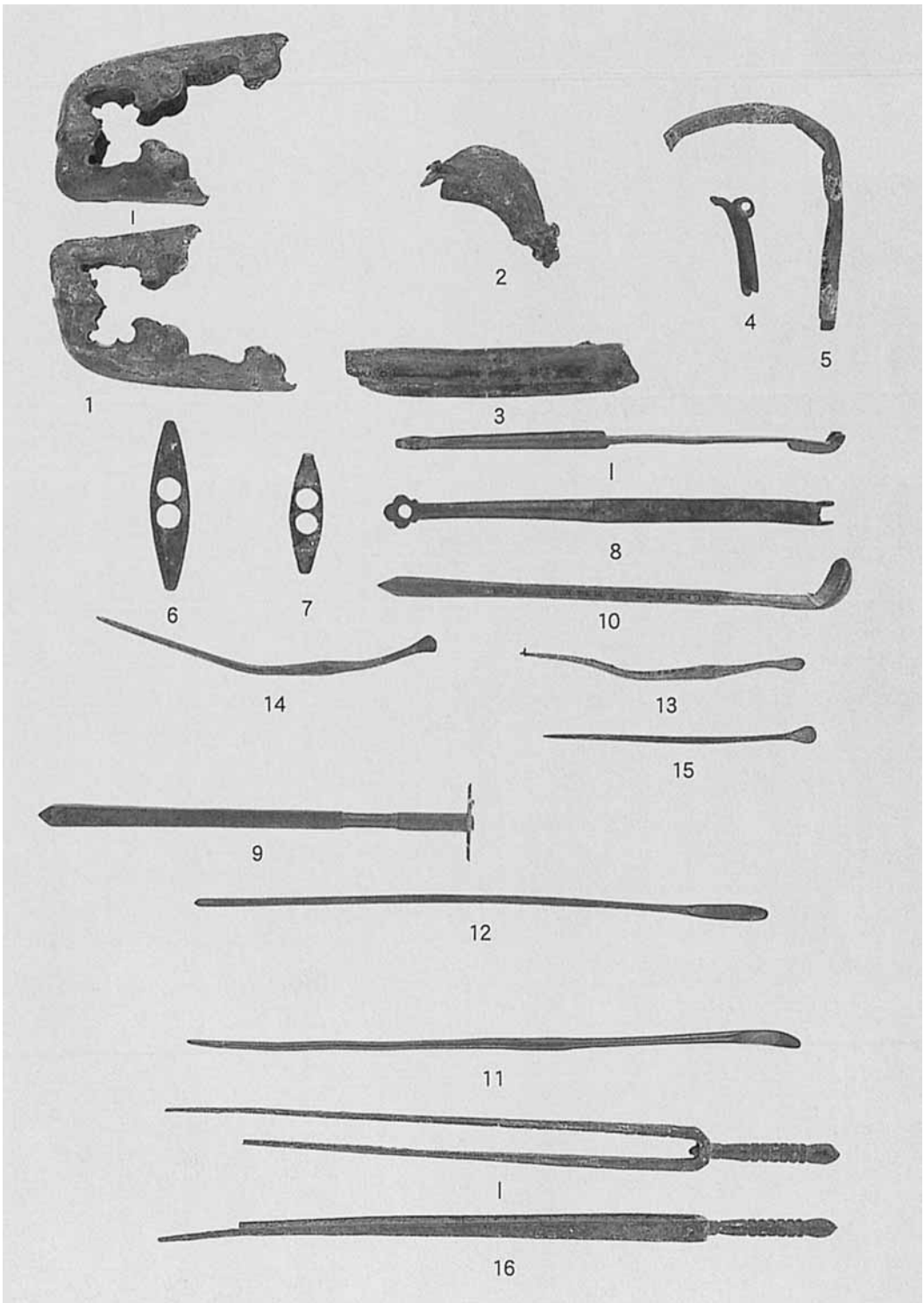
第 99 図 (PL.115)　金属製品　1 ～ 8・15. 鋲　9 ～ 15. 座　16 ～ 19. 八双金具
20 ～ 24. 目貫　25 ～ 29. 目釘　30 ～ 33. 切羽　34. 不明製品



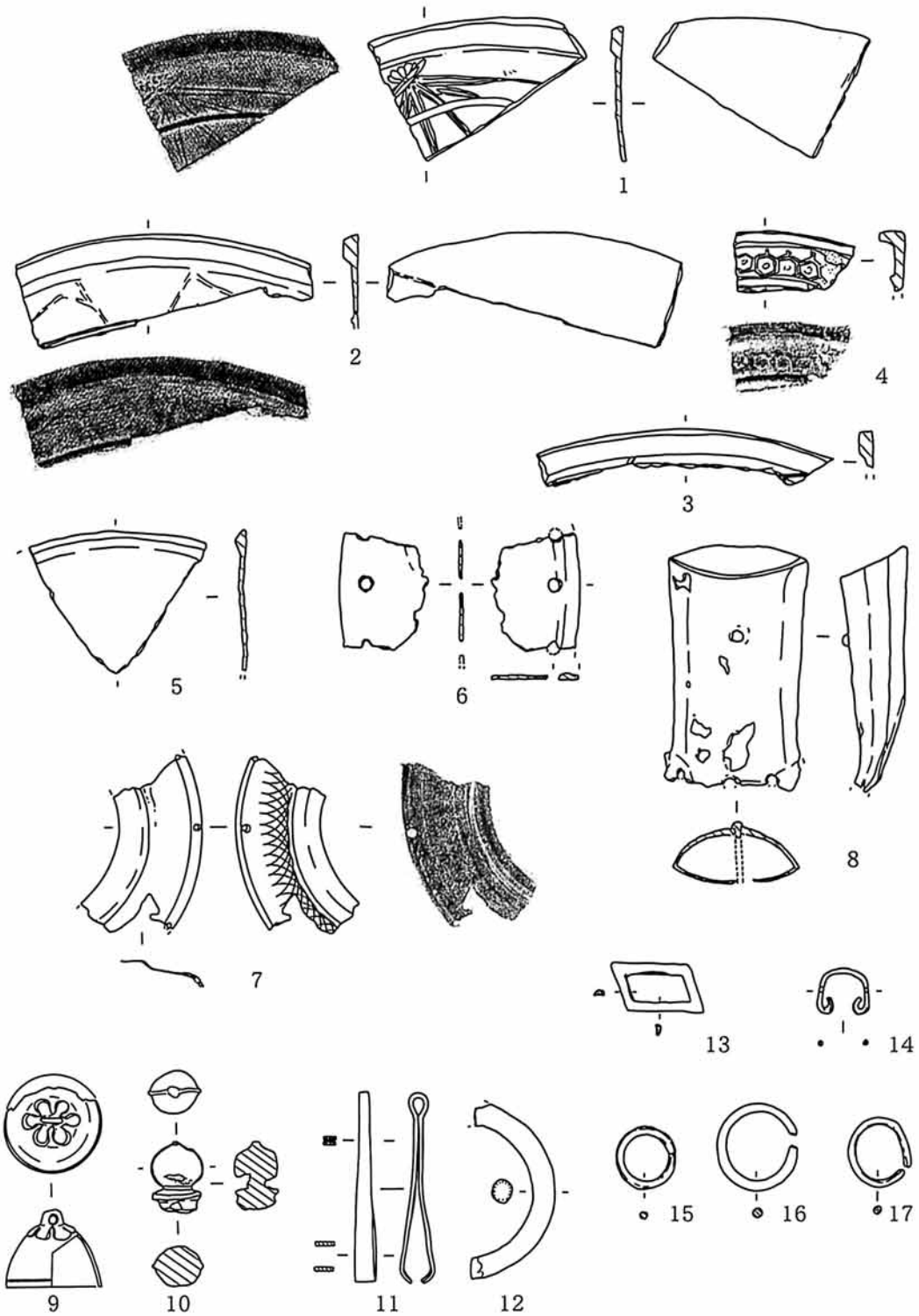
PL.115(第 99 図)　金属製品　1 ～ 8・15. 鋲　9 ～ 15. 座　16 ～ 19. 八双金具
20 ～ 24. 目貫　25 ～ 29. 目釘　30 ～ 33. 切羽　34. 不明製品



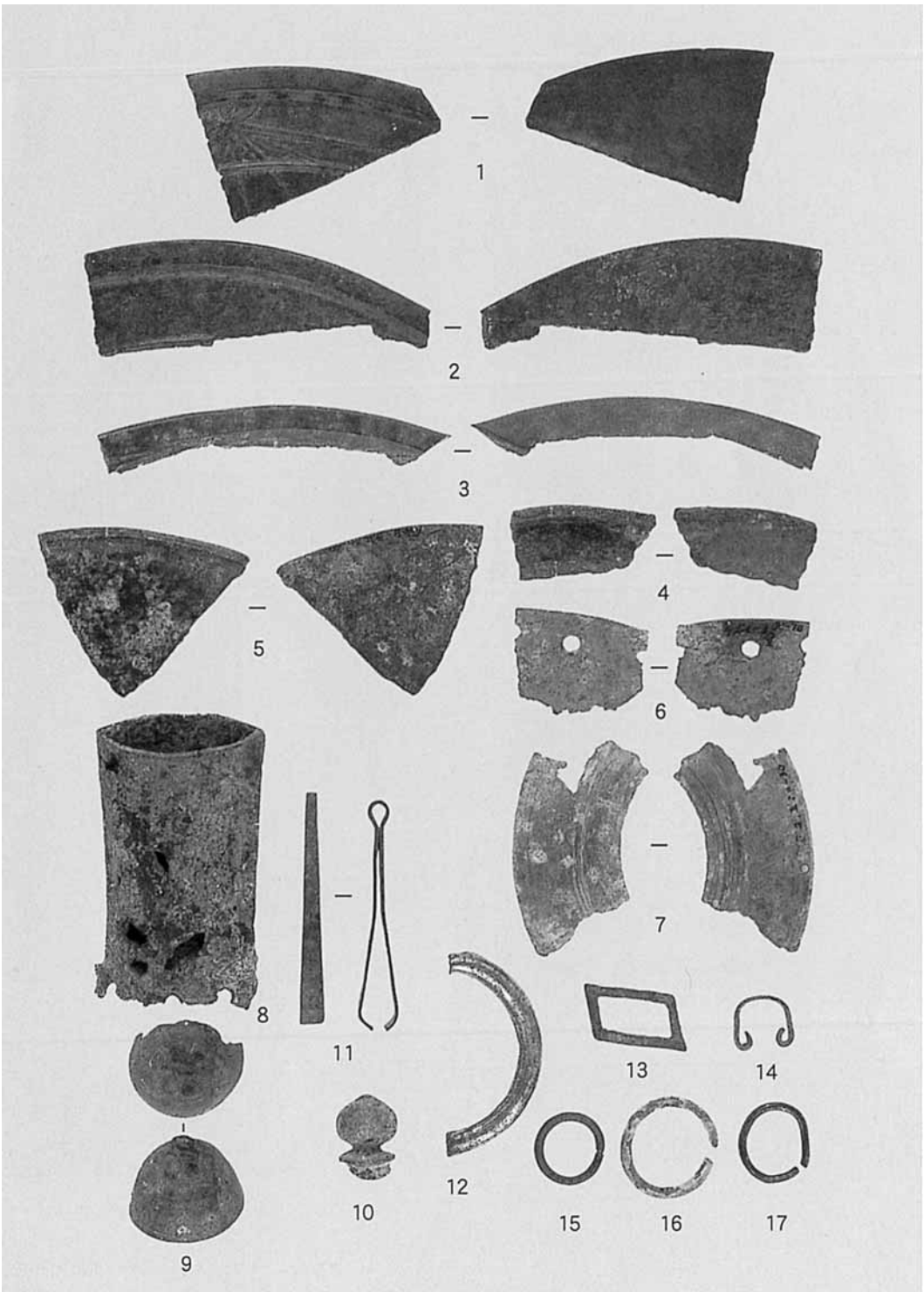
第 100 図 (PL.116)　金属製品　1・2. 刀鞘尻（？）　3 ～ 5. 覆輪　6・7. 鞍　8. 鍵
9 ～ 16. 轡



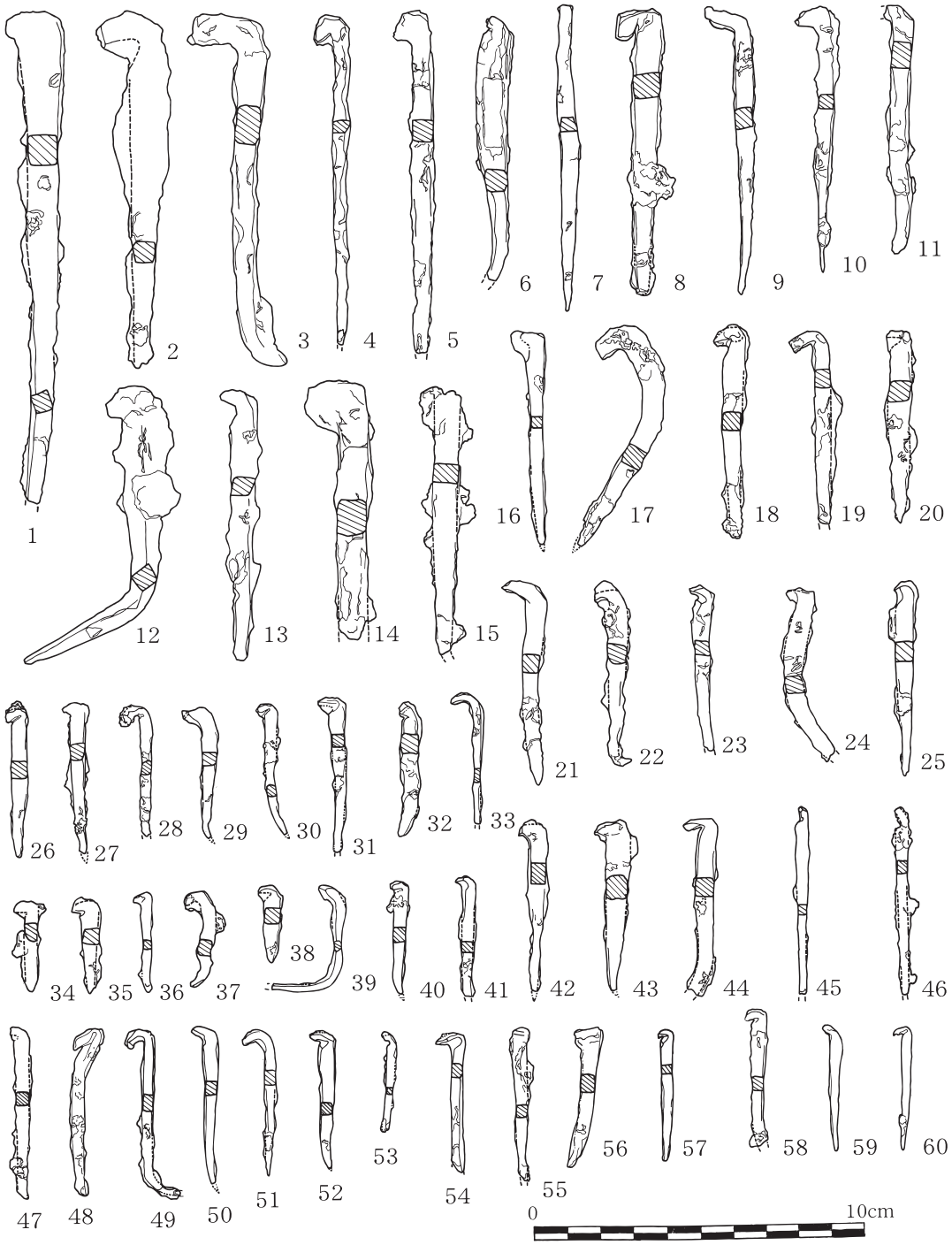
PL.116（第 100 図）　金属製品　1・2. 刀鞘尻（？）　3 ～ 5. 覆輪　6・7. 鞐　8. 鍵　9 ～ 16. 簪



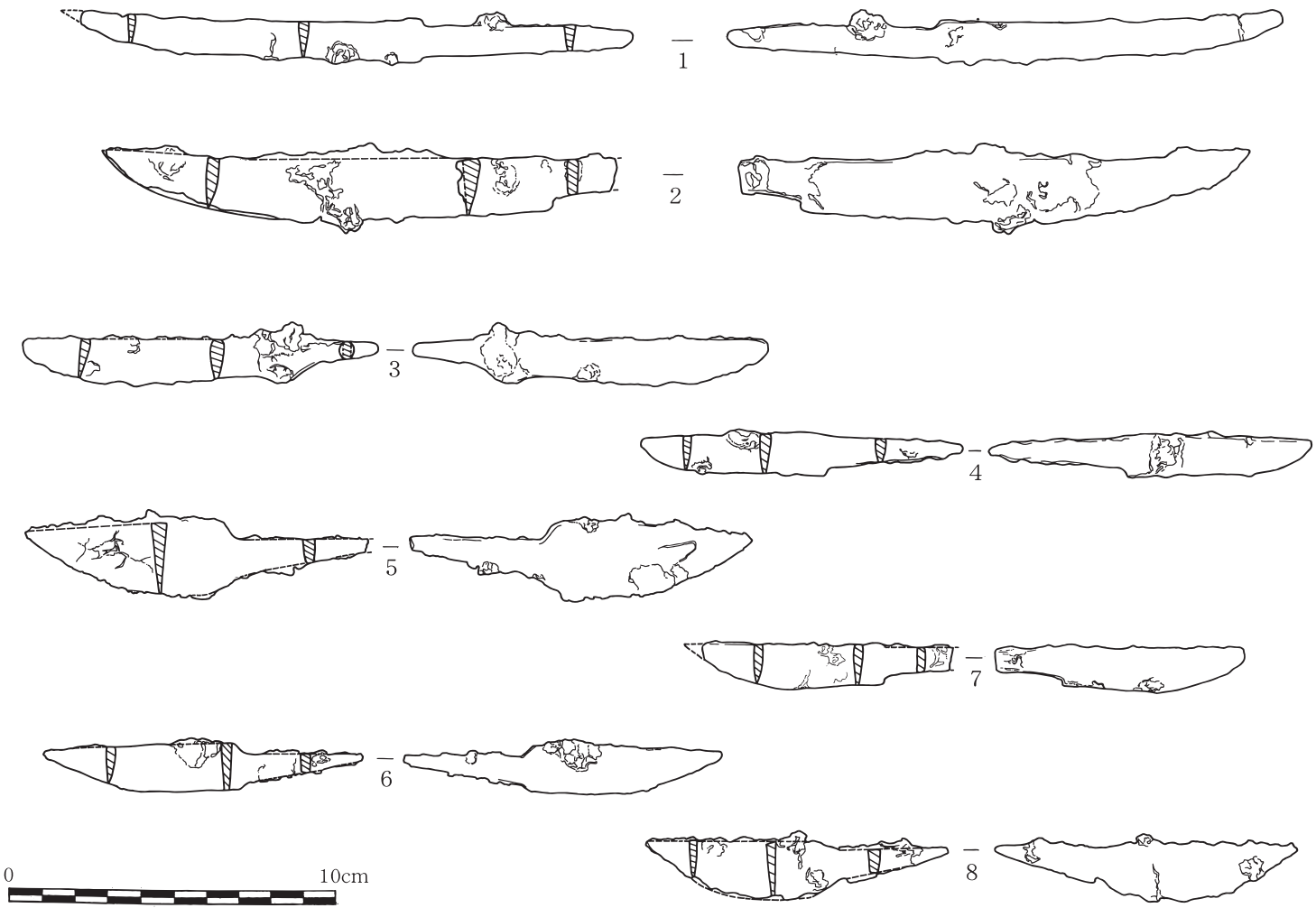
第 101 図 (PL.117)　金属製品　1 ～ 6. 鏡　9. 鈴状製品　10. 取手状製品　11. 毛抜き
7・8・12 ～ 17. 用途不明製品



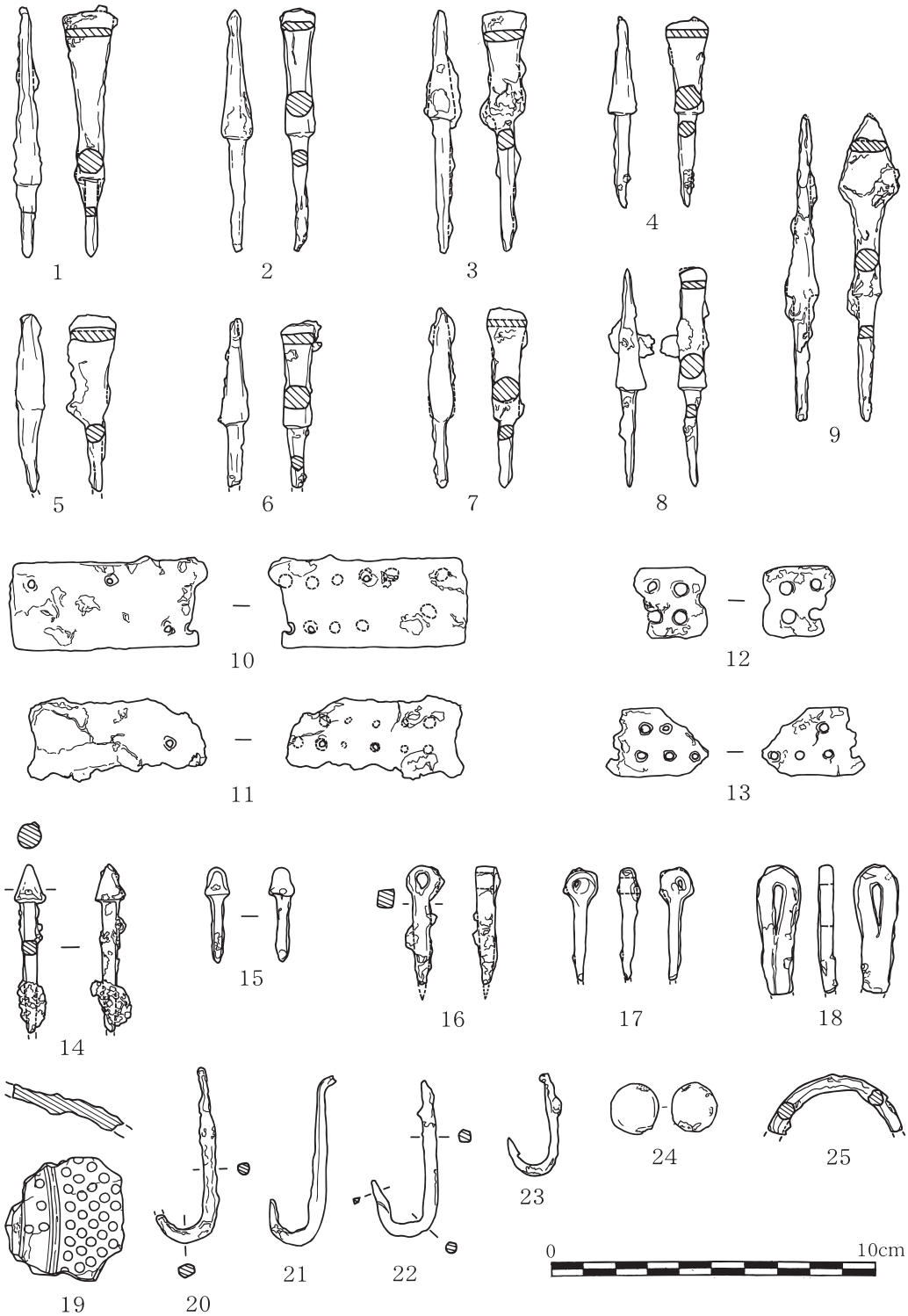
PL.117(第 101 図)　**金属製品**　1 ～ 6. 鏡　9. 鈴状製品　10. 取手状製品　11. 毛抜き
7・8・12 ～ 17. 用途不明製品



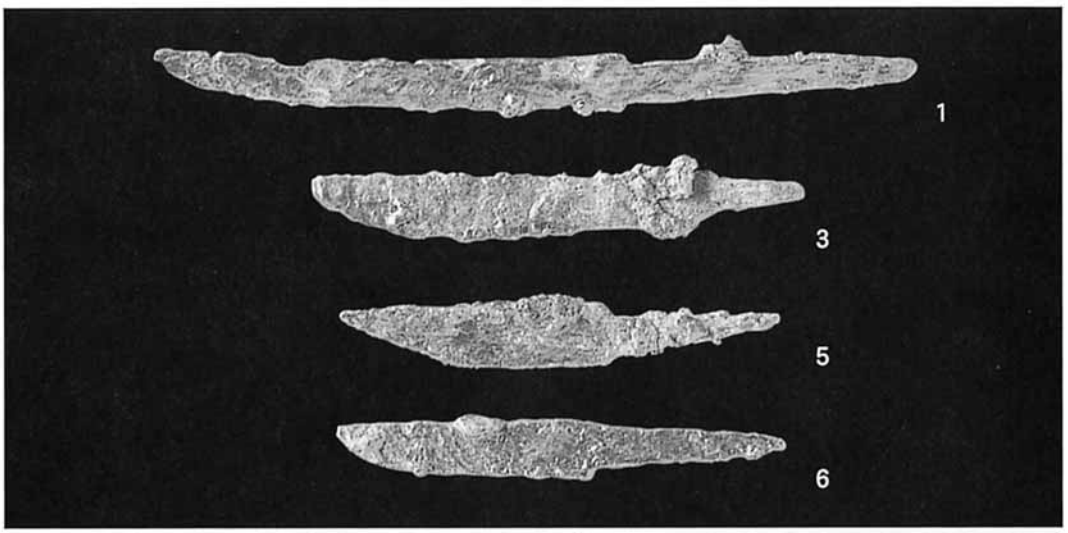
第 102 図 (PL.118)　金属製品　1 ～ 60. 釘

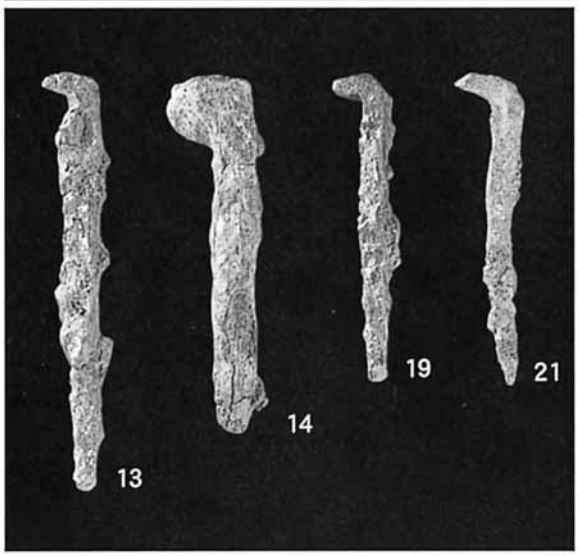


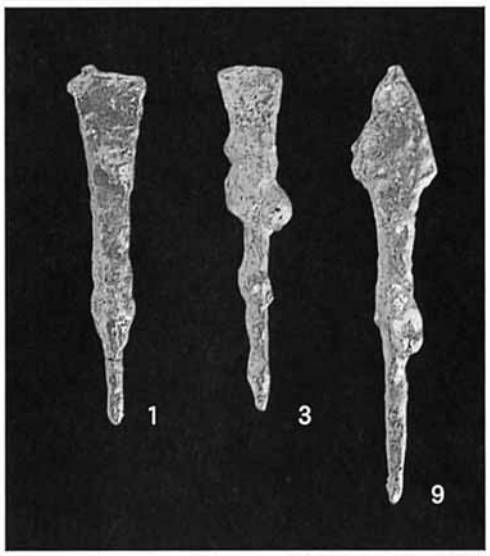
第 103 図 (PL.118)　金属製品　1 ～ 8. 刀子

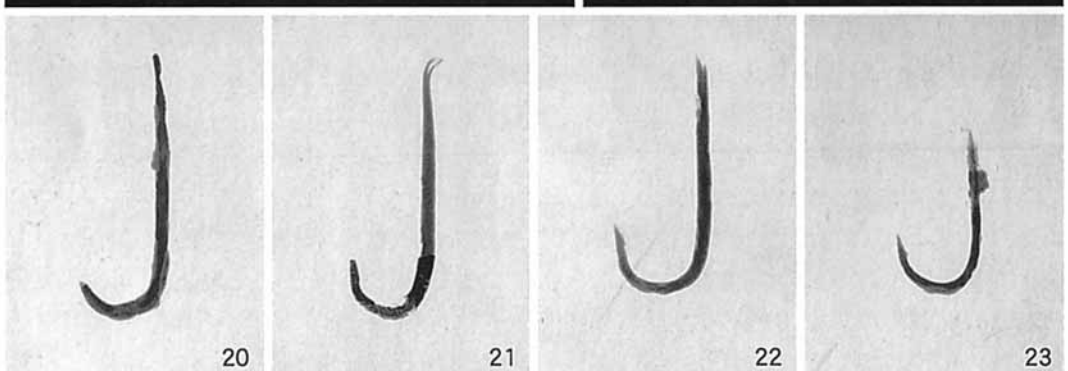


第 104 図 (PL.118)　金属製品　1 ～ 9. 鉄鏃　10 ～ 13. 小札　14 ～ 18. 鋲
20 ～ 23. 釣針　24. 鉄弾　19・25. 用途不明製品









PL.118（第 103 図）　上：金属製品　刀子（1・3・5・6）
（第 102 図）　中左：　〃　鉄釘（13・14・19・21）
（第 104 図）　中右：　〃　鉄鏃（1・3・9）
下：　〃　釣針（20 ～ 23）※ X 線撮影

※第 102 ～ 104 図の金属製品の写真（小札等）は割愛した。

第８節　石器

出土した石器の大半は砥石で、他に硯、臼などグスク時代になって出現すると考えられる特徴的な石製品と石斧、敲打器類のように先史時代からの系譜を引くと考えられる遺物の両者が確認されている。遊具については別項で紹介したのでここでは割愛した。第63表に出土石器一覧表を作成した。以下に分類にしたがって詳細を記述する。

石斧（第105図-1～4）　いずれの資料とも扁平で片刃で、刃の部分の加工に比べ身の部分の加工が粗造になる特徴を持つ。斧として機能したかは判然としないが形状から石斧とし分類した。石斧は志慶真門郭でも出土している。形状から貝塚時代の遺跡からの持ちこみを推定した[註62]。

くぼみ石（第105図-5）　欠損しているが石鹸状の石器の側縁部と表裏面に打痕を持つ。

クガニイシ（第105図-6）　やや扁平ではあるが、断面蜜柑房状の石に下端、側面に敲打痕を残す石器である。いわゆるクガニイシとして知られる遺物[註63]で、グスク時代の遺跡からの出土例に乏しく貝塚時代の遺跡からの出土が知られている。

砥石（第106・107図）　砥石は形状から判断して携帯用のⅠ類と、非携帯用の置砥石にⅡ類に大別した。Ⅰ類（第106図）は方柱状でいわゆる提砥とされるもので、志慶真門郭の報告[註64]では短冊形護符として報告した資料がこれである。頭部に孔を穿っており、形状・材質などからａ種：硬質の石材を選択し縦に長い断面略方形の製品（同図-1～5）と、ｂ種：軟質の石材を選択しやや扁平の断面を持つ資料（同図-6～8）に細別した。Ⅱ類は（第107図）滑な研ぐ面を１つ以上持つもので、孔は穿たれず重量が前者に比して重いものである。自然石を利用し研面でない自然面を有するもの（同図-1・2)、かなり頻繁に利用され四面が研面として利用され、湾曲が著しく砥面には刃跡が残るものも少なくない(同図-3～5)。

石臼（第108図）　石臼は植物類、特に穀物の製粉等に用いたと推定される。杵とセットになって使われる搗き臼（同図-7）と、上下２部構造になり接触面に歯が刻まれる碾臼（同図-1～6）がある。

硯（第109図-1～4）　硯の石材はいずれも沖縄では産出しない石を使用しており搬入品と考えられる。同図-4は硯の破片と推測され装飾が施される。

錘（第109図-5～7）　石製の錘で、提砥石の紐通し穴と同様の形状である。研ぐ面を持たないことなどから錘としたが、「網の錘」か「秤の錘」かは判然としない。

浮き（第109図-8）　軽石を加工したもので浮きと推測される。志慶真門郭[註65]でも類品が検出されている。卵形の外面に十字に溝を刻むことで固定させたものと推測する。

円盤状有孔製品（第110図-8・9）　円形に加工その中央に孔を穿つ。いずれも加工は粗造である。用途については不明で、類例の増加を待ち検討したい。

軽石蓋状製品（第110図-1）　軽石を加工した製品で、類例に糸数グスク出土の軽石加工品があり[註66]壺の蓋として推測する。本例も同様に取っ手状の瘤が上部に付くことから蓋と推測される。

その他（第 110 図-2 ～ 7）　用途不明の模造品がいくつか出土している。同図-2 は円盤状に加工し、同図-5 は方形にに加工いずれも砂岩質の資料である。同図-3・4 は小型の資料で表面を研磨し板状に加工する。同図-6・7 は柱状に加工し端部をいずれも欠く。あるいは用途としてハンマーの様な敲打器類を推測する。石質は提砥Ⅰａなどと近似する。

註文献

62. 今帰仁村教育委員会編　1983 年『今帰仁城跡発掘調査報告Ⅰ』今帰仁村文化財調査報告書第 9 集
63. 白木原和美　1978 年『クガニイシ』『法文論叢』第 41 号　熊本大学法文学部
64. 註 62 に同じ
65. 註 62 に同じ
66. 玉城村教育委員会編　1991 年『糸数城跡発掘調査報告書Ⅰ』玉城村文化財調査報告書第 1 集

	石斧	凹石	クガニイシ	砥石			石臼		硯	錘	浮き	不明	計
				提砥a	提砥b	置砥	擂き臼	碾臼					
第Ⅰ層	1		1		2		2	1	2	2		4	15
第Ⅱ層上部	1	1		12	2	3		10	2	1	1	8	41
第Ⅱ層下部				1		1		1				1	4
第Ⅲ層													
第Ⅳ層													
第Ⅴ層													
第Ⅶ層													
第Ⅶ層				2					1			7	10
第Ⅷ層													
第Ⅸ層				3								1	4
東壁内													
西壁内				1					1				2
南壁内													
北壁内													
土坑												1	1
二期造成地内				1									1
攪乱					1								1
その他不明	2					2		2				2	8
計	4	1	1	20	5	6	2	14	6	3	1	24	87

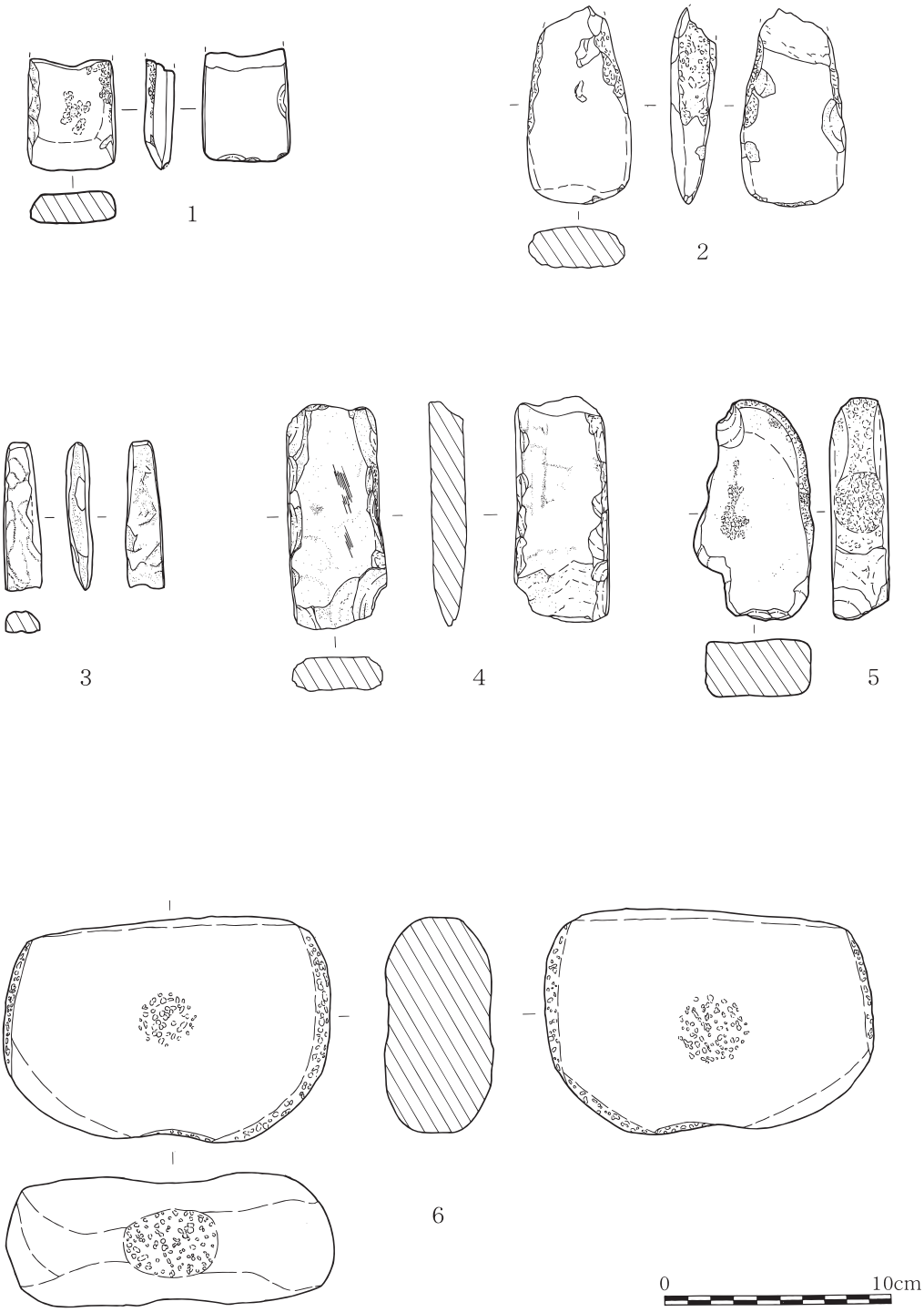
第 63 表　出土石器集計表

図番号 PL	番号	分類	計測値 (cm・g) 長さ	幅	厚み	重量	出土位置 地点	層位	観察（備考）
第105図 PL.119	1	石斧	残：4.7	3.6	1.3	50.5	A-3	Ⅱ層上部	前面が丁寧に磨かれた扁平片刃石斧。
	2	石斧	残：8.6	4.5	1.7	113.7	大庭土留（黒褐色層）		全面が丁寧に磨かた石斧の刃部資料。両面から刃を作り出す。
	3	石斧	6.5	1.6	1	16.7	A-3	Ⅱ層	側面は研磨されるが、他の面は一部を残して剥離。刃部は両面より研ぎ出す。
	4	石斧	10	4.2	1.5	105	本丸東側斜面		短冊形で、側面と刃部は敲打による整形で。刃部の一部欠く。
	5	凹石	残：9.4	残：5.4	2.6	200		今本表採	作業面は両面とも磨かれ、中央に敲打痕が残る。
	6	クガニイシ	14.2	9.8	5	1230	A-3	Ⅰ層	完形品。作業面の両面中央及び周縁に敲打痕を残す。
第106図 PL.120	1	砥石Ⅰa	14.3	2.1	1.4	100	E-1	Ⅸ層	全面が丁寧に磨かた完形品。側面と上部3カ所孔を穿ち紐通し穴とする。
	2	砥石Ⅰa	8.7	1.8	1.5	42.3	E-1	Ⅱ期造成層内	ほぼ完形だが使用により減ずる。丁寧に面取りされ、側面と上部3カ所孔を穿ち紐通し穴とする。表面は赤褐色だが、下部は擦れ灰色となる。
	3	砥石Ⅰa	残：8	2.5	残：1.1	33.8	C-2	Ⅱ層上部	ほぼ完形だが使用により減ずる。丁寧に研磨、角部は面取りされ、側面と上部3カ所孔を穿ち紐通し穴とする。破損し2分するため孔の状況がよく分かる。
	4	砥石Ⅰa	8.6	2.8	1.4	61.1	E-1	Ⅸ層	上部欠損。丁寧に研磨される。
	5	砥石Ⅰa	残：6.4	1.9	1.2	26.6	A-3	Ⅱ層上部	丁寧な研磨で角は面取りれる。線状の使用痕？が認められる。
	6	砥石Ⅰb	残：4.1	2.4	1.5	24.6	B-1	Ⅱ層上部	上端中央に紐通し孔が穿つが上部を欠損。作業面中央が凹む。
	7	砥石Ⅰb	5.2	3.3	0.9	26.3	不明		上部に直径0.5cmの紐通し孔を穿つ。
	8	砥石Ⅰb	残：3.3	2.5	1.1	13.5	B-2	Ⅱ層上部	四角形の提砥で、上部突起部に孔を穿ち紐通し穴とする。
	9	砥石Ⅰ類未製品	7.8	9.8	2.2	240	A-3	Ⅱ層上部	丁寧に磨かれ扁平な材をつくり、V字状の溝を両面から彫り擦り切り技法により柱状の砥石Ⅰ類をつくる、製作途上品と推定される。
	10	砥石Ⅰ類未製品	残：8.6	2.9	2.4	93.8	C-3	Ⅰ層（表土）	前述したNo9の資料の切り取った資料で未製品である。
第107図 PL.121	1	砥石Ⅱ類	9.4	7.4	4.6	285	D-1	東側城壁内	短軸方向の断面は扇形をし、作業面はは滑らかである。細かい傷が確認される。作業面以外は自然礫の表面となる。
	2	砥石Ⅱ類	12.2	4.5	2.3	195	B-1	Ⅱ層上部	作業面が一面の資料で斜め方向に細い傷が数本ある。
	3	砥石Ⅱ類	10.9	8.1	5.7	545	B-1	Ⅱ下造	方柱状の四面が利用され滑らかである。
	4	砥石Ⅱ類	8	3.9	3.7	145	D-2	Ⅱ層上部	方柱状の四面が利用され滑らかである。
	5	砥石Ⅱ類	5.3	残：4.5	残：3.3	147	C-1	Ⅱ層上部	破損しているため二面の作業面を確認する。いずれとも細かい傷が見られる。
第108図 PL.122	1	碾臼	直径 磨面 19.4	外縁 36.6	高さ 8.6	重量 220	C-1	表土	石臼の一部で耳が確認される上臼資料。上部には1.5cm幅の溝が認められ、下面の作業面は細かく浅い溝が彫られている。
	2	碾臼	磨面 24	皿内縁 25	12	3310	D-1	Ⅱ層上部	上臼の破片資料で、皿受け部が確認される資料。間隔の広い溝が彫られる
	3	碾臼	磨面 19.4	－	6	1780	C-3	Ⅱ層	下臼で周囲には作業後挽いた製品を受ける皿状の受け部が廻る。中心軸部分が残る。作業面は5本一組（？）の溝が彫られている。
	4	碾臼	磨面 20.5	－	残：4.0	110	C-1	Ⅱ層上部	上下判別は不可能、溝が6本認められる。側面は敲打による整形。
	5	碾臼	磨面 22	－	残：5.4	215	不明	Ⅰ層	上下判別は不可能、溝が7本認められる。側面は敲打による整形。

第64表　出土石器観察表(1)

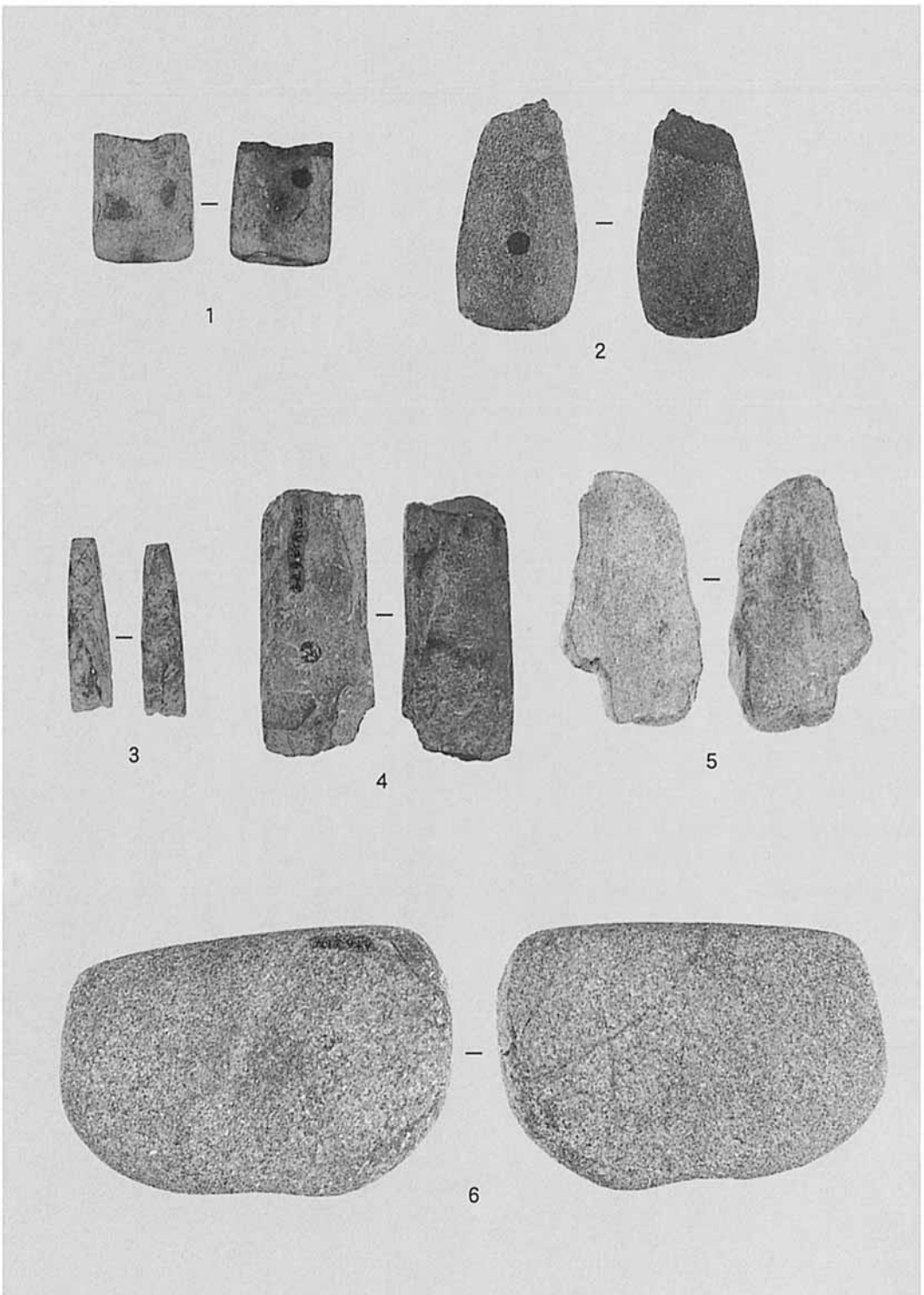
図番号 P L	番号	分類	計 測 値（cm・g）				出土位置		観 察（備 考）
			直径		高さ	重量	地点	層位	
第108図	6	碾臼	磨面：17		残：3.5	135	C-1	Ⅱ層上部	上下判別は不可能、溝が8本認められる。側面は敲打による整形。
	7	搗き臼	底径：8.3		7.4	1005	B-1	Ⅰ層	ニービの皿状の石片。外面は1～1.5cmのノミ加工痕が残る。
第109図 PL.123	1	硯	長さ	幅	厚み	重量	不明	Ⅶ層	硯の角部海部分。加工は丁寧で、全面磨かれていて、スベスベした手触りを受ける。角は面取りされる。
			残：4	残：3.9	0.8	23.1			
	2	硯	残4.7	残：4.8	残：3.1	75.5	D-1	表土	硯の角部陸部分。表面丁寧に整形され裏面には足が付き中空となる。
	3	硯	残：11.7	残：2.7	1.8	63.1	C-2	Ⅱ層上部	破損が著しいが、ほぼ縦の寸法がわかる資料。表面は丁寧に整形がされスベスベした手触りを受ける。底面はベタ底を推定する。
	4	硯	残：3.8	残：4.6	残：1.2	17.4	今本西壁内		硯片資料と推測される資料で、表面に彫刻が施してある。図柄は人物図で足か手の一部を確認することができる。
	5	錘	6	4.1	3.5	100	A-1	Ⅰ層	卵形をした石錘。上部に3つの孔を穿ち紐通しとする。
	6	錘	残：7.1	残：4.7	残：4.1	160	A-3	西壁沿表土	卵形円礫資料を丁寧に加工する。半分は破損しているが全形の分かる資料で、卵形の長軸と短軸にあわせて十字に溝を刻んでいる。
	7	錘	3.3	1.6	1.2	8.2	A-3	Ⅱ層上部	卵形をした石錘。外面に十字の溝を刻んでいる。志慶真門郭の資料にも同様の資料が数点得られている。
	8	ウキ	2.8	1.7	2.1	1.8	B-3	Ⅱ層	黄褐色の軽石円礫をほぼ自然形体の状態で利用し、外面には溝が十字に刻まれるが途中途全周していない部分もある。
第110図 PL.124	1	蓋？	残：6.1	残：2.8	残：2.5	13	E-1	Ⅶ層	軽石の蓋状製品とした、同形の資料に滑石で作ったバレン状製品があるが用途は不明。下面は凸面となり丸みをもって仕上げられる。上面、突起部には中央にくぼみがあり穴を穿っていたと想定される（？）。一部煤けているようにも観察される黒変する部分あり。
	2	模造品	4.5	3.5	1.5	31.1	今本表土		楕円形をした石製模造品。表・裏面は平坦に加工される。
	3	模造品	6	2.1	0.6	17.4	B-1	Ⅱ層下部	用途不明の石製模造品。加工は丁寧で全面に研磨される。
	4	模造品	3.6	1	0.4	3.3	A-2	Ⅱ層上部	用途不明の石製模造品。加工は丁寧で全面に研磨される。
	5	模造品	2.8	2	2	21	C-2	表土	方柱状に加工された模造品で上部には突起が付いていたようだが破損する。用途不明。
	6	模造品	16.9	5.2	3.1	455	B-1	表土	端部が部分的に欠損。角は面取りされ六角形をなす。全面に研磨が徹底しする。用途不明の石製品だが材質等は砥石Ⅰ類Aタイプの資料に近似する。
	7	模造品	14.1	4.3	2.6	292.5	B-1	Ⅱ層上部	端部が部分的に欠損。角は面取りされ六角形をなす。全面に研磨が徹底しする。用途不明の石製品だが材質等は砥石Ⅰ類Aタイプの資料に近似する。
	8	模造品	7.8	8.4	2.6	294	F-1	石囲土坑内下部	扁平な自然礫の中央部を加工穿孔したと考えられる資料。用途不明。
	9	模造品	直径：15.0	7.4	2.5	315	不明		千枚岩を円形に加工し中央部を穿孔、穿たれた孔は著しく磨れ平滑になる。用途不明。

第65表　出土石器観察表(2)

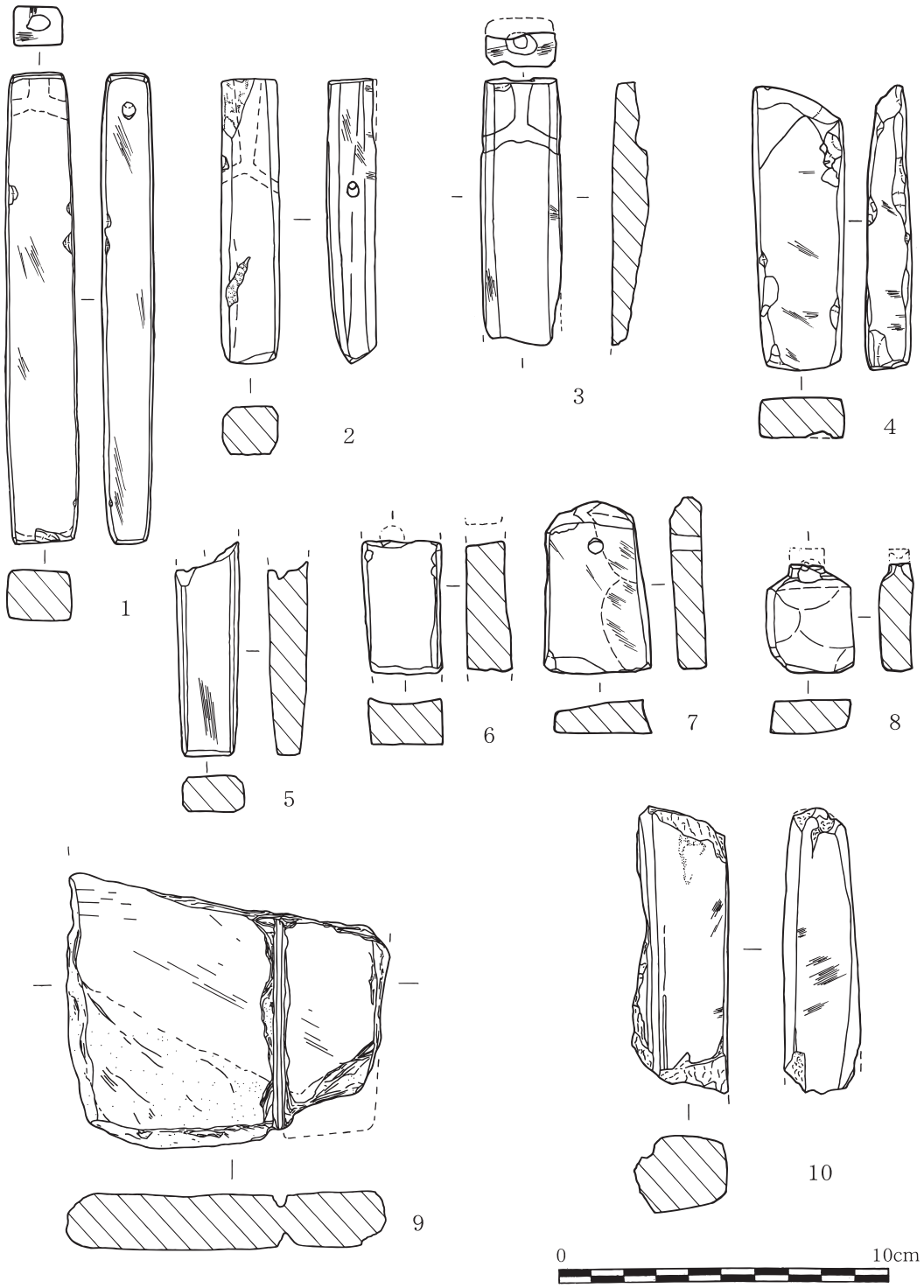


第 105 図 (PL.119)　石器

1 ～ 4. 石斧　5. 凹石　6. クガニイシ



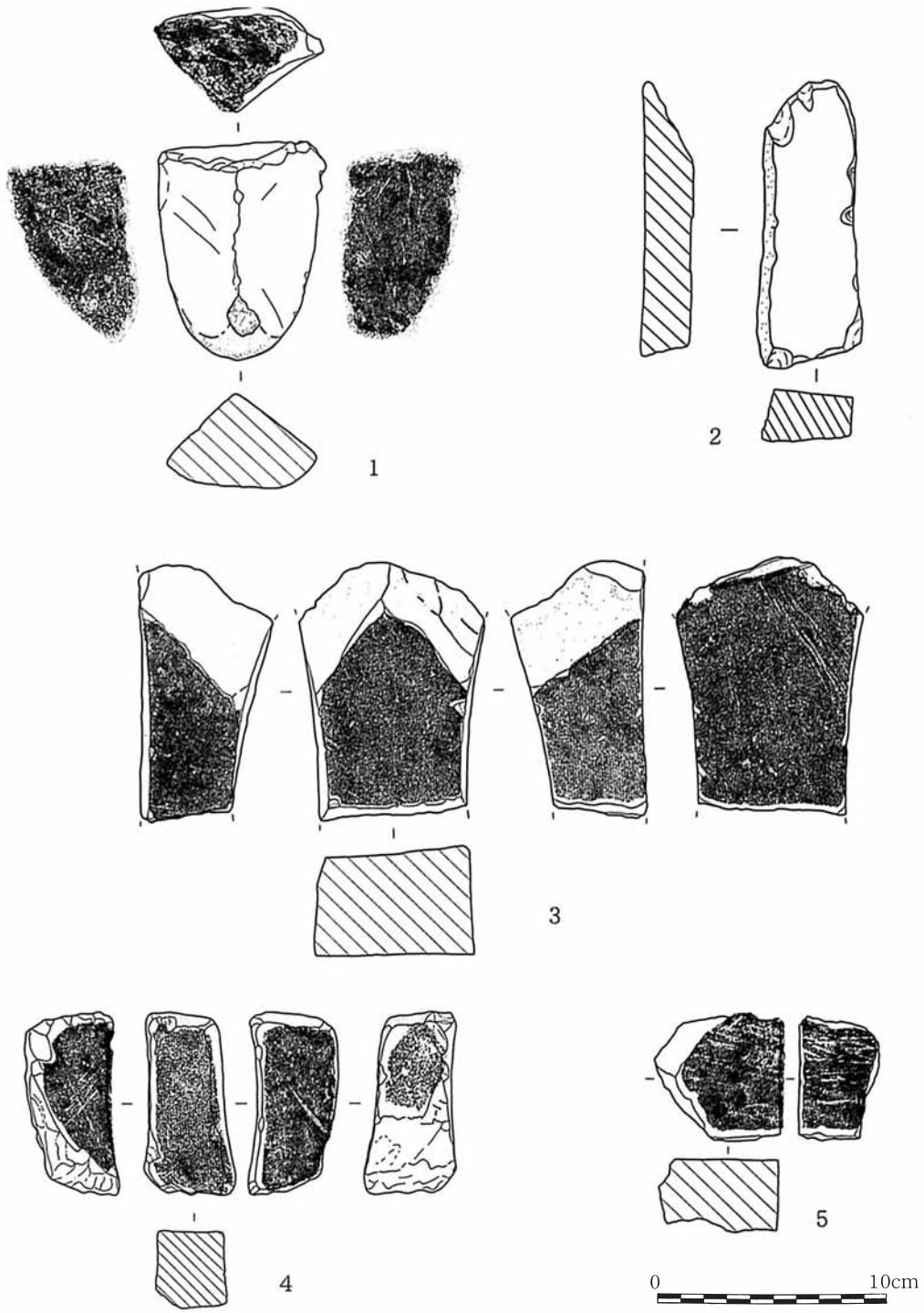
PL.119（第 105 図）　石器
1 ～ 4. 石斧　5. 凹石　6. クガニイシ



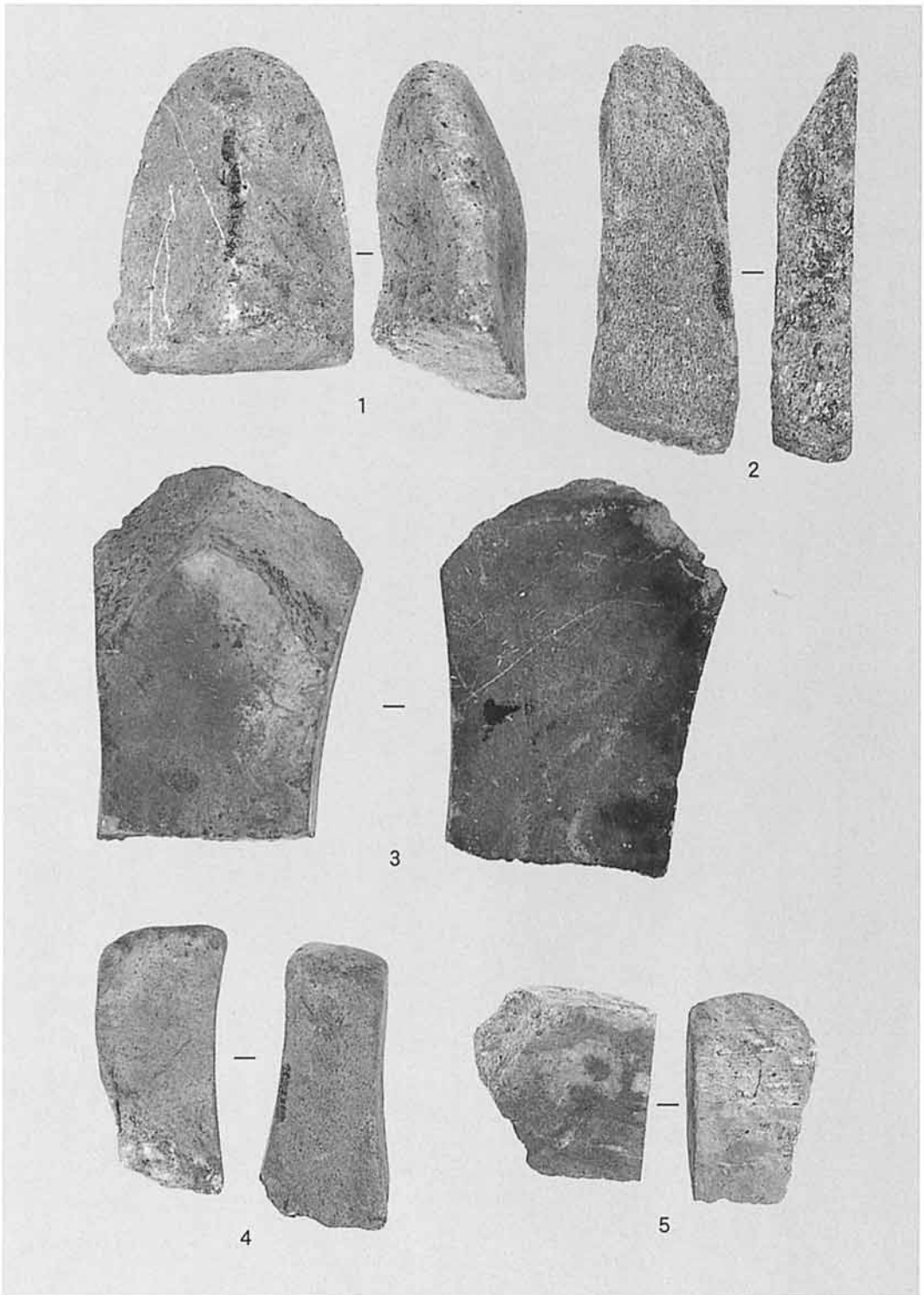
第 106 図 (PL.120)　石器（提砥）　1 ～ 5. Ⅰ類ａ種　6 ～ 8. Ⅰ類ｂ種
9・10. Ⅰ類未製品



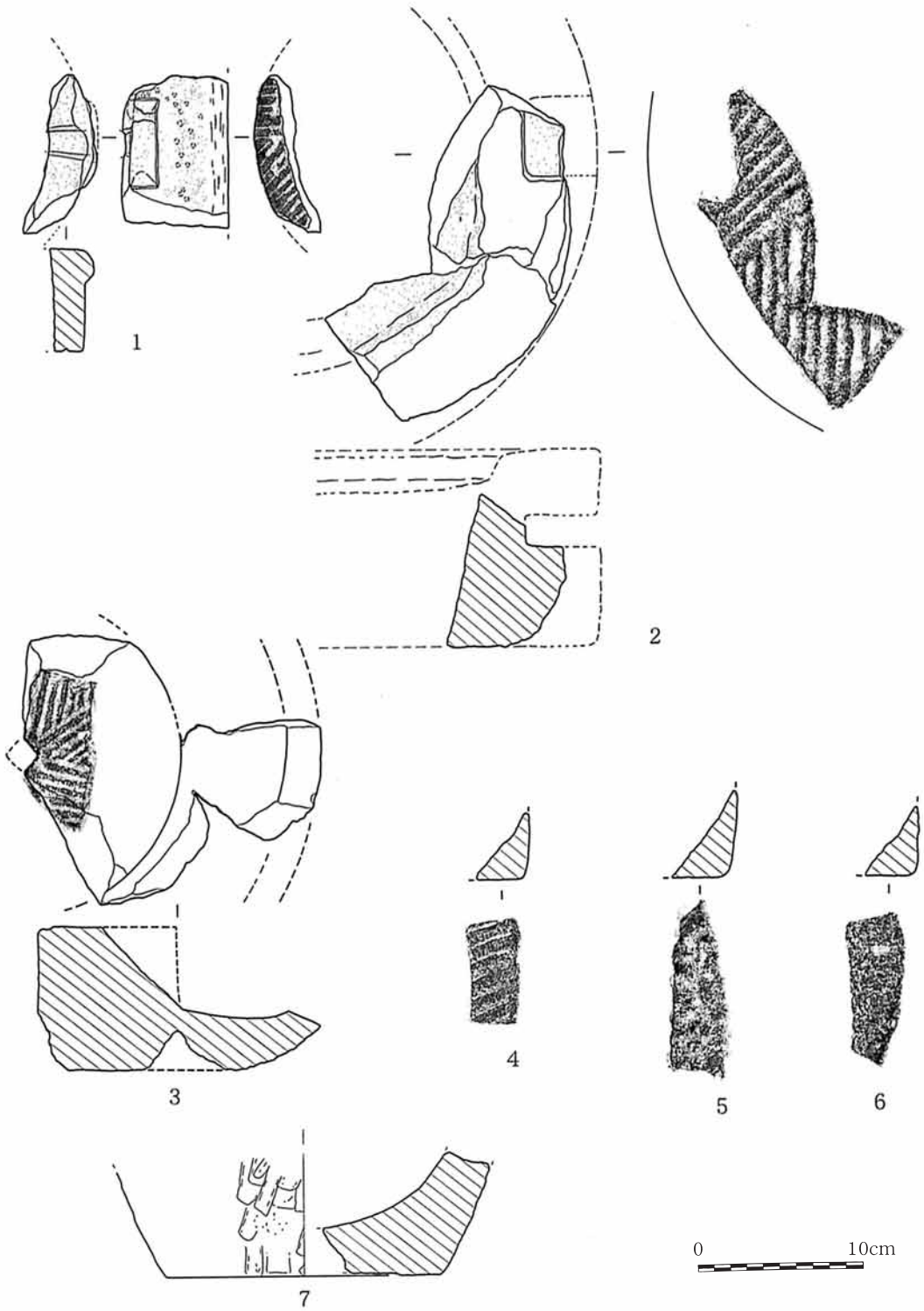
PL.120(第 106 図)　石器（提砥）　1 ～ 5. Ⅰ類ａ種　6 ～ 8. Ⅰ類ｂ種
9・10. Ⅰ類未製品



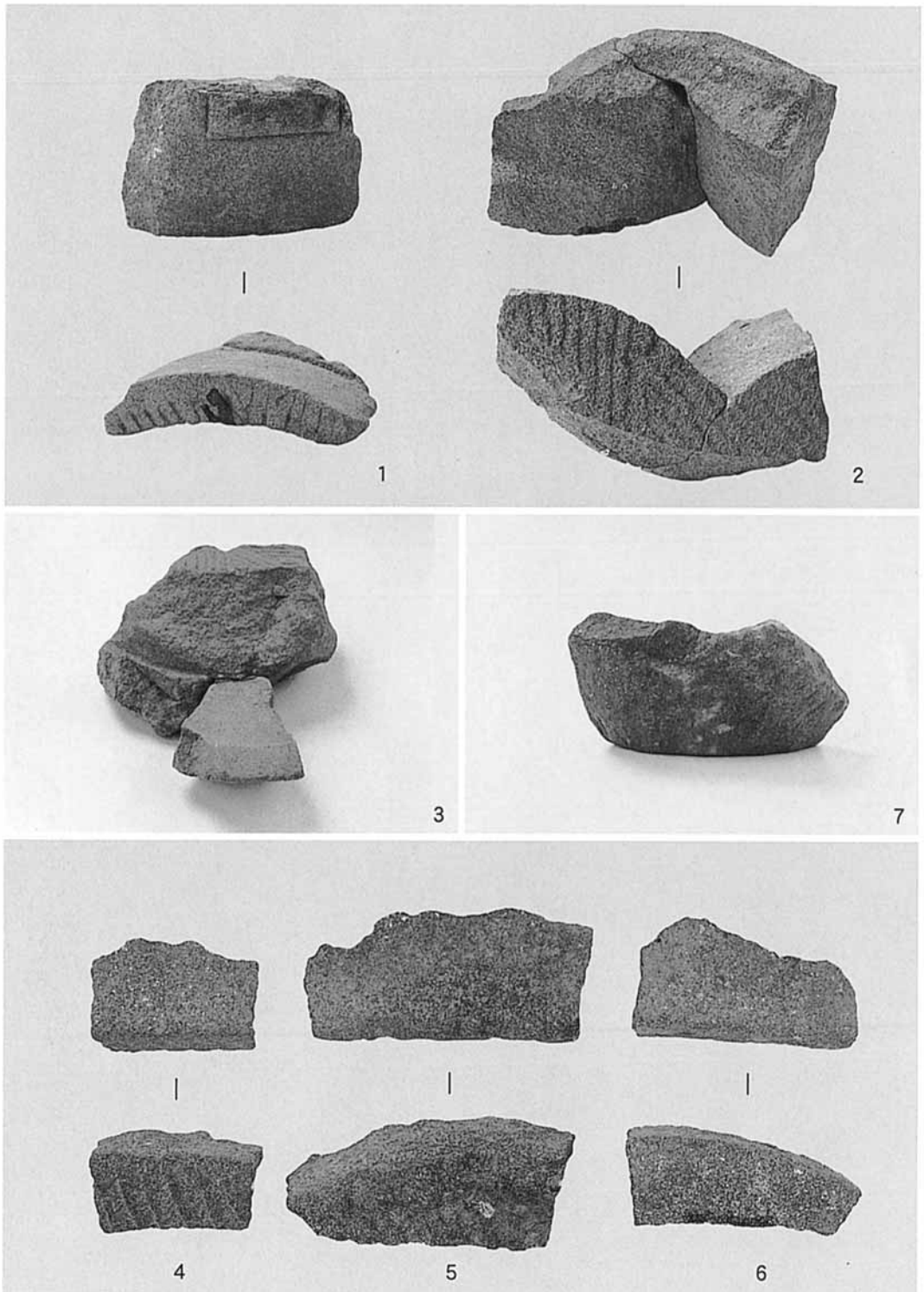
第 107 図 (PL.121)　石器（置き砥石）



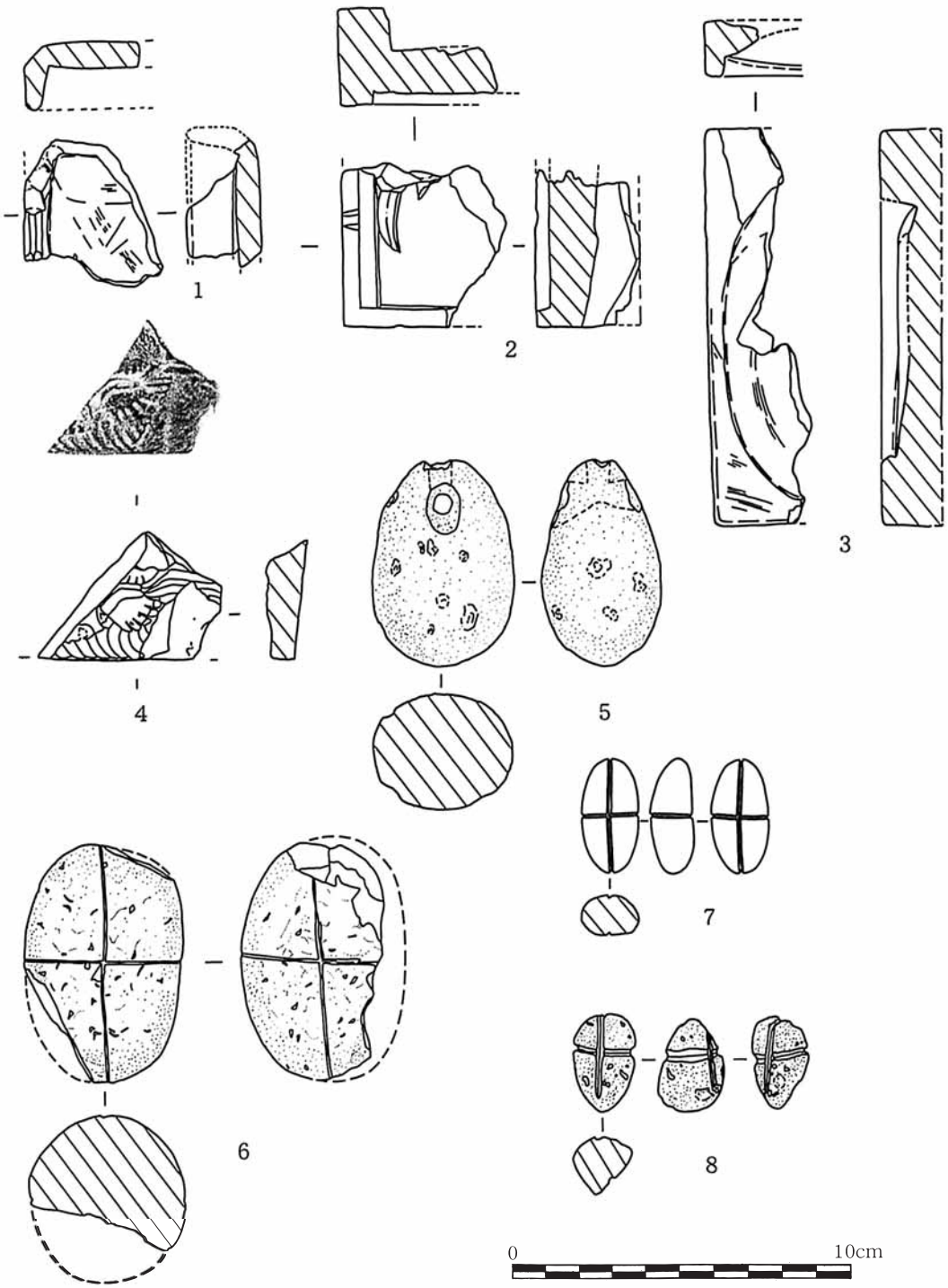
PL.121(第 107 図)　石器（置き砥石）



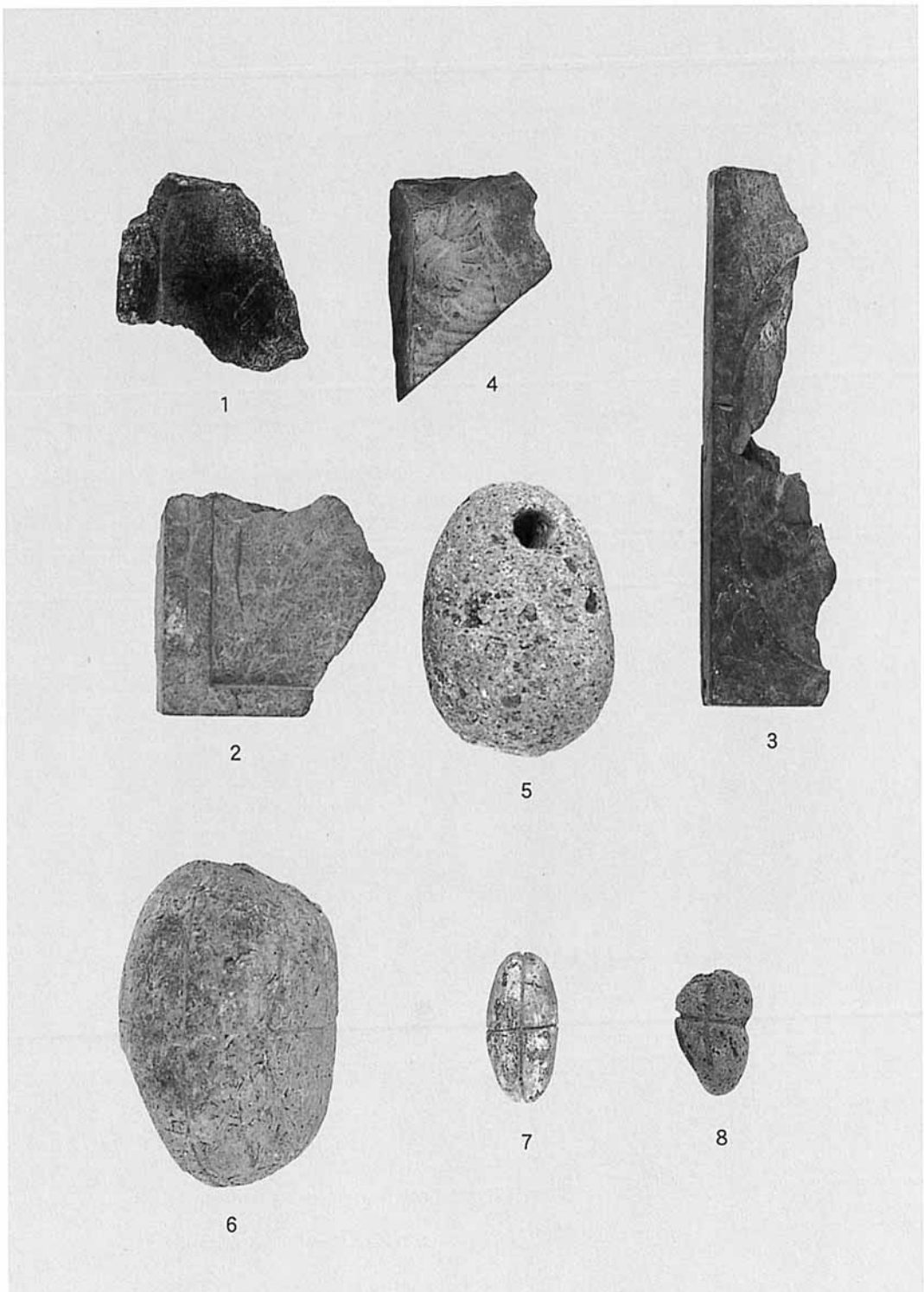
第 108 図 (PL.122)　石器（石臼）
1 ～ 6. 碾臼　7. 搗き臼



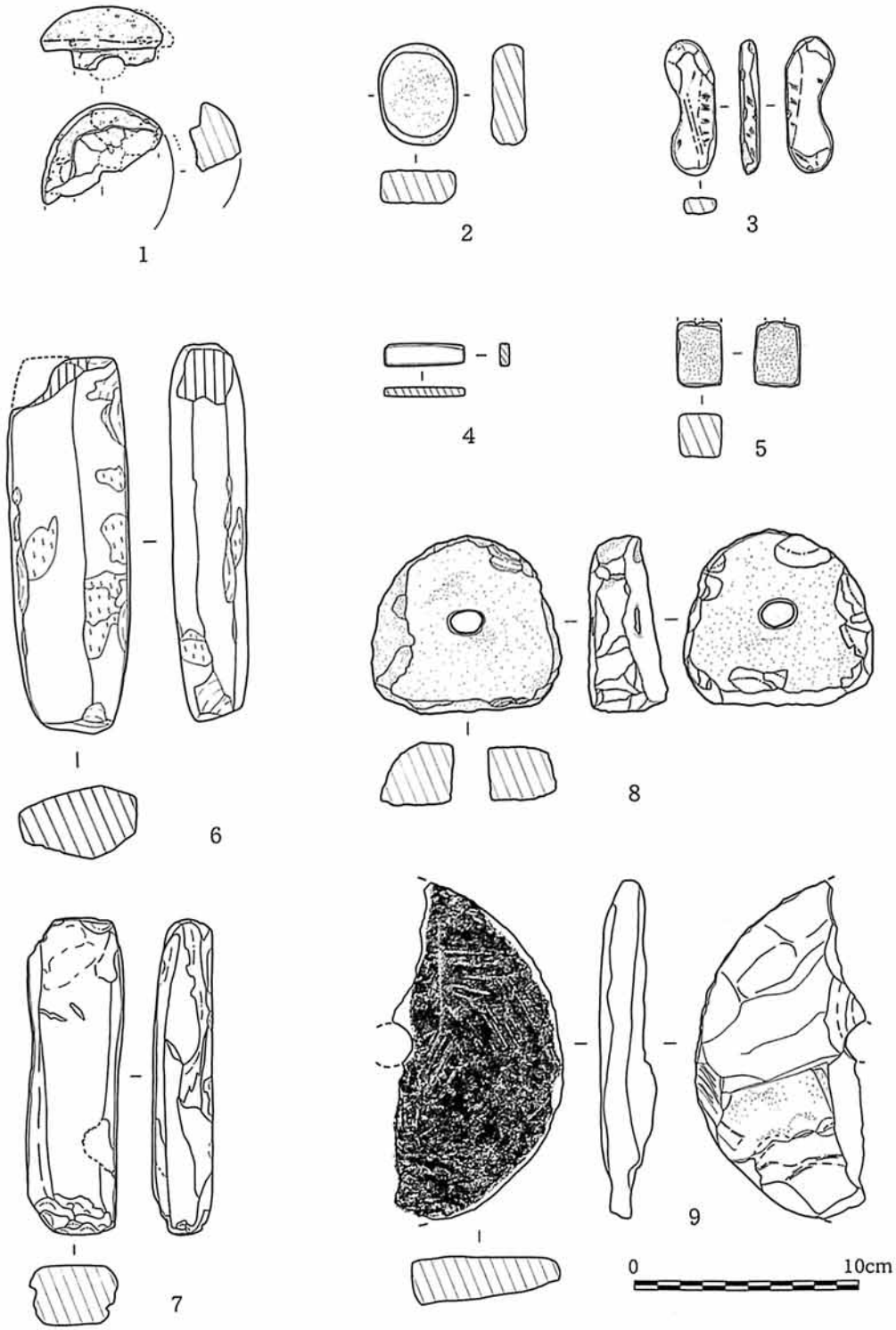
PL.122(第 108 図)　石器（石臼）
1 ～ 6. 碾臼　7. 搗き臼



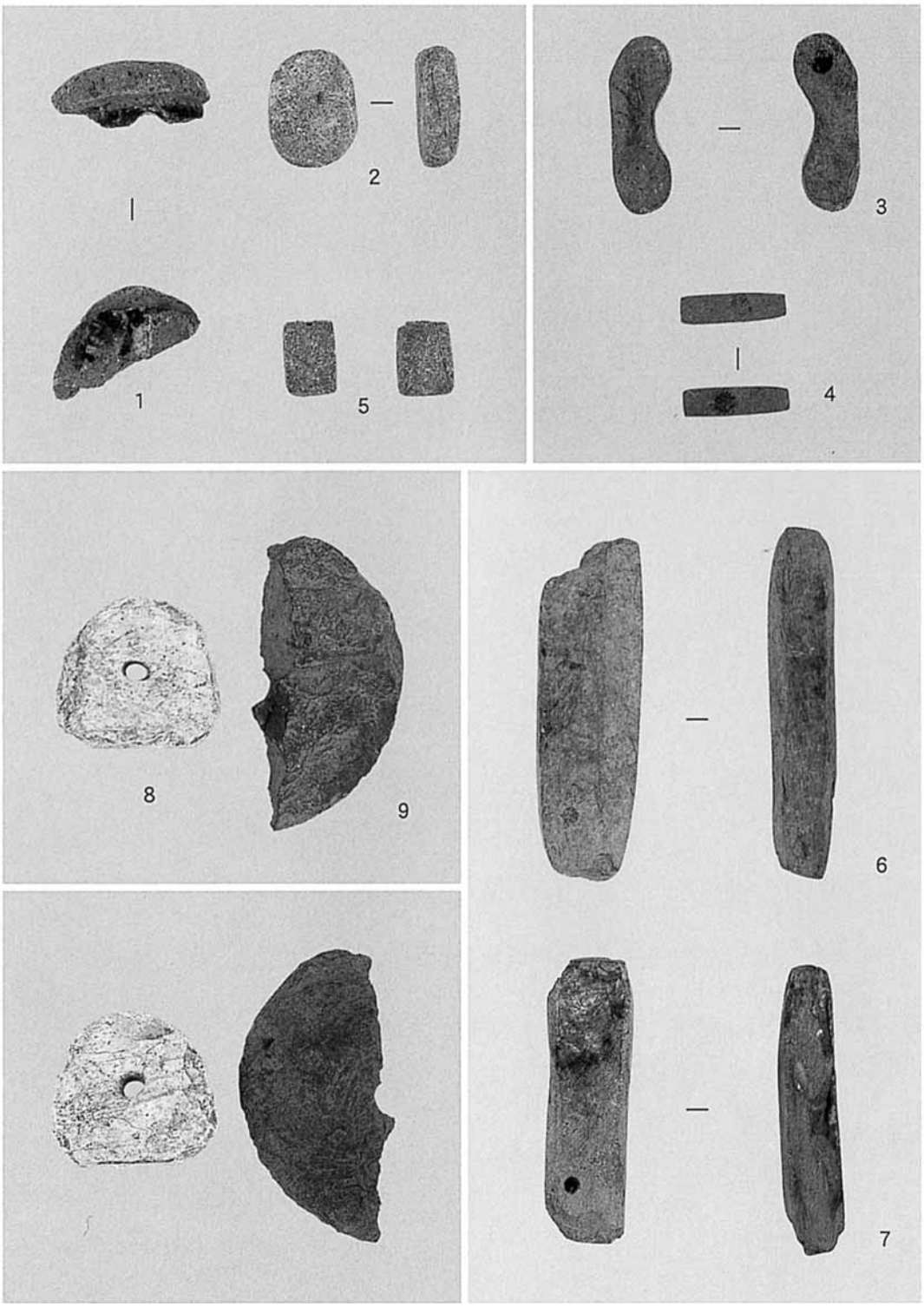
第 109 図 (PL.123)　石器
1 ～ 4. 硯　5 ～ 7. 錘　8. 浮き



PL.123(第 109 図)　石器
1 ～ 4. 硯　5 ～ 7. 錘　8. 浮き



第 110 図 (PL.124)　石器
1. 蓋　2 ～ 9. 用途不明製品



PL.124（第 110 図）　石器
1. 蓋　2 ～ 9. 用途不明製品

第９節　貝製品

貝製品は匙・魚網錘等が確認されている。

①貝匙（第 111 図-1 ～ 9）　貝製の匙はヤコウガイ製のものと二枚貝・巻貝製のものが確認されており材質形態等から３類に大別される。Ⅰ類（同図-1 ～ 5）は作りが比較的丁寧で匙のボール部分が深く柄の部分が魚の尾びれ状になるもので、ａ種：螺肋が消されるもので作りの丁寧なもの（同図-1 ～ 3）、ｂ種：螺肋が消されず作りが雑な仕上げになるもの（同図-４・5）がある。Ⅱ類（同図-6 ～ 9）は螺肋が消されずにボール部が浅くなるもので、ａ種：螺肋が消されるもので作りの丁寧なもの（同図-6・7）、ｂ種：螺肋が消されず作りが雑なもの（同図-8・9）がある。

	貝匙						貝錘	有孔貝製品	不明	計
	Ⅰ類		Ⅱ類		Ⅲ類	計				
	a	b	a	b						
第　Ⅰ　層										
第Ⅱ層上部							1			1
第Ⅱ層下部	1				1	2	2	1	1	8
第　Ⅲ　層										
第　Ⅳ　層										
第　Ⅴ　層		1	1			2				4
第　Ⅵ　層										
第　Ⅶ　層			1			1				2
第　Ⅷ　層										
第　Ⅸ　層										
西　壁　内							1	1	1	3
土　　坑	1	1		2		4				8
不　　明							2	2		4

第 66 表　出土貝製品集計表

②有孔玉飾（第 111 図-14 ～ 17）　巻貝の螺頭部を円盤状に加工して、殻頂部を取り除き孔を穿つものである。研磨加工し貝製玉として利用されたと考えられる[註67]。

③有孔貝製品（第 112 図-1 ～ 6）　シャコガイをの殻頂部を穿孔し、ひも通しの穴を作ることで網の錘とするものである。

④器種不明の貝製品（第 111 図-10 ～ 13）は匙として報告例[註68]もあるが、不明貝製品として取り扱い報告する。同図-10 はヤコウガイの体部を切断しする資料、同図-11 は製品の欠損部分で孔が確認できる資料で、同図-12 は二枚貝をの腹縁部を加工、同図-13 は巻貝の軸部分を利用する匙状の製品である。第 112 図-7 はヤコウガイで製品とは考えられないが体部に穿孔が認められる。ヤコウガイは琉球において重要な交易品として取り扱われ養殖されていたこともあり注目される資料である[註69]。

註文献

67. 勝連町教育委員会編　1990年『勝連城跡』勝連町の文化財第11集

68. 上原　静　1986年「グスク時代遺跡出土の匙」『文化課紀要』3　沖縄県教育庁文化課
　　木下尚子　1981年「貝製容器小考」『南島考古』7　沖縄考古学会

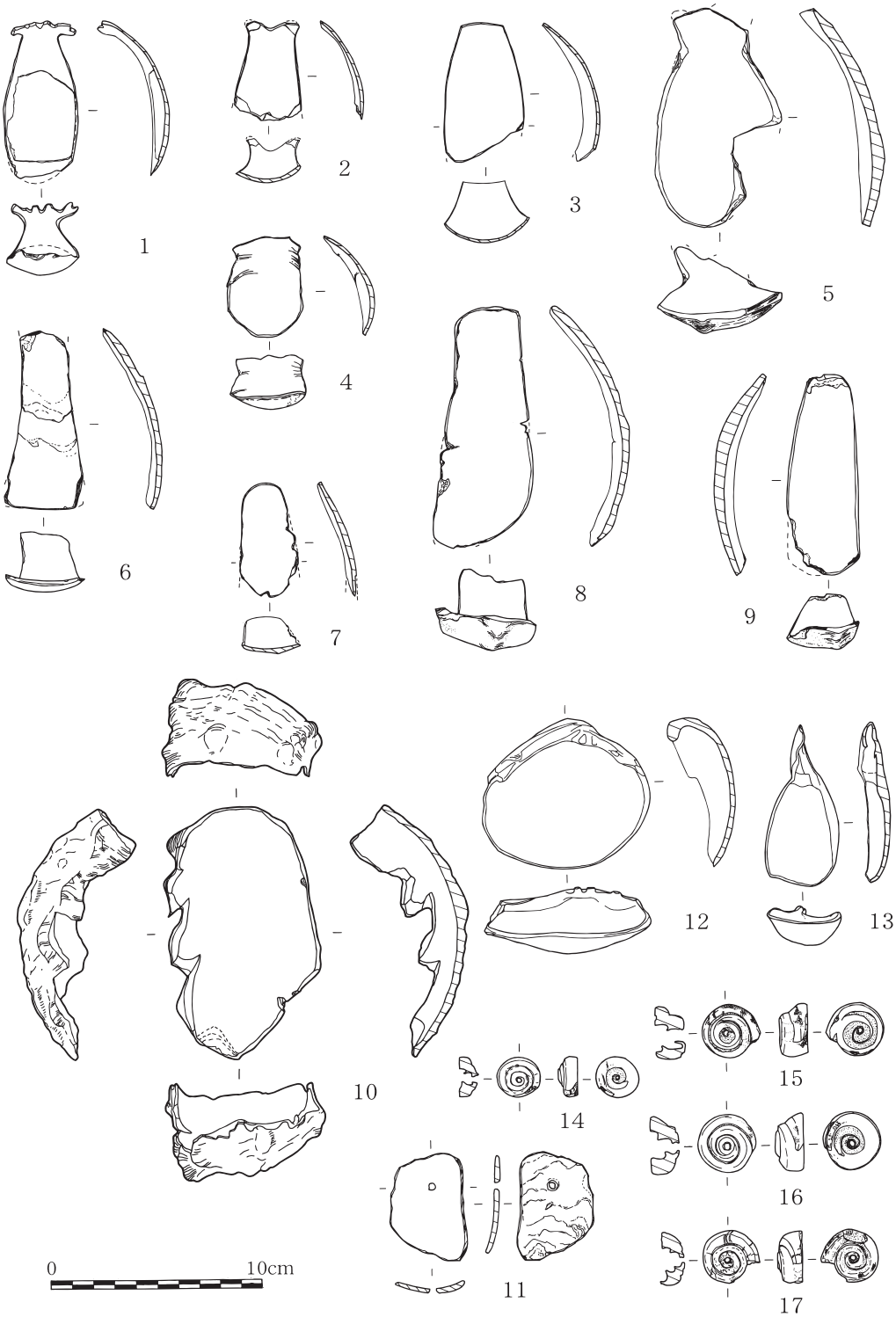
69. 上原　静　1989年「首里城跡出土の貝殻」『考古学ジャーナル』No.311　ニューサイエンス社

図番号 PL.	枝番	出地区 層位	分類	計測値（cm/g） 長さ	幅	重量	貝種	観察所見
第 111 図 PL.127	1	B-1 Ⅱ 30-35	貝匙 ＩＡ	7.7	3.5	13.5	ヤコウガイ	一端を欠くのみでほぼ完形。柄部付け根部がすぼまる。柄部端部はU字状の抉りを５つ入れる。加工は丁寧で、外面の螺肋をほぼ消しきり真珠層におよぶ入念な仕上げ。
	2	E-1 （５坑）	貝匙 ＩＡ	5.0	3.2	5.9	ヤコウガイ	柄端部、身部の一端を欠く。柄端中央部にＶ字状の抉りを入れている。加工は丁寧で、外面の螺肋を完全に消しきるとともに、真珠層まで磨く。

第 67 表　出土貝製品観察表(1)

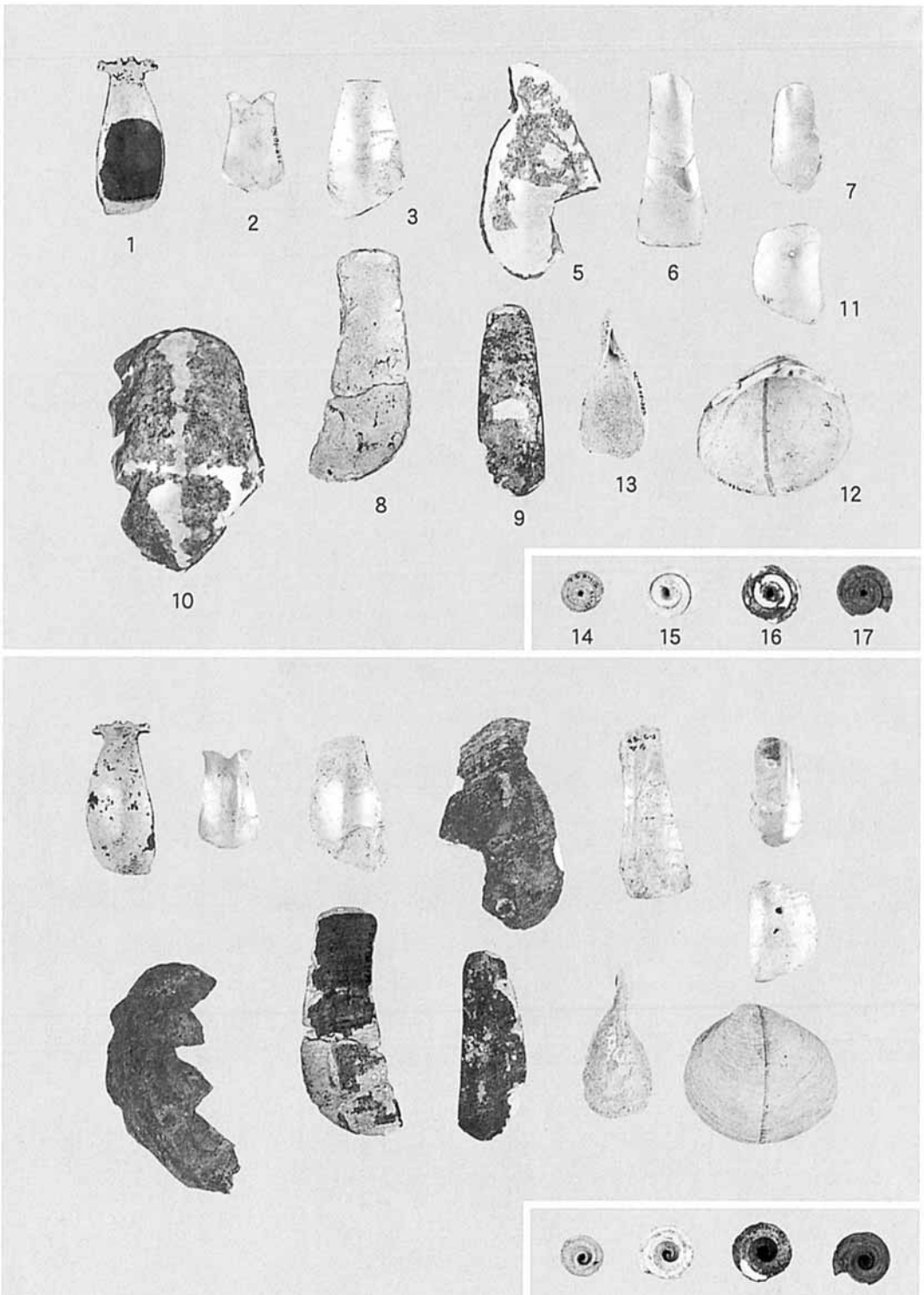
図番号 PL.	枝番	出地区 層位	分類	計測値 (cm/g) 長さ	幅	重量	貝種	観察所見
第111図 PL.127	3		貝匙 IA	6.8	3.8	7.8	ヤコウガイ	先端を欠く。加工は丁寧で、外面の螺肋を完全に消し真珠層まで磨く。
	4	C-2 V層	貝匙 IB	5.0	3.6	6.5	ヤコウガイ	柄部付け根部がすぼまる小形の製品。外面は螺肋を残すが、全体的に丁寧に仕上げる。
	5	A-1 13号土坑	貝匙 IB	10.7	6.0	45.3	ヤコウガイ	柄端部の一端を欠いている。柄付け根がすぼまる。外面の螺肋を残すため加工途上の製品と推測。
	6	C-3 V層	貝匙 IIA	8.8	3.5	14.0	ヤコウガイ	柄端部、身部の一端を欠くのみで、ほぼ完形。加工は丁寧で、内外面とも真珠層まで磨き仕上げる。
	7	D-3 VII層	貝匙 IIA	5.6	2.8	6.7	ヤコウガイ	身、縁辺部を欠く。加工は丁寧で、内外面とも真珠層まで入念に磨き上げている。(柵列跡内)
	8	A-1 VII 25-30	貝匙 IIB	11.7	4.5	27.9	ヤコウガイ	一端を欠くのみで、ほぼ完形に近い。外面柄部は螺肋を残し、身部は比較的丁寧に仕上げる。
	9	13土坑	貝匙 IIB	9.6	3.3	24.1	ヤコウガイ	柄端部、身部の一端を欠くのみで、ほぼ完形に近い。外面は螺肋を残す。
	10	13土坑 40－50	不明	11.9	7.3	97.7	ヤコウガイ	ヤコウガイ体層部の割り取り資料、側面の一端にV字の切りこみが3つ入る。外面の螺肋頂部を避けて切りこみを入れている。外面は完全に螺肋を残し。内面も自然面を残している。製作余上品と推定する。
	11	北側石垣沿 V層	不明	5.1	3.6	8.5	ヤコウガイ	孔を穿つ。内外面ともに螺肋を消し真珠層まで磨いている。貝匙IIAの破片か？
	12	C-3 II 50-60	不明	7.2	7.9	41.0	シレナシジミ	二枚貝を利用した製品で腹縁部を5　程切り取る。内外面とも磨かず、自然のままの状態である。
	13	C-3 II 40-50	貝匙 III	7.6	3.5	18.5	クモガイ	巻貝の軸唇部分を利用したもの。内外ともに自然面が残る。水磨を受けたものと考えられる。
	14	B-1 II 55-60	有孔玉飾	1.9	2.0	3.8	マガキガイ	殻頂部を取り除き、直径0.4cmの孔を穿っている。巻きの終わりを滑らかに加工してある。
	15		有孔玉飾	2.5	2.7	10.4	マガキガイ	殻頂部を取り除き、直径0.7cmの孔を穿っている。下部縁辺部の一端を欠いている。
	16	A-1 13号土坑	有孔玉飾	2.7	2.7	10.5	マガキガイ	殻頂部を除く、0.4cmの孔を穿っている。巻きの終わり部分を加工。
	17		有孔玉飾	2.5	2.7	7.3	マガキガイ	殻頂部を取り除き、直径0.4cmの孔を穿っている。螺頭部、裏面とも著しくひびが入っている。
第112図 PL.128	1	西ヘキ内	貝錘	7.9	10.9	140.0	ヒメジャコ	水磨を受けている。孔は3.8×2.4cmの楕円形。
	2	B-1 II 45-50	貝錘	7.4	10.8	82.9	ヒメジャコ	水磨を受けている。孔は2.1×1.2cmの楕円形。
	3	B-1 II 0-5	貝錘	7.7	10.5	100.0	ヒメジャコ	水磨を受けている。孔は2.4×1.5cmの楕円状をなす。外側縁辺部の一端、孔の縁辺部を欠いている。外側内側ともほぼ自然のままである。
	4	C-VII 2坑	貝錘	7.5	10.1	99.6	ヒメジャコ	水磨を受けている。1.1×1.3cmの孔を穿っている。
	5	不明	貝錘	7.1	13.4	120.0	シラナミ	水磨を受けている。2.1×3.0cmの楕円状の孔を穿っている。
	6	B-1 II 60-65	貝錘	7.7	12.4	140.0	シラナミ	水磨を受けている。2.2×2.0cmの孔を穿っている。
	7	B-1 II 30-35	不明	10.2	7.4	93.2	ヤコウガイ	体層部に1.6×1.5cmの孔を穿っている。

第68表　出土貝製品観察表(2)

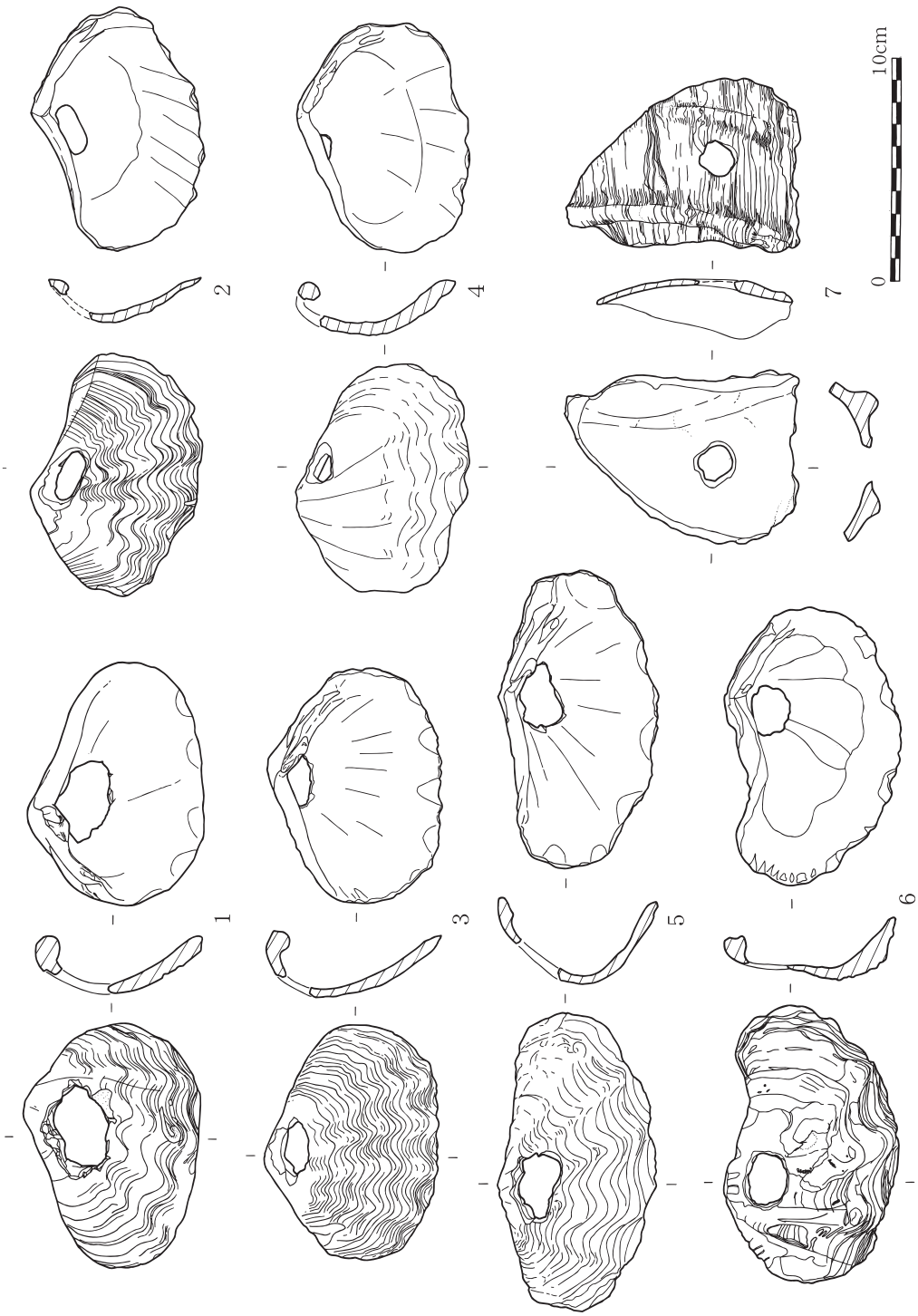


第 111 図 (PL.125)　貝製品

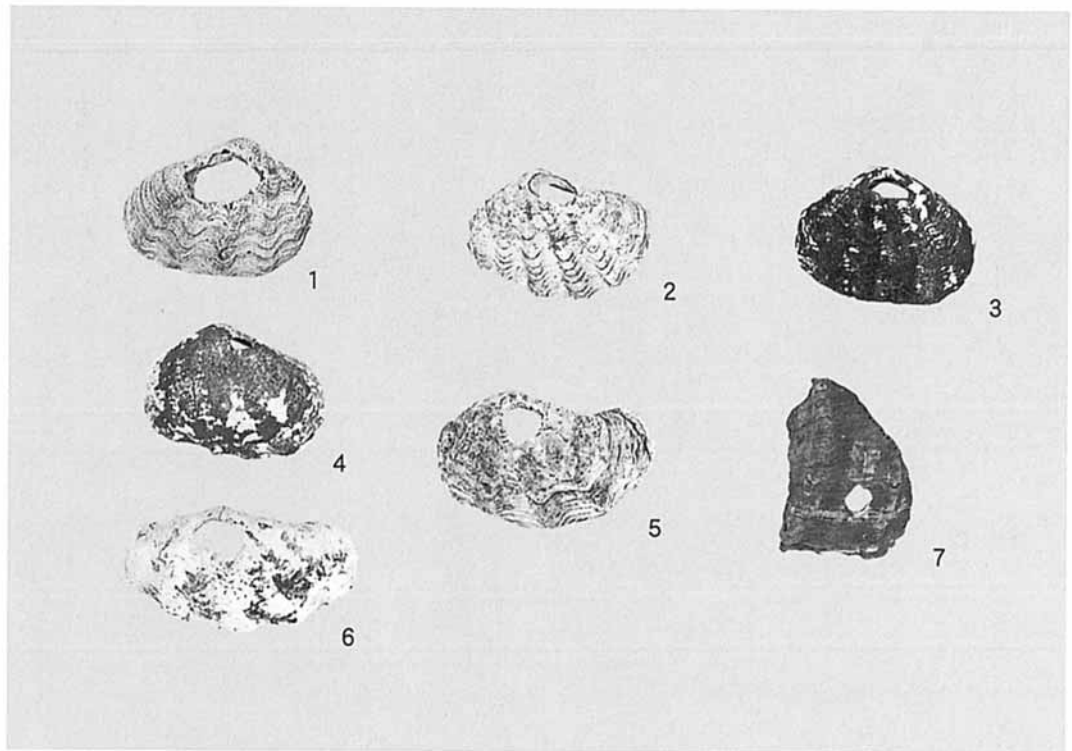
1 ～ 13. 貝匙　14 ～ 17. 有孔貝飾　10・11. 用途不明製品

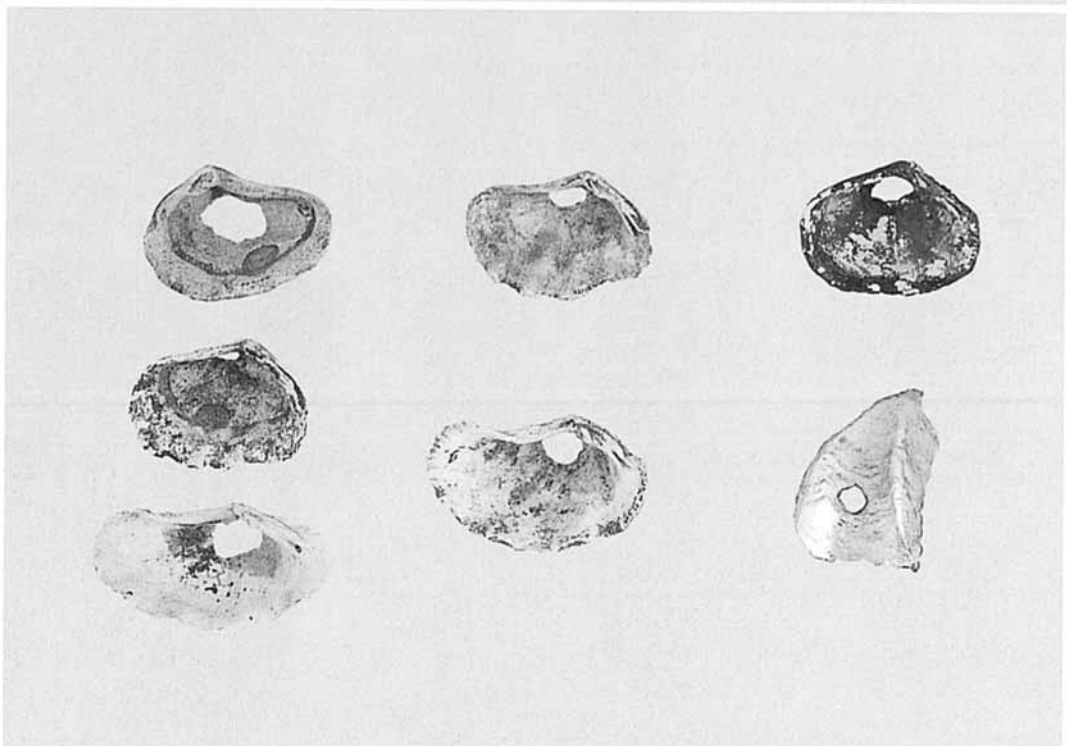


PL.125（第 111 図）　貝製品
1 ～ 13. 貝匙　14 ～ 17. 有孔貝飾　10・11. 用途不明製品



第 112 図 (PL.126)　貝製品　1 ～ 6. 貝錘　7. 有孔ヤコウガイ





PL.126（第 112 図）　**貝製品**　1 ～ 6. 貝錘　7. 有孔ヤコウガイ

第 10 節　骨製品

骨製品は遊具に含めた賽子及び、以下に報告する鏃・ヘラ・針などが確認される。

①骨鏃（第 113 図-1 ～ 3）は刃部の形状が扁平で菱形を作る鏃である。いずれも完成品だが茎が欠損している。類例は勝連城跡[註70]などで検出される。

②有孔製品（同図-4 ～ 11）　同図-4 ～ 11 は魚類の脊椎骨を利用したもので、臼状凹部を両面から穿孔する製品である。同図-7・8 は凸状縁部を研磨し平滑に加工する。

③骨ヘラ（同図-12・13）　いわゆる裁縫用のヘラとされるもので正面観が半月状になる。ウシの肋骨を素材とする。側面を削りだし、弧状になる縁部を研磨付刃する。同図-12 は、中央部に鉄釘が貫通し。同図-13 は完形品で、同図-14 は扁平な骨を材とし、その端部を舌状に加工研磨して刃とする、柄の部分は欠損しているものの扁平なその形状からヘラとして分類した。

④骨針（同図-15 ～ 17）　形状から針、錐、銛などと推測される製品をここで扱う。同図-16 はワシ・タカ類の尺骨を利用したもので、長管骨を斜めに裁断させることで鋭く尖らせている。刃部には横位に線状痕が観察される。同図-15 は牛骨、同図-17 はクジラ骨を素材とした製品で、両者とも先端を尖頭状に加工する。

⑤不明製品（第 114 図）　方柱状に整形する用途不明の模造品や、加工痕を有する未製品と思われる製品をここでは不明製品とし扱った。同図-1 は断面方形に加工され正面観弧状を呈するジュゴン肋骨を利用した製品で、中央部に孔が穿たれている。同様の製品が勝連城跡で類例が報告されている[註71]。同図-2・3 は賽子（第 87 図-1 ～ 4）の製作途上の未製品と、考えられる製品で、同図-2 は方柱状に加工し、長軸と対し垂直に加工痕が残る。同図-3 は断面楕円形のジュゴン肋骨を利用してその稜を平滑にすることで断面形を方柱状に加工、擦り切り技法によって裁断したと考えられ、その途中の様子が良く分かる製品である。同図-4 は断面形が正方形に近いので賽子の未製品の可能性が高いと考えるが検討を要する。同図-6 ～ 8 は骨製品の加工途上の資料と思われるが、それぞれなんの製品の製作途上品かは不明である。同図-6 は断面楕円形、長軸部を扁平に加工、これを裁断したと考えられる。同図-7 は断面楕円形の骨材を整形しないまま擦り切り技法によって裁断する。同図-8 は断面楕円形の短軸部分を平滑にさせることで扁平に加工、これを擦り切り技法によって裁断し製品として加工したと考えられ、上部はその痕跡が観察される。同図 5 は方柱状

	骨鏃	骨玉	ヘラ	骨針	不明	その他	計
第Ⅰ層		1	1		1	1	4
第Ⅱ層上部		3	1		1	1	6
第Ⅱ層下部	3						3
第Ⅲ層							
第Ⅳ層							
第Ⅴ層				1		1	2
第Ⅵ層					1	1	2
第Ⅶ層				1		1	2
第Ⅷ層							
第Ⅸ層				1			1
西壁内						1	1
土坑			1			1	2
計	3	4	3	3	1	1	23

第 69 表　出土骨製品一覧表

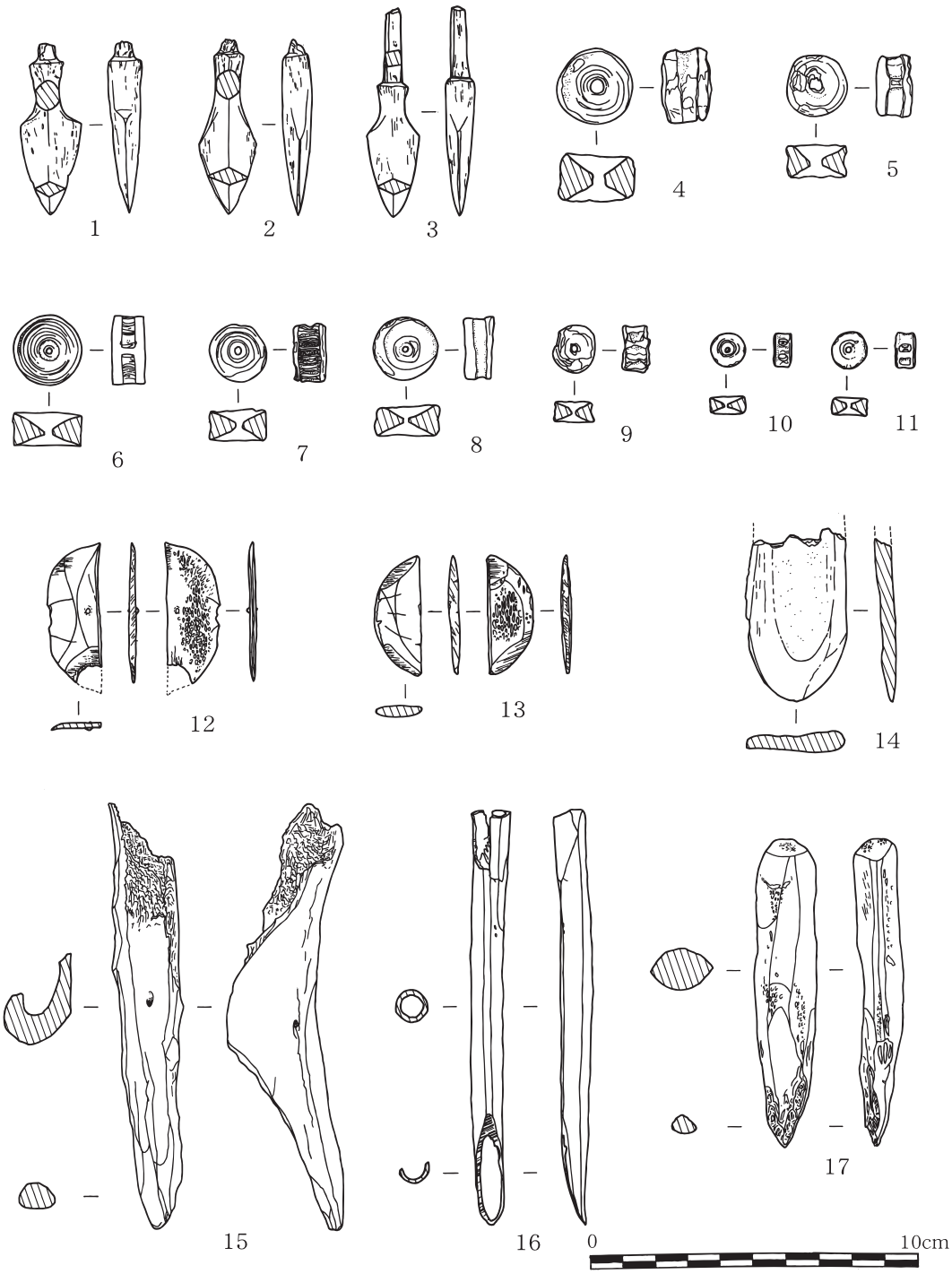
の製品で完成品と考えられる、用途は不明だが同様に方柱状に加工する製品は石製品の中にも見られる。同図-9は下部を欠損する資料でウシの肋骨を使用した製品である。3つの孔を穿つのが確認される。

註文献

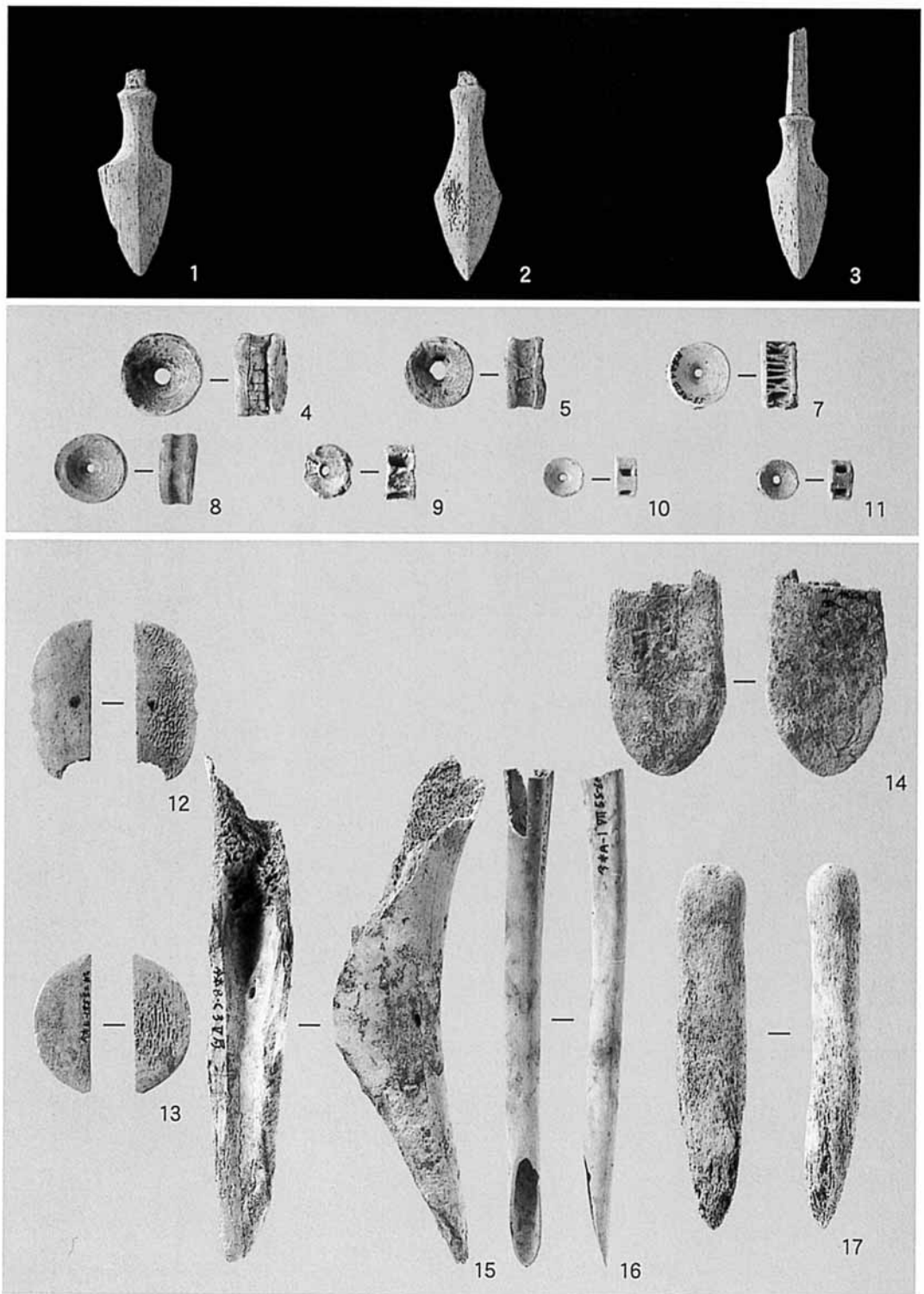
70. 勝連町教育委員会編　1990年『勝連城跡』勝連町の文化財第11集
71. 註70に同じ

図番号	枝番号	分類	計測値（cm・g）				材質	出土地点	層位
			長さ	幅	厚み	重量			
第113図 PL.127	1	骨鏃	5.3	1.9	1.1	4.9	ジュゴン肋骨	B-1	II下
	2	骨鏃	5.3	1.8	0.9	3.8	ジュゴン肋骨	B-1	II下
	3	骨鏃	6.4	1.6	0.9	3.8	ジュゴン肋骨	B-1	II下
	4	有孔製品	外径2.2	孔径0.4	1.4	3.9	魚類椎骨	B-2	II上
	5	有孔製品	外径1.9	孔径0.5	1.0	2.1	魚類椎骨	不明	
	6	有孔製品	外径2.1	孔径0.2	1.0	3.0	魚類椎骨	E-3	II上
	7	有孔製品	外径1.7	孔径0.2	1.0	1.5	魚類椎骨	A-1	VII
	8	有孔製品	外径1.9	孔径0.2	0.9	2.0	魚類椎骨	B-2	I
	9	有孔製品	外径1.5	孔径0.3	0.6	0.7	魚類椎骨	B-2	II上
	10	有孔製品	外径1.1	孔径0.2	0.5	0.4	魚類椎骨	A-1	VII
	11	有孔製品	外径1.1	孔径0.2	0.5	0.4	魚類椎骨	B-2	II上
	12	骨ヘラ	4.1	1.5	0.2	3.0	ウシ肋骨？	B-2	II上
	13	骨ヘラ	3.7	1.4	0.3	2.5	ウシ肋骨？	E-1	5号土坑
	14	骨針	5.0	3.1	0.5	9.1	ウシ肋骨？	B-1	I
	15	骨針	11.4	2.0	2.7	24.6	ウシ肋骨？	B・C-3	V
	16	骨針	12.7	1.0	1.0	4.7	鳥類尺骨	A-1	VII
	17	骨針	9.5	1.9	1.2	16.7	クジラ骨	E-2	IX
第114図 PL.128	1	不明	最大長15.7	孔径0.5	中央0.9	19.4	ジュゴン肋骨	B-1	II上
	2	賽子未製品	7.0	1.0	1.0	8.4	ジュゴン肋骨	C-3	II上
	3	賽子未製品	9.4	1.6	1.4	16.5	ジュゴン肋骨	C-3	II上
	4	未製品	6.5	1.7	1.2	12.2	ジュゴン肋骨	B-1	VI
	5	未製品	3.6	0.8	0.6	2.8	ジュゴン？		
	6	未製品	9.6	2.5	1.3	25.7	ジュゴン肋骨	B-3	西壁内
	7	未製品	4.8	2.7	1.7	24.9	ジュゴン肋骨	E-2	V
	8	模造品	13.5	3.0	1.8	74.0	ジュゴン肋骨	北石垣沿い	VII
	9	模造品	2.0	1.0	0.2	0.6	ウシ肋骨？	A-2	I

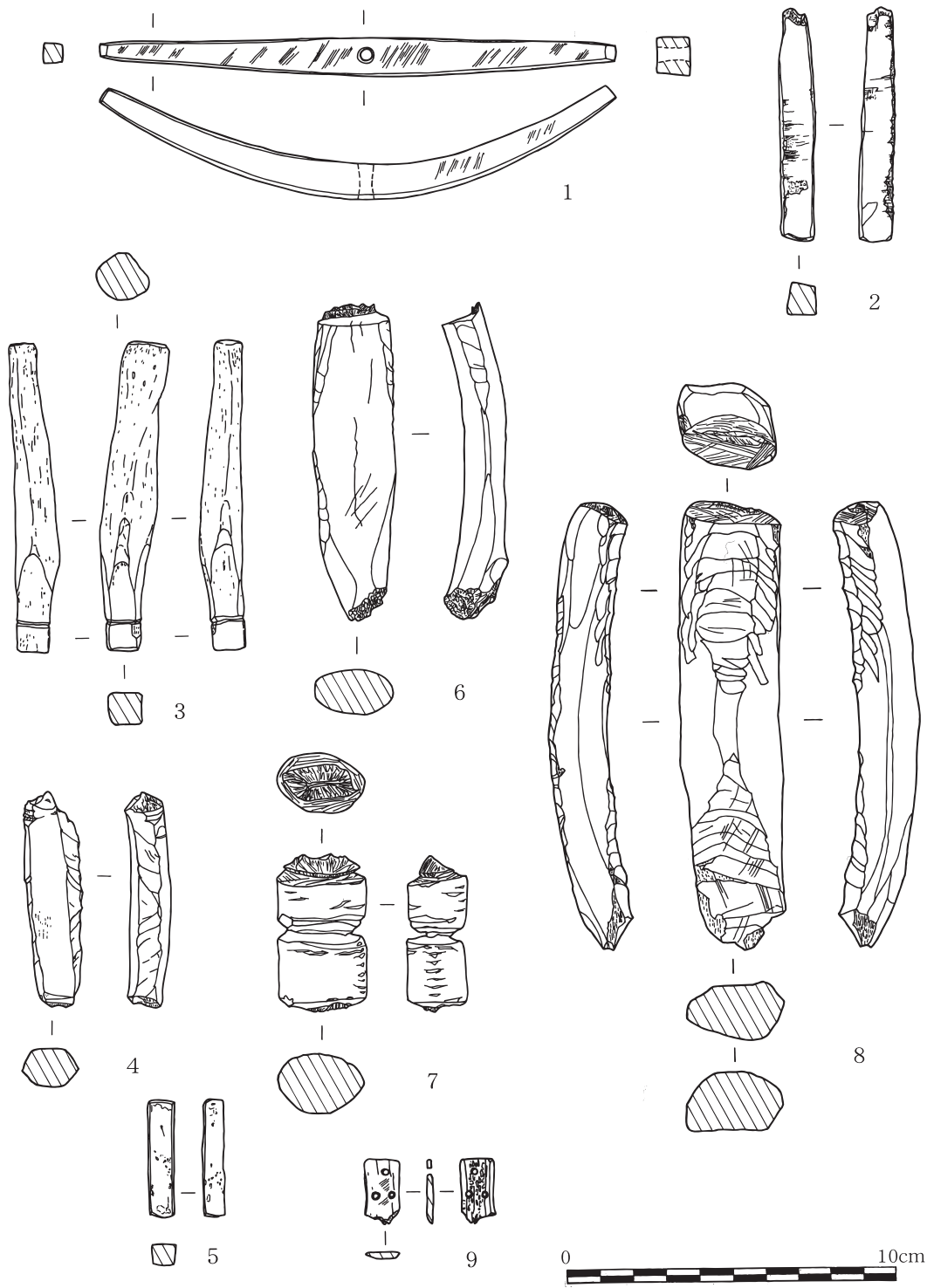
第70表　骨製品観察表



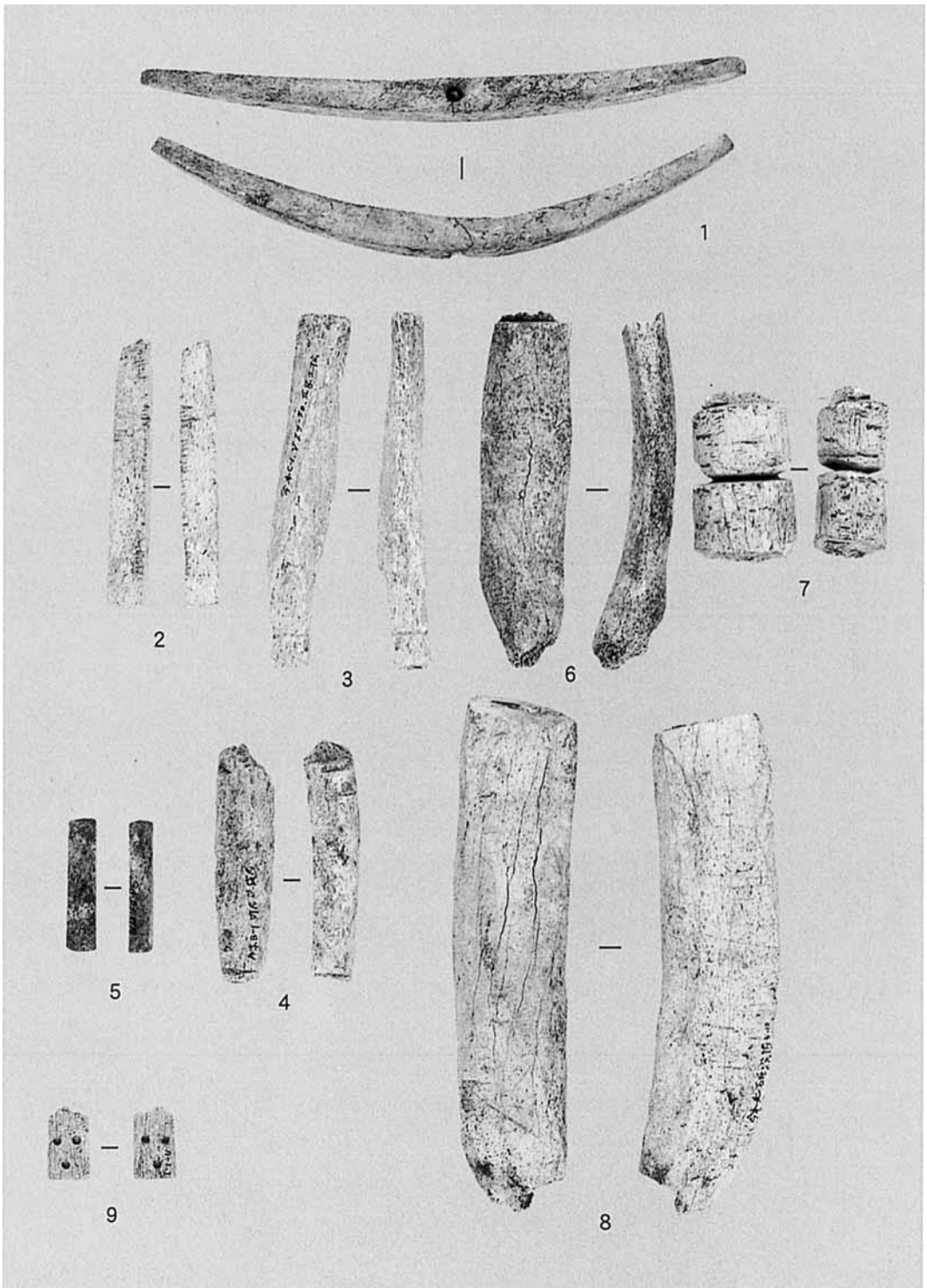
第 113 図 (PL.127)　骨製品　1 ～ 3. 骨鏃　4 ～ 11. 有孔骨製品　12・13. 裁縫用の ヘラ
14. 不明ヘラ状製品　15 ～ 17. 骨針



PL.127(第 113 図)　骨製品　1 ～ 3. 骨鏃　4・5・7 ～ 11. 有孔骨製品　12・13. 裁縫用のヘラ　14. 不明ヘラ状製品　15 ～ 17. 骨針



第 114 図 (PL.128)　骨製品　3. サイコロ未製品　1・2・5・9. 不明製品
6・7・8. 不明の未製品



PL.128(第 114 図)　**骨製品**　3. サイコロ未製品　1・2・5・9. 不明製品
6・7・8. 不明の未製品